

2023年度 活動報告書

法政大学ボランティアセンター

2023年度 法政大学ボランティアセンター 活動報告書 目次

2023年度ボランティアセンター活動報告

巻頭言（内山 政春 全学ボランティアセンター長）	2
ボランティアセンターについて	5

市ヶ谷ボランティアセンターについて

2023年度 市ヶ谷ボランティアセンター活動の概要	6
2023年度 市ヶ谷ボランティアセンター運営委員会	8
2023年度 市ヶ谷ボランティアセンター来室者数集計	9
2023年度 市ヶ谷ボランティアセンター学生団体紹介	10
2023年度 市ヶ谷ボランティアセンターイベントカレンダー	12
2023年度 市ヶ谷ボランティアセンター活動の報告	24

小金井ボランティアセンターについて

2023年度 小金井ボランティアセンター活動の概要、活動総括 (小金井ボランティアセンター長 相原 建人)	110
2023年度 小金井キャンパス ボランティア活動カレンダー（参考）	111
2023年度 小金井ボランティア活動・研究公開サポート制度採択状況（参考）	112

ソーシャル・イノベーションセンター（多摩）について

2023年度 ソーシャル・イノベーションセンターの活動の概要	114
2023年度 ソーシャル・イノベーションセンター学生団体紹介	116
2023年度 ソーシャル・イノベーションセンター活動の報告	117

2023年度採択された助成金一覧・メディア掲載一覧	129
---------------------------	-----

ボランティア活動の振り返りと今後の課題

法政大学ボランティアセンター長
市ヶ谷キャンパスボランティアセンター長
国際文化学部 内山政春

私がこの原稿を書いている2023年3月末現在、マスコミなどで取り上げられる機会がもっとも多いボランティアは、いま能登半島の各地で活動する被災地ボランティアではないでしょうか。そして、地震発生当初、ボランティアとして被災地に赴くことに賛否両論があったのは多くの方々のご存知のことでしょう。

ここで確認しておきたいのは、ボランティアの語源がラテン語 *voluntas* (意志, 欲求, 欲望) にさかのぼるといわれるとおり、「困っている人たちの役に立ちたい, 助けてあげたい」という, 自分自身から湧き起こる気持ちがボランティア活動の出発点にあるということです。私がかつて暮らした2つの国, 韓国と台湾では, ボランティアをそれぞれ「自願奉仕」, 「志工」または「義工」と呼んでいましたが, この漢字表記から想像できるように, ボランティア活動は「要請されて」行なうのが本来の姿ではありませんし, まして企業や営利団体の「ただ働き要員」であってはなりません(そのような誤解にもとづいた依頼がボランティアセンターに来ることもありますますがすべてお断りしています)。ボランティアのあり方が2021年東京オリンピックで物議をかもししたのは記憶に新しいところですし, 2025年大阪万博がかりに予定どおり開催されるのであれば, 決して同じ過ちを繰り返さないでほしいものです。

さて, 法政大学では, 市ヶ谷と小金井の2キャンパスにボランティアセンターを置いています(多摩キャンパスのボランティアセンターは2023年度よりソーシャル・イノベーションセンターとして生まれ変わりました)。多くの活動はキャンパスの特性に合わせてキャンパスごとに行なわれているので, ここでは市ヶ谷キャンパスの状況について簡単に紹介することにいたします。

市ヶ谷ボランティアセンターの活動の多くは, 3つの学生団体が中心になって行なわれています。その学生団体の1つが, 東日本大震災を契機に「東北被災地のために私たちにできることを」という理念で発足した「チーム・オレンジ」です。市ヶ谷ボランティアセンターでは毎年, 「チーム・オレンジ」が企画した「ボランティアツアー」を夏休みに, そして春休みには「スタディツアー」を実施しています。ここで「ボランティア」と「スタディ」がセットになっているのは, 東日本大震災は今の大学生の世代にとっては幼稚園や小学校低学年のころのできごとであり, 実際に被災地を自分の眼で見て, 被災地の人々の話を聞くのが, 被災地で何が望まれているかを理解するのに有益な学びだからです。これは大学での勉強, 研究についても同じことがいえるでしょう。

私は2016~2017年度にもボランティアセンター長をつとめたことがあり, 今回と合わせ, 何度も東北各地を学生たちについて回りました。私ごとになりますが, 私自身は東北地方にはそれまで地縁も血縁もまったくなく, 被災地の荒涼とした, たいへん失礼な表現ながら異様な風景に衝撃を受けました。そして被災地の人々の生活を垣間見ると, 多くのことを学びました。

今年度ははじめての試みとして, これも学生の発案がきっかけとなり, 阪神淡路大震災の被災地をめぐるスタディツアーを実施しました。またもや私ごとで恐縮ですが, 私は多くの親戚が京都や大阪におり, 関西は自分自身にとって身近な地域でした。にもかかわらずそのすぐ隣で起きた震災について実地で学んだのは今回がはじめてでした。そのことを反省するとともに, 阪神淡路大震災という, 今の大学生にとって生まれる前の, 大げさに言えば「歴史」に属するできごとを学ぶためにお小遣いをはたいて参加してくれた多くの学生の姿に接し, 日本の若者はまだまだ捨てたものではない, と感じています。

阪神淡路大震災におけるボランティア活動は日本における本格的なボランティア活動のさきがけであったといわれていますが, 今回のスタディツアーではまさに当事者である神戸大学の学生ボランティア団体と交流を持つことができ, 彼らがすでに能登半島へ赴きボ

ランティア活動を行なっていること、やろうと思えば何かしらやることはあることなどを学びました。大学の活動の一環として能登半島でのボランティア活動を行なうためには超えなければならない壁がありますが、「困っている人たちの役に立ちたい、助けてあげたい」という学生の希望をかなえるために最大限の努力をしていきたいと思っています。

被災地で学んだことを、自分たちの生活に活かしていくこともこれからは大切です。そのために「チーム・オレンジ」では、地震をはじめとする自然災害が起こったときにどう対処するかを学ぶために、大学で災害が起こったと仮定し、負傷者を介助する訓練をしたり非常食を食べたり体育館に寝泊りし、という防災キャンプも行なっています。私も参加しましたが、非常に意義のある活動です。今後より活発化していきたいと思っています。

「チーム・オレンジ」の説明が長くなりましたが、ボランティア活動が日常の大学生活と切り離せない身近なものでもあるのはいうまでもありません。やはり学生団体である「VSP（ボランティア支援プロジェクト）」はそのような観点から、大学キャンパスや近隣の清掃や献血の活動、そして手話やブラインドサッカーなど何らかのハンディキャップを持った人たちの立場を理解する活動（いわゆる健常者が怪我などで松葉杖や車椅子の生活をせざるを得なくなりそこではじめて障害者の立場に気づくというのはよくあることでしょう）、さらに環境保全にかかわる活動まで、ボランティア全般にわたる幅広い活動を行なっています。

もう1つの学生団体が「東京メトロ飯田橋駅ボランティア」です。その名のとおりに、飯田橋駅構内で介助を必要とする利用者への声かけや道案内などを、東京メトロのご協力いただきながら行なっています。異色のボランティア活動とも言えますが、多くの法政大学関係者がお世話になる飯田橋駅で日常的に行なわれるこの活動は、地域貢献と継続性の両者を合わせ持った、ボランティア活動の原点と言えるかもしれません。

上で述べたとおり、私は2016～2017年度に引き続き、2023～2024年度にもボランティアセンターにかかわることになりましたが、そのあいだの多くの期間は、コロナ禍により、特に人と人との関わり合いが基本となるボランティア活動にとってはまことに厳しい時期だったと思います。その困難な時期をボランティアセンター長として支えてくださった法学部伊藤マモル先生、人間環境学部朝比奈茂先生、そして職員や学生スタッフのみなさまに心からの敬意を表します。関係各位におかれましては法政大学ボランティアセンターへ今後ともご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



2024年3月 阪神淡路スタディツアー ふたば学舎にて

ボランティアセンターについて

1 活動内容

(1) ボランティアコーディネート（情報収集／情報提供）

大学に数多く寄せられるボランティア情報を審査し通過したボランティア情報を、掲示板／ラック／ファイリング／メーリングリスト等で学生に公開しています。

(2) ボランティア啓発活動

ボランティアの啓発活動の一環として学生スタッフとボランティアセンター教職員が協力してボランティア講座を実施しています。

(3) ボランティア団体活動支援

ボランティアセンターに所属している学生スタッフが活動を円滑に進めることができるようにボランティアセンターで物品の貸し出しや打ち合わせの参加、各種相談を受け付けています。

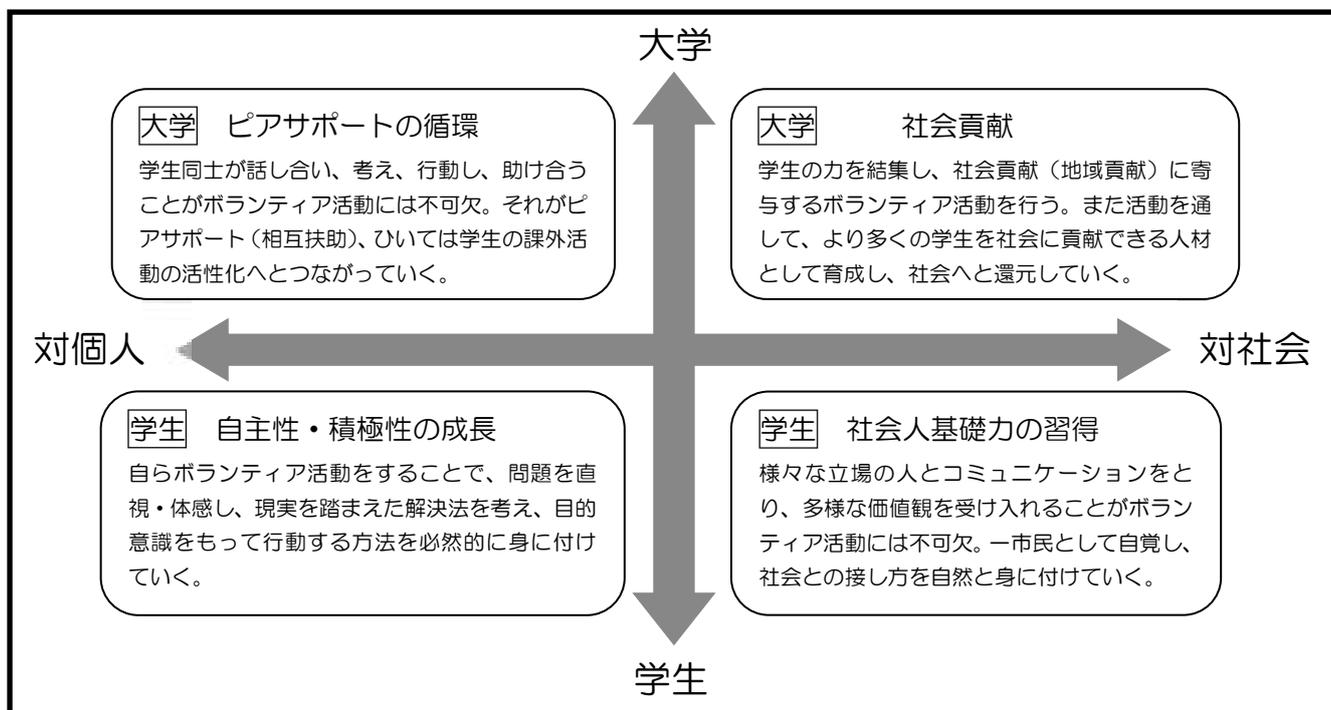
(4) 学内外ネットワークの構築

各キャンパス周辺地域やボランティア活動先の自治体、・教育機関・大学近隣の千代田区などと相互に連携をとり、地域貢献を主とする活動をしています。さらに学生スタッフが中心となり、他大学とも交流をはかっています。

(5) 学生スタッフの募集・育成

学生スタッフと協力したボランティア説明会の開催など学生募集のサポートを行っています。またボランティア活動やボランティア講座の企画、運営を通して学生スタッフの育成もおこなっています。

2 ボランティアセンターの役割



3 ボランティアセンター全学運営委員会

日程：2024年1月26日（金）

議題：各地区からの活動報告、組織変更に伴う規程の改正について、災害学生ボランティアの組織化について、未来教室サティフィケートプログラム実施に伴う学生受け入れについて

市ヶ谷ボランティアセンターについて

2023年度 市ヶ谷ボランティアセンター活動の概要	6
2023年度 市ヶ谷ボランティアセンター運営委員会	8
2023年度 市ヶ谷ボランティアセンター来室者数集計	9
2023年度 市ヶ谷ボランティアセンター学生団体紹介	10
2023年度 市ヶ谷ボランティアセンターイベントカレンダー	12
2023年度 市ヶ谷ボランティアセンター活動の報告	24

2023年度 市ヶ谷ボランティアセンター活動の概要

1 活動目的と活動目標

■活動目的：本学学部生のボランティア活動の促進

■活動目標（2023年度）

- (1) 近隣の大学・施設と連携した新規プログラムの実施
- (2) 震災復興支援・防災啓発活動への取り組みの継続
- (3) 基幹プロジェクトの継続的实施
- (4) 学内イベントの継続的实施
- (5) 学生スタッフの育成
- (6) キャンパスボランティアセンターの連携

2 プログラム数及び学生参加人数

2023年度の活動総プログラム数は186件、学生参加者総数は2,794名となった。プログラムのうち学生募集などを行ったうえで天候により中止又は延期になった企画が4件ある。

3 2023年度活動報告

- (1) 近隣の大学・施設と連携したプログラムの実施
 - a 「千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム」に働きかけを行い「洋服リサイクル」や「一緒に優しい社会を作りませんか？～ダウン症の子と一緒に文化祭をまわろう～」などの企画に参加してもらった。また、三輪田学園様にも引き続き企画にご招待。複数の企画に三輪田学園の生徒の皆様も参加いただいた。
 - b 例年行われている地域のお祭り関係では、「神田すずらん祭り」「MIW祭り」「神保町ブックフェスティバル」などでボランティアを派遣した。また、昨年に引き続き「01u01u 発達障がい児サッカー教室」「手賀沼での外来魚駆除作業」「高円寺子供食堂でのボランティア活動」など千代田区外の団体と協力するボランティア活動も継続し、関係を強化した。
 - c 3大学連携（法政・明治・関西）のプログラムの実施
明治大学 他大学の皆様に案内できるイベントを案内。4企画で合計12名参加。
関西大学 他大学の皆様に案内できるイベントのうち、遠隔で参加できるイベントを案内。3企画で合計28名参加。その他、関西大学主催の琵琶湖の環境保全企画に10名の参加。本学と関西大学合同企画のスポーツゴミ拾い企画では合計26名が参加した。なお、スポーツゴミ拾い企画は2月に実施した。
- (2) 震災復興支援・防災啓発活動への取り組みの継続
 - a 被災地ボランティア、被災地スタディツアーの継続実施
ボランティアセンター学生スタッフが主体となり、「福島被災地スタディツアー」を継続的に実施し、一般学生の被災地に対する理解を深め風化防止に貢献することができた。3月には「阪神淡路スタディツアー」を実施した。「東北被災地ボランティアツアー」に関しては例年通り9月に実施し、合計40名がボランティアを行った。
 - b 学外での防災啓発活動
例年行われている「防災クイズ&ゲーム Day2023in そなエリア東京」に防災ゲーム「ツナグ」を出展し、千代田区講座20周年記念「大学・行政・社協・NPO等4者連携による災害ボランティア育成フォーラム」に登壇するなど、学外での防災啓発活動も活発に行った。
3月のバイラー大学交流企画では、防災食企画と防災ゲームを実施した。
 - c 学内での被災地支援・防災啓発活動の実施
大学で被災したらをコンセプトに学内宿泊訓練である「防災キャンプ」を実施することができた。実際に防災食を食べ、段ボールなどを使用して、寝床を作り大学で宿泊を行った。また起震車で地震体験やAEDや担架の使い方の講習、ボアソナード・タワーでの避難体験も行った。

(3) 基幹プロジェクトの継続的实施

a 東京メトロ飯田橋駅ボランティアの実施

今年度は例年通り6月に研修会を1回実施することができた。駅での見守り活動については1回の活動の人数制限があったが5月に人数制限が撤廃され、学生スタッフが例年以上に活発に駅での見守り活動を実施している。今年は新入生が多く入り新入生の活躍が目立つ。3月には報告会も実施した。

b 継続実施活動

- ・キャンパス周辺清掃及びエコキャップ回収ボランティアについては通年を通して実施できた。また九段・靖国清掃についても年間を通して活動できている。
- ・富士山でのボランティアについては昨年に引き続き2回実施することができた。

(4) 学内イベントの継続的实施

千代田区社会福祉協議会管轄の多世代イベントを開催している「ちよだで多世代交流Ciao!」と共催で複数回地域住民に向けてイベントを実施し、大学と地域住民との親睦を深めた。「大学生とピアノタイム ピアノがつなぐ、多世代の輪!～みんなで奏でてみよう～」等の企画を実施、学内に提供することができた。また、その時々々の情勢に合わせて、オンラインを並行して実施した。

(5) 学生スタッフの育成

a 学生イベントの企画・運営支援

学生スタッフが開催するミーティング（VSP、チーム・オレンジ）への参加や、各プロジェクトの打合せに職員が同席、学生企画の進捗状況を確認し、必要に応じて企画の促進やアドバイス、相談等を行った。

b 昨年に引き続き、入会する学生スタッフと面談を行った。面談では学生スタッフやボランティアセンターの役割、各団体のイベント情報などを案内した。

c 募金ニューズレターへの掲載

寄付者の方がボランティア活動に強い関心を持っていることから、VSP、チーム・オレンジ、東京メトロの代表（取材当時の代表）にQ&A形式で各団体の活動内容や活動にかける思いをニューズレターにまとめたいと依頼があった。2023年12月に募金ウェブサイトへの公開と同時に、紙媒体のニューズレターが寄付者約6,000名に郵送配布された。

d 第7回「自由を生き抜く実践知大賞」に「チーム・オレンジ」「東京メトロ飯田橋駅ボランティア」共に応募し、ノミネートされた。チーム・オレンジは「実践知大賞」を受賞し、東京メトロ飯田橋駅ボランティアは「共感の襷（たすき）賞」を受賞することができた。

e 例年、年2回行われているピアネット研修会は12月に1回実施した。

(6) キャンパスボランティアセンターの連携

六大学連絡協議会を10月に本学主催でZoomを利用して行った。

以上

2023年度 市ヶ谷ボランティアセンター運営委員会

回	日程	参加人数	議 題
第1回	5月8日(月)	10名	<ul style="list-style-type: none"> ・団体共通：ボランティア・KYOPRO 説明会の実施について ・VSP：キャンパスツアー、清掃×防災企画、エコキャップ回収徹底説明、Blind Soccer Project ・チーム・オレンジ：首都圏外郭放水路 ・メトロ：3月以降の活動
第2回	5月29日(月)	8名	<ul style="list-style-type: none"> ・団体共通：神田すずらん祭りへの出展について ・VSP：春の学内献血、子ども企画（学習支援）、川の清掃企画k、富士山森林保全ボランティア、セラピードッグ企画 ・チーム・オレンジ：防災ゲーム day、東北被災地ボランティアツアー、防災キャンプ ・メトロ：5月以降の活動
第3回	6月26日(月)	11名	<ul style="list-style-type: none"> ・VSP：外来魚・外来生物駆除ボランティア、バリアフル社会、森づくりを通して自然環境を考える企画 ・チーム・オレンジ：防災ゲーム day、災害時に役立つ救助セミナー、東北被災地ボランティアツアー、防災キャンプ ・メトロ：6月以降の活動、東京メトロ飯田橋駅ボランティア研修会 ・ボランティアセンター：災害救援ボランティア講座
第4回	8月3日(木)	10名	<ul style="list-style-type: none"> ・VSP：若者の社会サンカク+地域コミュニティ、伝承遊びでタイムスリップ企画 ・チーム・オレンジ：防災ゲーム day、災害時に役立つ救助セミナー、災害ボランティア養成 20周年記念フォーラム、東北被災地ボランティアツアー、防災キャンプ ・メトロ：7月以降の活動
第5回	9月28日(木)	9名	<ul style="list-style-type: none"> ・VSP：音楽企画 withピアノの会、ダウン症企画、外来魚・外来生物駆除ボランティア、浅草清掃企画 ・チーム・オレンジ：レッツボウサイフェス、関東大震災100年イベント、東北被災地ボランティアツアー、防災キャンプ ・メトロ：8月以降の活動 ・ボランティアセンター：HU とのコラボグッズ作成
第6回	11月13日(月)	10名	<ul style="list-style-type: none"> ・VSP：秋の学内献血、MIW 祭り、富士山清掃企画、共生社会をダウン症から考える ・チーム・オレンジ：防災キャンプ、麹町災害対策総合訓練、「市ヶ谷キャンパスで災害が起きたら？大学生にできること、考えよう！」企画 ・メトロ：10月以降の活動 ・ボランティアセンター：ブックフェスティバル、関西大学との合同ボランティア（琵琶湖）
第7回	12月13日(水)	10名	<ul style="list-style-type: none"> ・VSP：手話講座、手話講座特別編、野鳥の会企画、洋服リサイクル企画、冬の学内献血、新宿・市ヶ谷間清掃企画、子ども居場所企画「学びンピック」、農業企画 ・チーム・オレンジ：災害時学生ボランティア研修会、福島スタディツアー ・メトロ：11月以降の活動 ・ボランティアセンター：募金ニュースレター、とっさの時の心配蘇生・非常用階段避難者
第8回	3月22日(金)	10名	<ul style="list-style-type: none"> ・VSP：子ども食堂「クリスマス会」、STOP フードロス、秋葉原清掃きかっく、スポーツ×ゴミ拾い、バイラー大学交流企画、みんなの世界テーブル企画 ・チーム・オレンジ：「学生×防災」非常食を食べよう！企画、バイラー大学交流企画、阪神淡路スタディツアー ・メトロ：1月以降の活動、バイラー大学交流企画、東京メトロ飯田橋駅ボランティア活動報告会 ・ボランティアセンター：千代田区子ども見守り活動、YouTube チャンネル開設

【付記】 ●ボランティア依頼審査は、審査基準（2011年4月作成・一部2019年改定）に照らし合わせて判断。

2023 年度 市ヶ谷ボランティアセンター来室者数集計

月	来室者総数	学生	学生以外	開室日数
4月	307	305	2	19
5月	259	256	3	18
6月	281	278	3	22
7月	159	159	0	20
8月	45	45	0	17
9月	149	149	0	20
10月	278	278	0	21
11月	220	220	0	19
12月	164	162	2	16
1月	136	136	0	17
2月	74	74	0	18
3月	101	101	0	20
合計	2,173	2,163	10	227

※相談数は来室し教職員に何らかの助言を受けた人をカウント
 ※ 3月31日までの集計になっています。

市ヶ谷ボランティアセンター 学生団体紹介 ～学生スタッフのことは～

学生スタッフの視点で行うボランティアの企画・実施

VSP（ボランティア支援プロジェクト）

学生スタッフが興味のある分野のボランティアプログラムの企画を、交渉から携わり進めていきます。環境・福祉・地域貢献など様々なジャンルのボランティア活動を行っています。

2023年度では様々な形でボランティア活動を行い、幅広い分野で貢献し学ぶ機会を得ました。

新しい企画が多く発足し、県外にも赴きました。毎年行っている富士山企画の他に、琵琶湖ツーリズムや農業企画などを実施しました。

農業企画では稲の植え付けや里芋の収穫、ブルーベリーの剪定を手伝いました。大学の近くでも実現可能ですが、群馬まで赴いたことで自然の豊かさや共存の必要性をより強く感じることができました。県外のことを知る重要性を学び視野が広がりました。

一方で今まで行ってきた企画にも力を入れました。定例活動はもちろんのこと、子ども食堂でのボランティアやスポごみ企画、手話講座企画も9回行いました。すすらん祭りという地域の祭りをお手伝いしたり、複数の地域清掃活動や多世代交流企画を実施することで地域コミュニティとの繋がりを深めるとともに、地域社会に貢献しました。

ボランティアに協力して下さった方々と協力し、交流を通じて学生達も成長することができました。

今後もより多くの人々の支援に貢献していきたいと考えています。やりたいことを実現する難しさを噛み締めながら協力し合い、時に手伝って頂きながら様々な活動をしボランティア活動の発展に力を入れていきます。

2023年度 VSP 代表 経営学部経営学科3年 伊藤 萌香

被災地支援・防災に取り組む

チーム・オレンジ

チーム・オレンジは、東日本大震災の被災地・被災者のために「何かしたい」という学生が集まってできた組織です。被災地支援及び防災全般について、学部生に活動の輪を広げるために教職員と協働し、活動しています。

今年度もチーム・オレンジは様々な企画、活動を通じて災害についての知識を得て、それを発信していく防災啓発運動を行っていくことができました。

今年度はやはり、コロナウイルスの予防に対する規制や制限がかなり緩和されたことが、チーム・オレンジの活動において大きいものがありました。制限がなくなったことで、実際に人と関わりながら、学習や啓発活動をより積極的に行っていくことができました。例えば、毎年夏に行っている東北被災地ボランティアツアーにおいて、公営住宅に住む高齢者の方々と交流をすることができました。サンドウィッチやホットケーキを囲んでの交流は、互いに少し気を休めながら、より自然体で交流することができ、そこから現地の方の生の声を伺うことができました。

また例としてもう1つ挙げると、麴町消防署少年団の小中学生に防災ゲームを披露するという防災啓発運動も行うことができました。実際に身をもって体験してもらう事での学びの深まりも大きかったのに加え、実際に楽しく学んでいるところを目の当たりにすることで喜びもありました。

来年度は、今年度以上に防災啓発運動に力を入れ、人々の命を守っていけるような団体でありたいと思います。

2023年度チーム・オレンジ代表 キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科3年 山本 真聖

市ヶ谷ボランティアセンター 学生団体紹介 ～学生スタッフのことば～

大学から一番近い地域貢献

東京メトロ飯田橋駅ボランティア

サービス介助基礎検定の受講を通して高齢者や身体の不自由なお客様の介助方法を学び、飯田橋駅にて見守りや道案内などのボランティア活動を行っています。

2023年度は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う活動人数の制限が撤廃され、元通りの活動ができるようになりました。一方で、昨年度までも活動を継承するための様々な工夫を行っており、それが自由を生き抜く実践知大賞「共感の襷」賞の受賞につながりました。

今年度は、1年生11名・2年生1名が新たに加わりました。昨年度始まったシフト制度を継続し、新しいメンバーも安心して活動できる環境を整えました。結果、自発的に活動するメンバーが複数名生まれました。また、見守り活動で培った力を活かした他の活動や企画を行う機会も増えています。

今年度の反省点は、上半期にメンバーが集まる機会が少なく、新入生同士で交流することができなかったことです。メンバー同士が交流することにより、活動のモチベーションが向上したり新たな活動が生まれたりするため、来年度はより交流する機会を設けます。

今年度、駅での見守り活動における大きな変化は外国人観光客の増加です。今後も増加することが予想されるため、外国語での案内方法もメンバーで周知していきます。お身体の不自由なお客様の介助・ご案内を想定し少人数で始まった当団体ですが、駅利用者のニーズや団体規模の変化により過渡期を迎えています。来年度も、見守り活動を中心に、他の活動やメンバーの交流にも注力し、より活発な団体となるよう努めます。

2023年度東京メトロ飯田橋駅学生スタッフ代表 キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科3年 前田 すみれ



VSP (ボランティア支援プロジェクト)



チーム・オレンジ



東京メトロ飯田橋駅ボランティア

2023 年度市ヶ谷ボランティアセンターイベントカレンダー

NO.	実施日	プログラム	概要
1	4月1日(土)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室	脳性麻痺の子供の CP サッカーのサポート
2	4月3日(月)～ 4月6日(木)	新歓祭	大学で行われている新入生歓迎会
3	4月4日(火)、 4月5日(月)	「学生総合ガイダンス」登壇	新入生向けのガイダンスにボランティアセンター学生スタッフが登壇して、活動紹介・新入生勧誘を行う。
4	4月7日(金)～ 14日(金)	春のボランティア・KYOPRO WEEK	新入生に向けた団体紹介のパネルを1週間掲示
5	4月7日(金)～ 14日(金)	防災食体験(防災食の配布)	千代田区社会福祉会経由でいただいた防災食 200 職分を学生に配布
6	4月8日(土)	2023 年度ボランティア・KYOPRO 合同説明会	新入生に向けた学生スタッフ募集のための説明会・相談会
7	4月10日(月)	バイタルプロジェクト子供食堂ボランティア	NPO 法人バイタルプロジェクトが行っている子供食堂の運営補助ボランティア
8	4月10日(月)	キャンパス周辺清掃	VSP の定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動
9	4月14日(金)	市ヶ谷キャンパスツアー 2023	新入生向けイベント。学生スタッフが新入生のためにキャンパスツアーを企画
10	4月15日(土)	高円寺子供食堂ボランティア	高円寺子供食堂でのボランティア。現在はフードパントリー運営の補助のボランティアを行っている。
11	4月15日(土)	清掃×防災企画	約3キロの道のりで防災の知識を学びながら清掃活動をする企画
12	4月16日(日)	ベイラー大学との意見交換会	ベイラー大学主催の平和について考える企画に V S P 学生スタッフもオンラインで参加
13	4月19日(水)	エコキャップ回収徹底説明! ～ペットボトルがワクチンに変わるまで～	大学でも回収しているエコキャップがどのようにワクチンに変わっていくのかを講義形式で説明、どうすれば多くのエコキャップが集まるかのディスカッションを行い意見交換もした。
14	4月20日(木)	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	地域(千代田区)の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動
15	4月20日(木)	警察との防災啓発活動	広島サミットにおけるテロ防止のための啓発活動
16	4月22日(土)	Blind Soccer Project ～バラスポーツを体験しよう～	ボッチャ、シッティングバレーのバラスポーツ体験と、ブラインドサッカーサッカーからチームビルディングを学ぶ企画
17	4月23日(日)	防災地下神殿見学会 首都圏外郭放水路	首都圏外郭放水路の見学をして、自然災害に対して学ぶ。
18	4月25日(火)	春の献血①	献血バスを呼び、学内献血を実施。
19	4月26日(水)	エコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア
20	4月27日(木)	エコキャップ分別ボランティア	回収したエコキャップの分別ボランティア
21	5月8日(月)	バイタルプロジェクト子供食堂ボランティア	NPO 法人バイタルプロジェクトが行っている子供食堂の運営補助ボランティア
22	5月10日(水) ～11日(木)	春の献血②	献血バスを呼び、学内献血を実施。
23	5月11日(木)	「学習」の貧困～私たちでできること～	学習の貧困とキッズドアの活動について講義とディスカッションを通して学ぶ企画。ボランティアの案内も行う。
24	5月13日(土)	川の清掃ボランティア～荒川の河川敷でゴミ拾いをしよう～	荒川の河川敷を清掃活動する企画。
25	5月14日(日)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室	脳性麻痺の子供の CP サッカーのサポート
26	5月14日(日)	富士山麓自然保全ボランティア	富士山麓での森林保全ボランティア活動
27	5月15日(月)	エコキャップ分別ボランティア	回収したエコキャップの分別ボランティア
28	5月18日(木)	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	地域(千代田区)の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動
29	5月18日(木)	セラピードッグとのつながり	高齢者や入院患者の人体と精神のリハビリに活躍するセラピー犬の現状と課題
30	5月20日(土)	高円寺子供食堂ボランティア	高円寺子供食堂でのボランティア。現在はフードパントリー運営の補助のボランティアを行っている。
31	5月20日(土)	清掃×防災企画	約3キロの道のりで防災の知識を学びながら清掃活動をする企画
32	5月22日(月)	外来魚・外来魚駆除について考えよう!	外来魚・外来生物についての問題点を講義いただき、学生同士で意見交換を行う。実際に6/3に駆除ボランティアの実践へつなげる。
33	5月22日(月)	バイタルプロジェクト子供食堂ボランティア	NPO 法人バイタルプロジェクトが行っている子供食堂の運営補助ボランティア
34	5月25日(木)	キャンパス周辺清掃	VSP の定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動
35	5月26日(金)	東京メトロ飯田橋駅ボランティア 定例会①	東京メトロ飯田橋駅ボランティア活動定例会。学生、メトロの社員の方、職員間で情報共有や活動の報告などを行う。
36	5月27日(土)	第34回神田すずらんまつり	VSP はボッチャ体験、チームオレンジは防災かるた、一般のボランティア活動(ゴミ拾いや交通整備など)が行われた。
37	5月27日(土)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室	脳性麻痺の子供の CP サッカーのサポート

団体名、講師、協力先	場所	法政	共立女子	東京家政	二松学舎	専修	明治	関西	三輪田学園	学生数合計	その他 (職員、オブザーバー等)
特定非営利活動法人 OluOlu、VSP	イトーヨーカドー大井町店屋上	2								2	
VSP、チーム・オレンジ	富士見ゲート5階G501、502教室 外濠校舎3階S305教室	-								0	人の出入りが激しいため未集計
VSP、チーム・オレンジ	外濠校舎6階 さったホール	9								9	
VSP、チーム・オレンジ、東京メトロ飯田橋駅ボランティア、KYOPRO	外濠校舎1階メディアラウンジ	15								15	
チーム・オレンジ	外濠校舎1階メディアラウンジ	200								200	
VSP、チーム・オレンジ、東京メトロ飯田橋駅ボランティア、KYOPRO	大内山校舎6、7階 Y604、Y701～705教室	134								134	
VSP、NPO法人バイタルプロジェクト	荒川区「吉まぐれや」	2								2	
VSP	市ヶ谷キャンパス周辺	12								12	
VSP	市ヶ谷キャンパス	18								18	
高円寺子供食堂	高円寺子供食堂	2								2	
VSP											雨天延期
ペイラー大学、VSP	Zoom	1								1	
NPO法人世界の子どもにワクチンを日本委員会(JCV)、VSP	外濠校舎5階523～526会議室	11	1				3			15	
千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校PTA	靖国通り周辺、九段商店街	7								7	
麹町警察署、九段商店街振興組合	市ヶ谷駅周辺	3								3	
麹町警察署	市ヶ谷駅周辺	3								3	
日本ブラインドサッカー協会、VSP	富士見坂校舎体育館アリーナ(富士見坂校舎4階)	17	12				2			31	
チーム・オレンジ、首都圏外郭放水路	首都圏外郭放水路	27								27	
VSP、日本赤十字社	富士見坂庭園	44								44	内2名は献血できなかった
VSP	外濠校舎、富士見坂校舎	8								8	
VSP	外濠校舎5階527・528会議室	6								6	
VSP、NPO法人バイタルプロジェクト	荒川区「吉まぐれや」	3								3	
VSP、日本赤十字社	富士見坂庭園	89								89	
VSP、NPO法人キッズドア	外濠校舎5階523～526会議室	24	9							33	
VSP	荒川河川敷(葛飾区)	20								20	
特定非営利活動法人 OluOlu、VSP	イトーヨーカドー大井町店屋上	1								1	
VSP、NPO法人富士山クラブ	富士山麓	35	2				2	2		41	
VSP	外濠校舎5階527・528会議室	5								5	
千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校PTA	靖国通り周辺、九段商店街	9								9	
麹町警察署、九段商店街振興組合	外濠校舎5階527・528会議室	24	6							30	
VSP	外濠校舎5階527・529会議室	13								13	
高円寺子供食堂	高円寺子供食堂	2								2	
VSP	新宿御苑から市ヶ谷キャンパス	11								11	
VSP	外濠校舎5階527・529会議室	13								13	
VSP、NPO法人バイタルプロジェクト	荒川区「吉まぐれや」	1								1	
VSP	市ヶ谷キャンパス周辺	16								16	
東京メトロ飯田橋駅ボランティア、東京メトロ	東京メトロ飯田橋研修室	16								16	
VSP、チームオレンジ、神保町応援隊	神保町すずらん商店街	35								35	
特定非営利活動法人 OluOlu、VSP	イトーヨーカドー大井町店屋上	2								2	

NO.	実施日	プログラム	概要
38	5月29日(月)	バイタルプロジェクト子供食堂ボランティア	NPO 法人バイタルプロジェクトが行っている子供食堂の運営補助ボランティア
39	5月30日(火)	発達障害について考える会	発達障害に関して、正しい理解を促し、当事者とどのようにかかわっていくべきか考えを深める場を提供する
40	5月～3月末	チーム・オレンジ & VSP HU コラボグッズ作成企画	チーム・オレンジ、VSP と(株) エイチ・ユーが協同してグッズ販売、作成。デザインは学生が行い、グッズ販売をエイチ・ユーが行った。売り上げの一部は被災地への募金される。
41	6月3日(土)	高円寺子供食堂ボランティア	高円寺子供食堂でのボランティア。現在はフードパントリー運営の補助のボランティアを行っている。
42	6月3日(土)	外来魚・外来魚駆除について考えよう！(駆除活動)	四つ池での外来魚駆除ボランティア活動などを行った。5/22の講義企画と連動しているボランティア活動
43	6月10日(土)	東京メトロ飯田橋駅ボランティア研修会	東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の事前研修
44	6月12日(月)	バイタルプロジェクト子供食堂ボランティア	NPO 法人バイタルプロジェクトが行っている子供食堂の運営補助ボランティア
45	6月13日(火)	バリアブル社会～みんなが笑って暮らせる社会を目指して～ ①	障害者理解を深めるため全3回でバリアフリー社会っを目指すための具体的な内容を学ぶ。1回目は視覚障害者について
46	6月13日(火)	エコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア
47	6月15日(木)	エコキャップ分別ボランティア	回収したエコキャップの分別ボランティア
48	6月15日(木)	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	地域(千代田区)の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動
49	6月17日(土)	高円寺子供食堂ボランティア	高円寺子供食堂でのボランティア。現在はフードパントリー運営の補助のボランティアを行っている。
50	6月17日(土)	災害救援ボランティア講座(第1回)	災害救援ボランティアの基本、災害と防災対策の基本、千代田区社会福祉協議会・区内学生の活動、災害ボランティア活動ケースワーク、被災地での安全衛生
51	6月17日(土)	森づくりを通して自然環境を考える	枯れ木の伐採や薪割りなどの森づくりのボランティア活動
52	6月19日(月)	バイタルプロジェクト子供食堂ボランティア	NPO 法人バイタルプロジェクトが行っている子供食堂の運営補助ボランティア
53	6月20日(火)	バリアブル社会～みんなが笑って暮らせる社会を目指して～ ②	障害者理解を深めるため全3回でバリアフリー社会っを目指すための具体的な内容を学ぶ。2回目は聴覚障害者について
54	6月24日(土)	災害救援ボランティア講座(第2回)	災害救援ボランティアの基本、災害と防災対策の基本、千代田区社会福祉協議会・区内学生の活動、災害ボランティア活動ケースワーク、被災地での安全衛生
55	6月24日(土)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室	脳性麻痺の子供のCP サッカーのサポート
56	6月26日(月)	若者の社会サンカク+地域コミュニティ	デジタル化で取り残される若者が増える中、社会的自立の遅れに着目し、数少ない若者の社会的支援に取り組む講師をお招きし、問題への取り組み方を学んだ。
57	6月27日(火)	バリアブル社会～みんなが笑って暮らせる社会を目指して～ ③	障害者理解を深めるため全3回でバリアフリー社会っを目指すための具体的な内容を学ぶ。3回目は盲ろう者について
58	6月29日(木)	キャンパス周辺清掃	VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動
59	7月1日(土)	災害救援ボランティア講座(第3回)	災害救援ボランティアの基本、災害と防災対策の基本、千代田区社会福祉協議会・区内学生の活動、災害ボランティア活動ケースワーク、被災地での安全衛生
60	7月1日(土)	高円寺子供食堂ボランティア	高円寺子供食堂でのボランティア。現在はフードパントリー運営の補助のボランティアを行っている。
61	7月1日(土)	伝承企画でタイムスリップ	日本の伝承遊び(けん玉、お手玉など)を取り上げ、昔遊びを体験し今後の文化継承について考える
62	7月1日(土)	バイタルプロジェクト子供食堂ボランティア	NPO 法人バイタルプロジェクトが行っている子供食堂の運営補助ボランティア
63	7月2日(日)	防災クイズ&ゲーム Day2023in そなエリア東京	チーム・オレンジが防災クイズ「ツナグ」でブース出展と体験会を行った。
64	7月2日(日)	バイタルプロジェクト子供食堂ボランティア	NPO 法人バイタルプロジェクトが行っている子供食堂の運営補助ボランティア
65	7月2日(日)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室	脳性麻痺の子供のCP サッカーのサポート
66	7月4日(火)	災害時に役立つ救助セミナー	実際にロープワークや簡易担架の作り方などを行い災害時に備える体験を行った。
67	7月8日(土)	千代田区講座 20周年記念「大学・行政・社協・NPO等4者連携による災害ボランティア育成フォーラム～20年の取り組みを振り返り、次の20年へ～」	大学と学生による活動報告とこれからの活動「千代田区内大学と学生による取り組みと今後」について「チームオレンジ」学生3名が体験型防災イベント「防災キャンプ」について防災啓発活動の活動発表。
68	7月11日(火)	エコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア
69	7月13日(木)	エコキャップ分別ボランティア	回収したエコキャップの分別ボランティア
70	7月14日(金)	キャンパス周辺清掃	VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動

団体名、講師、協力先	場所	法政	共立女子	東京家政	二松学舎	専修	明治	関西	三輪田学園	学生数合計	その他 (職員、オブザーバー等)
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	荒川区「吉まぐれや」	7								7	
VSP、NPO 法人発達わんぱく会	外濠校舎 5 階 523 ～ 526 会議室	17	7						13	37	
チーム・オレンジ、VSP (株) エイチ・ユー	法政大学オリジナルグッズショップ他	5								5	
高円寺子供食堂	高円寺子供食堂	1								1	
VSP・手賀沼水生生物研究会	四つ池 (NEC 我孫子事業場内)	5								5	
東京メトロ飯田橋駅ボランティア、東京メトロ、日本ケアフット共有機構	富士見ゲート学生ホール 東京メトロ飯田橋駅	16								16	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	荒川区「吉まぐれや」	2								2	
VSP	富士見ゲート 4 階 G401 教室	9	3							12	
VSP	外濠校舎、富士見坂校舎	4								4	
VSP	外濠校舎 5 階 527・528 会議室	5								5	
千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA 麹町警察署、九段商店街振興組合	靖国通り周辺、九段商店街										雨天中止
高円寺子供食堂	高円寺子供食堂	2								2	
災害救援ボランティア推進委員会	大内山校舎 5 階 Y 504 教室	27								27	
NPO 法人企画樹木・環境ネットワーク協会	千葉おぐらの森	7								7	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	荒川区「吉まぐれや」	1								1	
VSP	富士見ゲート 4 階 G401 教室	8	4							12	
災害救援ボランティア推進委員会	本所防災館 / 大内山校舎 5 階 Y504	27								27	
特定非営利活動法人 OluOlu、VSP	イトーヨーカドー大井町店屋上	1								1	
VSP	外濠校舎 5 階 523 ～ 526 会議室	28	4						7 (中学 1)	39	
VSP	富士見ゲート 4 階 G401 教室	10	5							15	
VSP	市ヶ谷キャンパス周辺	13								13	
災害救援ボランティア推進委員会	大内山校舎 5 階 Y 504 教室	24								24	
高円寺子供食堂	高円寺子供食堂	1								1	
VSP、ちよだで多世代交流 C iao ! (千代田区社会福祉協議会)	千代田区かがやきプラザ	9								9	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	荒川区「吉まぐれや」	1								1	
チーム・オレンジ、一般社団法人防災教育普及協会、東京臨海広域防災公園管理センター	そなエリア東京	5								5	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	荒川区「吉まぐれや」	1								1	
特定非営利活動法人 OluOlu、VSP	イトーヨーカドー大井町店屋上	1								1	
麹町警察署 (東京都千代田区) の警備課	外濠校舎 5 階 523 ～ 526 会議室	7								7	
チームオレンジ、主催：災害救援ボランティア推進委員会 共催：専修大学、千代田区キャンパスコンソーシアム 後援：千代田区 協力：千代田区社会福祉協議会、一般社団法人防災教育普及協会	専修大学神田キャンパス	3								3	
VSP	外濠校舎、富士見坂校舎	8								8	
VSP	外濠校舎 5 階 527・528 会議室	4								4	
VSP	市ヶ谷キャンパス周辺	5								5	

NO.	実施日	プログラム	概要
71	7月15日(土)	高円寺子供食堂ボランティア	高円寺子供食堂でのボランティア。現在はフードパントリー運営の補助のボランティアを行っている。
72	7月19日(水)	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	地域(千代田区)の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動
73	7月12日(火) ～11月30日(木)	本リサイクル企画	9つの支援先を投票で選び集まった本をその支援先に寄付する
74	7月24日(月)	バイタルプロジェクト子供食堂ボランティア	NPO法人バイタルプロジェクトが行っている子供食堂の運営補助ボランティア
75	8月1日(火)～ 8月2日(水)	東北被災地ボランティアツアー(下見)	8月下旬に行われる東北被災地ボランティアツアーの行程の下見、お世話になる方々へのご挨拶・打ち合わせ
76	8月5日(土)	高円寺子供食堂ボランティア	高円寺子供食堂でのボランティア。現在はフードパントリー運営の補助のボランティアを行っている。
77	8月7日(月)	バイタルプロジェクト子供食堂ボランティア	NPO法人バイタルプロジェクトが行っている子供食堂の運営補助ボランティア
78	8月11日(金)	レッツボウサイフェス	さまざまな防災体験を通して、防災関係人口を増やすプロジェクト。パケツリレーや屋台運営のサポートを行った
79	8月21日(月)	バイタルプロジェクト子供食堂ボランティア	NPO法人バイタルプロジェクトが行っている子供食堂の運営補助ボランティア
80	8月26日(土)	関東大震災100年イベント	関東大震災から100年。自助、共助の理解を深め、災害への備えの大切さを知る
81	8月27日(日)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室	脳性麻痺の子供のCPサッカーのサポート
82	8月28日(月)	バイタルプロジェクト子供食堂ボランティア	NPO法人バイタルプロジェクトが行っている子供食堂の運営補助ボランティア
83	8月29日(火)	大学生とピアノタイム ピアノがつなく、多世代の輪！ ～みんなで奏でてみよう～	VSPとちよだで多世代交流Ciao！が協力して実施する音楽を使った多世代交流イベント。演奏はピアノの会に協力いただいた。
84	8月30日(水)	東北被災地ボランティアツアー(事前説明会)	9月初旬に行われる東北被災地ボランティアツアーの説明会
85	8月30日(水)	共生社会をダウン症から考える～講義編	ダウン症から共生社会を考える企画。講義の後、意見交換形式で話し合いをしながらダウン症についての理解を深める
86	9月1日(金)	関東大震災から100年「災害時の避難所運営ゲーム体験会 & キッズ対象震災学習ワークショップ」	自然災害時における大学を拠点とした帰宅困難者支援施設運営ゲーム体験会(KUG)、およびキッズ(小中高生)を対象とした震災時の行動についてのワークショップ
87	9月2日(土)	高円寺子供食堂ボランティア	高円寺子供食堂でのボランティア。現在はフードパントリー運営の補助のボランティアを行っている。
88	9月3日(日)	チーム・オレンジ×麹町消防少年団	消防少年団の子どもたちにチーム・オレンジの活動紹介をし、防災カルタ、HUG、防災ゲーム「ツナグ」を体験してもらった。
89	9月4日(土)	バイタルプロジェクト子供食堂ボランティア	NPO法人バイタルプロジェクトが行っている子供食堂の運営補助ボランティア
90	9月7日(木)～ 9月9日(土)	東北被災地ボランティアツアー(49、50次隊)	東日本大震災の被災地で、講話や施設見学を通して東日本大震災について考える。又被災地支援ボランティア活動を行う。
91	9月10日(日) ～9月12日(火)	東北被災地ボランティアツアー(51、52次隊)	東日本大震災の被災地で、講話や施設見学を通して東日本大震災について考える。又被災地支援ボランティア活動を行う。
92	9月13日(水)	外来魚・外来生物駆除ボランティア	四つ池での外来魚駆除ボランティア活動
93	9月14日(木)	浅草清掃企画	浅草周辺の清掃活動、清掃後は浅草寺やその周辺を観光し、清掃と観光を楽しむ。
94	9月14日(木)	オンライン講座琵琶湖の環境保全琵琶湖ツーリズム！大学生 で考える環境ボランティアの未来2023	琵琶湖の環境保全についての講義、意見交換会
95	9月16日(土)	高円寺子供食堂ボランティア	高円寺子供食堂でのボランティア。現在はフードパントリー運営の補助のボランティアを行っている。
96	9月21日(木)	エコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア
97	9月21日(木)	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	地域(千代田区)の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動
98	9月25日(月)	エコキャップ分別ボランティア	回収したエコキャップの分別ボランティア
99	9月26日(火)	キャンパス周辺清掃	VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動
100	9月27日(水) ～9月28日(木)	秋の献血②	献血バスを呼び、学内献血を実施。
101	9月～3月末	エコキャップ投票箱作成企画	VSPがエコキャップ回収の啓発活動の一環として、投票形式のエコキャップ回収箱を2つ追加作成し設置した。
102	10月1日(日)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室	脳性麻痺の子供のCPサッカーのサポート
103	10月2日(月)	バイタルプロジェクト子供食堂ボランティア	NPO法人バイタルプロジェクトが行っている子供食堂の運営補助ボランティア
104	10月4日(水)	東京メトロ飯田橋駅ボランティア 定例会	東京メトロ飯田橋駅ボランティア活動定例会。学生、メトロの社員の方、職員間で情報共有や活動の報告などを行う。
105	10月7日(土)	千代田区男女共同参画センター 第10回MIW祭り	男女共同参画センターMIWにて、ボランティアセンター団体の活動発表展示。VSPはポッチャを出演
106	10月7日(土)	高円寺子供食堂ボランティア	高円寺子供食堂でのボランティア。現在はフードパントリー運営の補助のボランティアを行っている。

団体名、講師、協力先	場所	法政	共立女子	東京家政	二松学舎	専修	明治	関西	三輪田学園	学生数合計	その他 (職員、オブザーバー等)
高円寺子供食堂	高円寺子供食堂	2								2	
千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合	靖国通り周辺、九段商店街										猛暑のため中止
VSP、ありがとうブック	外濠校舎 1 階、2 階	7								7	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	荒川区「吉まぐれや」	2								2	
チーム・オレンジ、遠野山・里・暮らしネットワーク	岩手県遠野市、陸前高田市、釜石市、大槌町	3								3	
高円寺子供食堂	高円寺子供食堂	2								2	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	荒川区「吉まぐれや」	1								1	
チームオレンジ、NPO 法人防災コミュニティネットワーク	台東区都営住宅敷地内	14								14	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	荒川区「吉まぐれや」	2								2	
東京都	東京都庁	2								2	
特定非営利活動法人 OluOlu、VSP	イトーヨーカドー大井町店屋上	1								1	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	荒川区「吉まぐれや」	1								1	
VSP、ピアノの会、ちよだて多世代交流 C iao ! (千代田区社会福祉協議会)	かがやきプラザ 1 階ひだまりホール	11								11	
チーム・オレンジ、遠野山・里・暮らしネットワーク	富士見ゲート 2 階 G201 教室	36								36	
VSP、NPO 法人アクセプションズ	Zoom	11								11	
共立女子大学	共立女子大学 2 号館	1								1	
高円寺子供食堂	高円寺子供食堂	2								2	
麹町消防署	麹町消防署	6								6	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	荒川区「吉まぐれや」	1								1	
チーム・オレンジ、遠野山・里・暮らしネットワーク	岩手県陸前高田市、大槌町、釜石市	20								20	
チーム・オレンジ、遠野山・里・暮らしネットワーク	岩手県陸前高田市、大槌町、釜石市	20								20	
VSP、手賀沼水生生物研究会	四つ池 (NEC 我孫子事業場内)	11								11	
VSP	台東区浅草駅周辺	24								24	
三大学 (関西・法政・明治) 連携、滋賀県琵琶湖博物館	Zoom	5					5	16		26	
高円寺子供食堂	高円寺子供食堂	2								2	
VSP	外濠校舎、富士見坂校舎	9								9	
千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合	靖国通り周辺、九段商店街										猛暑のため中止
VSP	外濠校舎 5 階 529・530 会議室	2								2	
VSP	市ヶ谷キャンパス周辺	7								7	
VSP、日本赤十字社	富士見坂庭園	143								143	内 35 名は献血できず
V S P	外濠校舎 1 階、2 階	9								9	
特定非営利活動法人 OluOlu、VSP	イトーヨーカドー大井町店屋上	1								1	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	荒川区「吉まぐれや」	1								1	
東京メトロ飯田橋駅ボランティア	東京メトロ飯田橋研修室	4								4	
VSP、チーム・オレンジ、東京メトロ飯田橋駅ボランティア	千代田区役所	7								7	
高円寺子供食堂	高円寺子供食堂	2								2	

NO.	実施日	プログラム	概要
107	10月7日(土) ～10月8日(日)	「もしも」に備える防災キャンプ	防災教育コーディネーター 宮崎賢哉氏、チーム・オレンジ
108	10月10日(火)	手話講座(入門編)①	手話通訳士 中野佐世子氏
109	10月11日(水)	東北被災地ボランティアツアー 事後報告会	東北被災地ボランティアツアー活動後の事後報告会。各隊の実施報告とお世話になった活動先へのお礼状の作成をする。
110	10月14日(土)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室	脳性麻痺の子供のCPサッカーのサポート
111	10月15日(日)	富士山企画(自然保全ボランティア)	富士山での自然保全ボランティアツアー。薪割りや階段作り、道づくり等を行った。
112	10月16日(月)	エコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア
113	10月16日(月)	バイタルプロジェクト子供食堂ボランティア	NPO 法人バイタルプロジェクトが行っている子供食堂の運営補助ボランティア
114	10月17日(火)	エコキャップ分別ボランティア	回収したエコキャップの分別ボランティア
115	10月17日(火)	手話講座(入門編)②	手話講座入門プリント教材を使って歌やゲームを交えて手話の基礎、聴覚障がいについて学ぶ
116	10月18日(水)	麹町災害対策総合訓練	参加団体と救急法・起震車・煙体験・炊き出し訓練等、もしものための身近な備えについての活動
117	10月19日(木)	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	地域(千代田区)の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動
118	10月21日(土)	高円寺子供食堂ボランティア	高円寺子供食堂でのボランティア。現在はフードパントリー運営の補助のボランティアを行っている。
119	10月24日(火)	手話講座(入門編)③	手話講座入門プリント教材を使って歌やゲームを交えて手話の基礎、聴覚障がいについて学ぶ
120	10月28日(土) 29日(日)	第30回 神保町ブックフェスティバル	神保町のブックフェスティバルの運営ボランティア(交通案内、インフォメーションなど)
121	10月31日(火)	キャンパス周辺清掃	VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動
122	10月31日(火)	手話講座(入門編)④	手話講座入門プリント教材を使って歌やゲームを交えて手話の基礎、聴覚障がいについて学ぶ
123	11月3日(金)	共生社会をダウン症から考える～学祭編	ダウン症の子たちを市ヶ谷キャンパスに招いて一緒に学祭を交流を深めながら楽しむ。
124	11月5日(日)	みんなの世界テーブル子ども食堂	VSP みんなの世界テーブル
125	11月6日(月)	市ヶ谷キャンパスで災害が起きたら? 大学生にできること、考えよう!	予期せぬ事態に大学生としてできることを学び、考える。
126	11月7日(火)	手話講座(入門編)⑤	手話講座入門プリント教材を使って歌やゲームを交えて手話の基礎、聴覚障がいについて学ぶ
127	11月11日(土)	野鳥保護区の保全活動	行徳鳥獣保護区で鳥獣保護区についての講話を聞き、清掃活動、野鳥観察をいこなった。
128	11月14日(火)	エコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア
129	11月14日(火)	手話講座(入門編)⑥	手話講座入門プリント教材を使って歌やゲームを交えて手話の基礎、聴覚障がいについて学ぶ
130	11月16日(木)	洋服リサイクル	H&Mの方を講師に招き洋服の現状の課題、不要になった洋服の活用先などの講義を受け、古着回収体験談を紹介し、グループディスカッションを行った。
131	11月16日(木)	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	地域(千代田区)の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動
132	11月18日(土)	高円寺子供食堂ボランティア	高円寺子供食堂でのボランティア。現在はフードパントリー運営の補助のボランティアを行っている。
133	11月19日(日)	法政×関大 琵琶湖ツーリズム! 琵琶湖の環境保全ー琵琶湖ツーリズム! 大学生で考える環境ボランティアの未来 2023	関西大学主催のイベント。関西大学の学生と共に実際に琵琶湖で外来植物の駆除作業を行う
134	11月20日(月)	エコキャップ分別ボランティア	回収したエコキャップの分別ボランティア
135	11月20日(月)	バイタルプロジェクト子供食堂ボランティア	NPO 法人バイタルプロジェクトが行っている子供食堂の運営補助ボランティア
136	11月21日(火)	手話講座(入門編)⑦	手話講座入門プリント教材を使って歌やゲームを交えて手話の基礎、聴覚障がいについて学ぶ
137	11月21日(火) ～22日(水)	冬の献血③	献血バスを呼び、学内献血を実施。学生は案内板などの掲示物の作成・設置・アンケート作成などを行った。
138	11月24日(金)	フードロス～大学祭で廃棄になった食料を寄付しよう～	大学祭で廃棄になった食材や調味料をセカンドハーベストジャパンに送付する。キャンパスエコロジーフォーラムからの依頼を受け、送付はボランティアセンターで請け負った。
139	11月25日(土)	新宿・市ヶ谷間清掃企画	新宿から市ヶ谷キャンパスまでグループに分かれ徒歩で清掃し、ゴミの重さで勝敗を決める。
140	11月25日(土)	バイタルプロジェクト子供食堂ボランティア	NPO 法人バイタルプロジェクトが行っている子供食堂の運営補助ボランティア
141	11月28日(火)	キャンパス周辺清掃	VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動

団体名、講師、協力先	場所	法政	共立女子	東京家政	二松学舎	専修	明治	関西	三輪田学園	学生数合計	その他 (職員、オブザーバー等)
大学構内にて首都直下地震を想定したキャンプ	外濠校舎、市ヶ谷総合体育館	24								24	
手話講座入門プリント教材を使って歌やゲームを交えて手話の基礎、聴覚障がいについて学ぶ	富士見ゲート G 501 教室	45								45	
チーム・オレンジ	大内山校舎Y 406 教室	37								37	
特定非営利活動法人 OluOlu、VSP	イトーヨーカドー大井町店屋上	1								1	
VSP、認定特定非営利活動法人富士山クラブ	富士山麓	33								33	
VSP	外濠校舎、富士見坂校舎	10								10	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	荒川区「吉まぐれや」	1								1	
VSP	外濠校舎 5 階 529・530 会議室	7								7	
手話通訳士 中野佐世子氏	富士見ゲート G 501 教室	45								45	
VSP およびチーム・オレンジ 麹町警察署	日本武道館	12								12	
千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA 麹町警察署、九段商店街振興組合	靖国通り周辺、九段商店街	3								3	
高円寺子供食堂	高円寺子供食堂	2								2	
手話通訳士 中野佐世子氏	富士見ゲート G 501 教室	38								38	
神保町ブックフェスティバル実行委員会	神田すずらん通り、神保町三井ビルディング公開空地	21								21	
VSP	市ヶ谷キャンパス周辺	6								6	
手話通訳士 中野佐世子氏	富士見ゲート G 501 教室	43								43	
VSP、NPO 法人アクセプションズ	市ヶ谷キャンパス	12	1							13	
	千駄ヶ谷社会教育会館	3								3	
チームオレンジ、法政大学人間環境学部 教授高橋五月先生	ポアソナード・タワー 3 階マルチメディアスタジオ	17							10	27	
手話通訳士 中野佐世子氏	富士見ゲート G 501 教室	39								39	
VSP、NPO 法人 NPO 行徳自然ほごくらぶ	行徳鳥獣保護区	15								15	
VSP	外濠校舎、富士見坂校舎	2								2	
手話通訳士 中野佐世子氏	富士見ゲート G 501 教室	35								35	
VSP、H&M 山浦氏	富士見ゲート G 201 教室と Zoom	21							17	38	
千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA 麹町警察署、九段商店街振興組合	靖国通り周辺、九段商店街	3								3	
高円寺子供食堂	高円寺子供食堂	1								1	
関西大学ボランティアセンター	琵琶湖湖畔	10						10		20	
VSP	外濠校舎 5 階 529・530 会議室	7								7	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	荒川区「吉まぐれや」	1								1	
手話通訳士 中野佐世子氏	富士見ゲート G 501 教室	37								37	
VSP、日本赤十字社	市ヶ谷キャンパス	115								115	内献血者数 89 名 (26 名は献血できず)
キャンパスエコロジーフォーラム、セカンドハーベストジャパン	市ヶ谷キャンパス	5								5	
VSP	新宿から市ヶ谷キャンパス間	23								23	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	日暮里駅前広場イベント会場	4								4	参加者の子どもたち 13 名
VSP	市ヶ谷キャンパス周辺	5								5	

NO.	実施日	プログラム	概要
142	11月28日(火)	手話講座(入門編)⑧	手話講座入門プリント教材を使って歌やゲームを交えて手話の基礎、聴覚障がいについて学ぶ
143	7月～11月	本リサイクル	大学内に本リサイクルボックス設置し、回収した本を寄付金として、支援を必要とする団体へ寄付を行った。
144	12月2日(土)	災害時学生ボランティア研修会	東北福祉大学の船渡忠雄氏からの講義の後、避難所運営ゲーム(HUG)を使ったの図上訓練を行った。
145	12月2日(土)	高円寺子供食堂ボランティア	高円寺子供食堂でのボランティア。現在はフードパントリー運営の補助のボランティアを行っている。
146	12月2日(土)	ピアノネット研修会	ピアノネット運営委員会主催が主催するピアノネット組織に所属している学生の研修会。
147	12月3日(日)	農業ボランティア	農作業体験や活動を通して農家の方々の話を伺い、農家の方と大学生の交流を実施
148	12月4日(月)	バイタルプロジェクト子供食堂ボランティア	NPO法人バイタルプロジェクトが行っている子供食堂の運営補助ボランティア
149	12月5日(火)	手話講座特別編	手話講座の特別編として、講師に早瀬氏をお招きし、講演を実施。中野氏、豊田氏には手話通訳をお願いする。
150	12月7日(木)	エコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア
151	12月10日(日)	福島被災地スタディツアー	福島の被災地や伝承館を巡り、東日本大震災での津波被害や原子力災害について学ぶツアー
152	12月11日(月)	エコキャップ分別ボランティア	回収したエコキャップの分別ボランティア
153	12月12日(火)	(ボラセン・庶務課合同企画)とっさの時の心配蘇生・非常用階段避難車の紹介	1人でも多くの教職員にAEDが扱えるようになってもらえるよう、ボラセンが所有するAED訓練機2台、胸骨圧迫訓練用的人形2体を利用し、AED訓練を実施。
154	12月16日(土)	自由を生き抜く実践知大賞表彰式	VSP、チーム・オレンジの活動が自由を生き抜く実践知大賞にノミネートされたため、表彰式に出席
155	12月17日(日)	みんなの世界テーブルクリスマス会	子ども食堂のクリスマスイベントにVSPがボランティアスタッフとして参加
156	12月19日(月)	キャンパス周辺清掃	VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動
157	12月21日(木)	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	地域(千代田区)の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動
158	12月22日(金)	STOPフードロス～私たちにできることとは～	NPO法人日本もったいない食品センターの講師の方をお招きし食品ロスについて考える
159	1月9日(火)	エコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア
160	1月9日(火)	エコキャップ分別ボランティア	回収したエコキャップの分別ボランティア
161	1月15日(月)	キャンパス周辺清掃	VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動
162	1月18日(木)	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	地域(千代田区)の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動
163	1月20日(土)	高円寺子供食堂ボランティア	高円寺子供食堂でのボランティア。現在はフードパントリー運営の補助のボランティアを行っている。
164	1月20日(土)	災害ボランティア講座～いま、知っておきたい災害ボランティアのこと	能登半島で地震が発生したことを受けて、被災地でのボランティアの役割、特に冬場のボランティアの注意点について学ぶ。
165	1月27日(土)	OluOlu発達障がい児サッカー教室	脳性麻痺の子供のCPサッカーのサポート
166	1月29日(月)	バイタルプロジェクト子供食堂ボランティア	NPO法人バイタルプロジェクトが行っている子供食堂の運営補助ボランティア
167	2月3日(土)	高円寺子供食堂ボランティア	高円寺子供食堂でのボランティア。現在はフードパントリー運営の補助のボランティアを行っている。
168	2月3日(土)	OluOlu発達障がい児サッカー教室	脳性麻痺の子供のCPサッカーのサポート
169	2月17日(土)	OluOlu発達障がい児サッカー教室	脳性麻痺の子供のCPサッカーのサポート
170	2月19日(月)	バイタルプロジェクト子供食堂ボランティア	NPO法人バイタルプロジェクトが行っている子供食堂の運営補助ボランティア
171	2月20日(火)	キャンパス周辺清掃	VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動
172	2月21日(水)	非常食を食べよう!	チーム・オレンジ主催の非常食を参加者が試食し、備蓄倉庫の見学や避難所運営ゲームなどを行う。
173	2月26日(月)	秋葉原清掃企画	グループに分かれて秋葉原周辺のゴミを拾い、拾ったゴミの量を競う。清掃を通して社会貢献につなげる。
174	2月26日(月)	バイタルプロジェクト子供食堂ボランティア	NPO法人バイタルプロジェクトが行っている子供食堂の運営補助ボランティア
175	2月27日(火)	法政大学・関西大学コラボ企画 スポーツ×ゴミ拾い	拾ったゴミに点数がついており、拾ったゴミの分だけポイントを加算。取得ポイントを競う新感覚のゴミ拾い企画
176	2月28日(水)	阪神淡路スタディツアー-事前説明会	3/13～15にかけて行われる東北被災地スタディツアーの事前説明会と交流会。
177	3月2日(土)	高円寺子供食堂ボランティア	高円寺子供食堂でのボランティア。現在はフードパントリー運営の補助のボランティアを行っている。
178	3月3日(日)	OluOlu発達障がい児サッカー教室	脳性麻痺の子供のCPサッカーのサポート
179	3月4日(月)	バイタルプロジェクト子供食堂ボランティア	NPO法人バイタルプロジェクトが行っている子供食堂の運営補助ボランティア

団体名、講師、協力先	場所	法政	共立女子	東京家政	二松学舎	専修	明治	関西	三輪田学園	学生数合計	その他 (職員、オブザーバー等)
手話通訳士 中野佐世子氏	富士見ゲート G 501 教室	29								29	
VSP、ありがとうブック	学生センター前	5								5	学内で回収し、寄付した本は39冊
チーム・オレンジ	新宿 NSビル 30階 NSスカイカンファレンス	1								1	
高円寺子供食堂	高円寺子供食堂	2								2	
VSP、チーム・オレンジ、東京メトロ飯田橋ボランティア、その他ピアネットに所属している団体	富士見ゲート G601	41								41	
よいおやさい	群馬県渋川市	20								20	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	荒川区「吉まぐれや」	2								2	
早瀬憲太郎氏、中野佐世子氏(手話通訳士)、豊田直子氏(手話通訳氏)	外濠校舎 5階 529・530 会議室	32				1				33	
VSP	外濠校舎、富士見坂校舎	5								5	
チーム・オレンジ	福島県いわき市、双葉郡双葉町	30								30	
VSP	外濠校舎 5階 529・530 会議室	6								6	
ボランティアセンター、庶務課	BT26階 A 会議室	37								37	
VSP、チーム・オレンジ	外濠校舎 6階 サッタホール	5								5	
みんなの世界テーブル、VSP	代々木の杜	5								5	青山学院 5名、日本女子大学 3名、子ども 29名
VSP	市ヶ谷キャンパス周辺	6								6	
千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA 麹町警察署、九段商店街振興組合	靖国通り周辺、九段商店街	4								4	
NPO 法人日本もったいない食品センター、VSP	オンライン	12				3			5	20	
VSP	外濠校舎、富士見坂校舎	6								6	
VSP	外濠校舎 5階 527・528 会議室	6								6	
VSP	市ヶ谷キャンパス周辺	6								6	
千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA 麹町警察署、九段商店街振興組合	靖国通り周辺、九段商店街	6								6	
高円寺子供食堂	高円寺子供食堂	2								2	
災害救援ボランティア推進委員会	そなエリア東京	1								1	
特定非営利活動法人 OluOlu、VSP	アイルしながわ	1								1	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	荒川区「吉まぐれや」	1								1	
高円寺子供食堂	高円寺子供食堂	1								1	
特定非営利活動法人 OluOlu、VSP	アイルしながわ	1								1	
特定非営利活動法人 OluOlu、VSP	アイルしながわ	2								2	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	荒川区「吉まぐれや」	1								1	
VSP	市ヶ谷キャンパス周辺	14								14	
チーム・オレンジ	富士見ゲート 2階 G201	21								21	
VSP	秋葉原周辺	25								25	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	荒川区「吉まぐれや」	1								1	
VSP、関西大学ボランティアセンター学生スタッフ	外濠校舎 2階 S 205 教室	12						8		20	
チーム・オレンジ	富士見ゲート 2階 G201	35								35	
高円寺子供食堂	高円寺子供食堂	1								1	
特定非営利活動法人 OluOlu、VSP	アイルしながわ	2								2	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	荒川区「吉まぐれや」	2								2	

NO.	実施日	プログラム	概要
180	3月4日(月)～ 6日(水)	バイラー大学との合同ボランティアツアー	海外交流協定大学バイラー大学の学生と日本でのボランティアを体験(清掃活動、子ども食堂、防災食体験、メトロでの見守りボランティアの見学など)
181	3月7日(木)	東京メトロ飯田橋駅ボランティア報告会	学生スタッフに寄る東京メトロ飯田橋駅ボランティア活動報告会
182	3月13日(水) ～15日(金)	阪神淡路スタディツアー	震災学習・風化防止を目的として、阪神・淡路の被災地を巡るスタディツアー
183	3月16日(土)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室	脳性麻痺の子供のCPサッカーのサポート
184	3月17日(日)	料理を通して食品ロスについて考えよう	「社会福祉法人渋谷区社会福祉協議会 子ども支援課子どもテーブル係」様にご協力いただき 実際の料理を通して楽しみながらも食品ロスについて子どもたちに知ってもらうための機会を提供した。
185	3月21日(木)	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	地域(千代田区)の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動
186	3月25日(月)	やってみよう!車いすバスケットボール!	実際に障がい者アスリートが講師となって、スポーツの実演や講義を行う。参加者は車いすバスケットボール体験をすると同時にパラスポーツについて学ぶ。
延べ参加者数			

団体名、講師、協力先	場所	法政	共立女子	東京家政	二松学舎	専修	明治	関西	三輪田学園	学生数合計	その他 (職員、オブザーバー等)
VSP、ベイラー大学、チーム・オレンジ、東京メトロ飯田橋駅ボランティア	上野会議室・浅草周辺・市ヶ谷キャンパス・東京メトロ飯田橋駅	22								22	ベイラー大学学生 10名
東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ、東京メトロ、日本ケアフィット共育機構	富士見ゲート4階 G403教室	13								13	
チーム・オレンジ	阪神淡路	40								40	
特定非営利活動法人 OluOlu、VSP	アイルしながわ	1								1	
VSP、社会福祉法人渋谷区社会福祉協議会みんなの世界テーブル、上智大学学生、立教大学学生	地域交流センター「代々木の杜」(東京都渋谷区代々木)	5								5	上智大学 2名 立教大学 1名他子ども 14名
千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA 麹町警察署、九段商店街振興組合	靖国通り周辺、九段商店街	7								7	
VSP、特定非営利活動法人パラキャン	富士見坂校舎体育館アリーナ (富士見坂校舎 4階)	16								16	
										2,794	

01. エコキャップ分別・回収ボランティア

- 1 日程 2023年4月～2024年1月
- 2 場所 市ヶ谷キャンパス各校舎、ペットボトル回収場所

3 概要

VSPが定例活動として、毎月行っているエコキャップ分別・回収ボランティアは、今年も多くの学生が参加しました。学内で回収されるキャップは、回収可能なキャップとそうでないものに分ける分別活動を行い無料で引き取ってくださる業者さんにお渡しします。そのエコキャップはリサイクル素材の売却益より1kgにつき2円を、世界の子どもたちにワクチンを(JCV)にワクチン購入代金へと寄付されます。キャップを回収する際、数量を記録し回収量の変化をグラフに記録しています。

4 学生参加者数 のべ100名

日程	参加人数	日程	参加人数
4月26日(水)(回収)	8名	10月16日(月)(回収)	10名
4月27日(木)(分別)	6名	10月17日(火)(分別)	7名
5月15日(月)(分別)	5名	11月14日(火)(回収)	2名
6月13日(火)(回収)	4名	11月20日(月)(分別)	7名
6月15日(木)(分別)	5名	12月7日(木)(回収)	5名
7月11日(火)(回収)	8名	12月11日(月)(分別)	6名
7月13日(木)(分別)	4名	1月9日(火)(回収)	6名
9月21日(木)(回収)	9名	1月9日(火)(分別)	6名
9月25日(月)(分別)	2名		

5 企画学生の感想

毎月2回ある活動では、様々な人と会うことができました。初めて参加される方とは自己紹介を兼ねながらお話ししました。どの方からも刺激を受けることができました。何度も参加してくださる方とはエコキャップの回収量の変化や、分別の工夫について話し合いました。活動を運営する私にとっては、とても心強い存在でした。今年度の活動では、84人分ものワクチンに相当するエコキャップを、業者の方にお届けすることができました。普段の活動では成果がすぐに目に見えるわけではありません。しかし、ボランティアのみなさんのおかげで多くの命が助かっています。これからもよりたくさんの方に参加していただけるよう、工夫しながら活動して参ります。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部日本文学科 1年 大江 千歳

6 参加学生の感想

私が大学で初めて行ったボランティアがエコキャップ活動でした。気軽に参加できるこの活動を通してボランティア活動自体への関心がより深まり、また、ペットボトルのキャップという身近なものからでも慈善活動を始めることができるのだという今後への期待とともにボランティア活動の可能性を感じました。活動ではボランティアに興味があるという多くの人と交流することによってボランティアの意義を再認識させられ、活動そのものの楽しさも感じることができました。エコキャップ活動を発端に今後も様々なボランティア活動に興味を向けていきたいと思いました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 経営学部経営学科 1年 山田 悠仁



キャップ回収の様子



エコキャップ分別をする学生

02. キャンパス周辺清掃ボランティア

1 日程 2023年4月～2024年1月（基本は毎月1回 昼休み）

2 場所 市ヶ谷キャンパス周辺（大学周辺、神楽坂、靖国神社周辺）

3 概要

市ヶ谷ボランティアセンター・学生スタッフ VSP 主催。毎月1回、日程や清掃場所を決め清掃をしています。時間は30分、60分両コースを設け、神楽坂や靖国神社周辺などキャンパスの周辺を知ることと目的とし、学生同士の交流という成果も得ることができました。学生スタッフ VSP のメンバーがビニール手袋の使用、少人数でのグループ分けなどをし活動しました。

4 学生参加者数 のべ90名

日程	参加者数
4月10日(月)	12名
5月25日(木)	16名
6月29日(木)	13名
7月14日(金)	5名
9月26日(火)	7名
10月31日(火)	6名
11月28日(火)	5名
12月19日(月)	6名
1月15日(月)	6名
2月20日(火)	14名

5 企画学生の感想

我々 VSP の活動の始まりでもあるキャンパス周辺清掃ですが、参加者の皆様のおかげでここまで継続することができました。昼休みに、気軽に参加できる企画として本企画は好評をいただき、今までに多くの学生に参加していただいています。私自身企画者として、このボランティアを通して様々な方と交流できたことがとても良かったです。大学に入って何かボランティアを始めたいと思う学生は多いと思いますが、それを行動に移すには勇気が必要です。VSP ではそんな学生の皆さんの背中を押すために今後も活動を続けていきますので、キャンパス周辺清掃ではじめの一歩を踏み出してみたいかでしょうか。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 人間環境学部 3年 富島 祐菜

6 参加学生の感想

大学2年次から複数回参加させていただきました。参加する中で、通行人の方から大学名を聞かれたり、お礼を言っていたりして、達成感を味わうことができました。また、通行人の方々だけでなく、他学年・他学部の方とも交流できる素敵なイベントでした。法政大学周辺の土地を知れることも、この活動の魅力だと思います。この活動を通してゴミ拾いボランティアの楽しさを知ったので、大学卒業後もゴミ拾い活動を続けたいと思います。素敵な企画をありがとうございました。

法学部法律学科4年 森田 あかり

市ヶ谷ボランティアセンター・学生スタッフ (VSP) 主催
地域清掃ボランティア
 市ヶ谷キャンパスでは、毎月2回清掃ボランティア活動を行っています。「まずは、最近なところからボランティアがしたい!」「気軽に行けるボランティアがしたい!」という声にこたえ、定期的に開催するボランティアです。

◆ キャンパス周辺清掃 ◆
 法政大学の学生・教職員で、市ヶ谷キャンパス周辺を清掃します。参加者にはもちろんペットボトル飲料をプレゼント!
5月30日 (月)
 12:25~12:55
 12:25~13:25

◆ 九段・靖国地区清掃 ◆
 地域の町会や会館の方、千代田区の職員の皆様と一緒に、地域（トイレ）を兼ねた清掃活動を行います。(毎月20日前後)
5月19日 (木)
 15:30~17:00

※参加ご希望の方は、市ヶ谷ボランティアセンターでお申込みください。
 お申込・お問合せ
市ヶ谷ボランティアセンター (外濠校舎1階・学生センター内)
 【電話】03-3264-9516 【e-mail】ichigayavc-apply@m1.hosei.ac.jp
 【開室】月～金(祝日除く) 9:00～17:00



交流しながらの清掃活動



大学周辺道路を清掃する様子

市ヶ谷ボランティアセンター
活動について
活動の報告

03. 九段・靖国通り地区清掃ボランティア

1 日程 2023年4月～2024年3月（基本は毎月第3木曜日）

2 場所 九段さくら館→靖国通り周辺→市ヶ谷駅周辺→九段さくら館

3 概要

毎月第3木曜日に、千代田区環境安全部および九段環境整備協議会（九段地区の町内会連合）、麹町警察署の職員、九段商店街、九段地域の小学校PTAの方々と共に、九段・靖国通り地区の清掃ボランティア・巡回パトロール活動に参加しています。地域や警察署の方たちと話しをしながら清掃だけではなく、防災の意識や大学周辺の地理や成り立ちなども知ることができ、楽しく地域を知るボランティアとなっています。

4 学生参加者数 のべ39名

日程	参加者数
4月20日（木）	7名
5月18日（木）	9名
6月15日（木）（中止）	雨天のため
7月19日（水）（中止）	猛暑のため
9月21日（木）（中止）	猛暑のため
10月19日（木）	3名
11月16日（木）	3名
12月21日（木）	4名
1月18日（木）	6名
3月21日（木）	7名

5 参加学生の感想

九段・靖国通り地区清掃では、法大生だけでなく地域住民の方々や麹町警察署の方と協力しながら活動しました。活動を通して、普段の学生生活の中では得られないような気づきや大学周辺の地域について知ることができました。また、活動時に警察の方から「普段から地域住民の方々や法政の学生さんが清掃活動してくださっているおかげで、路上のゴミが少なくなってきています。」というお話を伺い、継続して活動を行うことの重要性を感じました。街の環境を良くするだけでなく、法政と周辺地域の方々との良い繋がりを今後も維持するため活動に参加していきたいと思います。

法学部法律学科4年 加藤 大喜



靖国通りでの清掃



飲料ゴミの清掃

市ヶ谷ボランティアセンター・学生スタッフ（VSP）主催
地域清掃ボランティア
 市ヶ谷キャンパスでは、毎月2回清掃ボランティア活動を行っています。
 「まずは、身近なところでボランティアがしたい!」「気軽にできるボランティアがしたい!」という方にぴったりのボランティアです。

◆ **キャンパス周辺清掃** ◆
 法政大学の学生・教職員で、市ヶ谷キャンパス周辺を清掃します。参加者にはもちろんペットボトル飲料をプレゼント!
7月27日（水）
 12:25～12:55
 12:25～13:25

◆ **九段・靖国地区清掃** ◆
 地域の町内会の方、千代田区の職員の方等と一緒に、地域パトロールを兼ねた清掃活動を行います。（毎月20日前後）
7月21日（木）
 15:30～17:00

※九段・靖国清掃参加希望の方は、市ヶ谷ボランティアセンターまでメールでお申し込みください。

— キャンパス周辺清掃の応募はこちらからお待ちしております。

お申込・お問合せ
市ヶ谷ボランティアセンター（外濠校舎1階・学生センター内）
 【電話】03-3264-9516 【e-mail】ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp
 【受付】月～金（祝日除く） 9:00～17:00

04. 高円寺子ども食堂

1 日程 毎月第1、3土曜日

2 場所 高円寺子ども食堂

3 概要

杉並区にある「高円寺子ども食堂」は毎月第1・3土曜日に開かれており、毎回多くの子どもたちや保護者の方が訪れています。今年度も活動内容はフードパントリーのお手伝いを行いました。お菓子やレトルト食品などの袋詰めやお弁当の包装をして、子どもたちにお渡ししました。地域や他大学のボランティアの方とも交流が持てることもあり、今後も継続したい活動の一つとなっています。

4 学生参加者数 延べ 27名

日程	参加者	日程	参加者	日程	参加者
4月15日(土)	2名	8月5日(土)	2名	12月2日(土)	2名
5月20日(土)	2名	9月2日(土)	2名	1月20日(土)	2名
6月3日(土)	1名	9月16日(土)	2名	2月3日(土)	1名
6月17日(土)	2名	10月7日(土)	2名	3月2日(土)	1名
7月1日(土)	1名	10月21日(土)	2名		
7月15日(土)	2名	11月18日(土)	1名		

5 参加学生の感想

子ども食堂に来る方は1人親の家庭や外国人家庭(特に多かったのは東南アジア系の親御さん)など生計が厳しい家庭の方々でした。野菜や卵、お米、お菓子、お弁当などを家庭ごとに詰めて渡す作業でした。最初は訪れた方と上手くコミュニケーションが取れなかったが、一緒に食材をマイバッグに入れながら徐々に打ち解けて笑顔でお別れできました。色々な事情故に経済的に厳しい家庭の人たちと直接触れ合う貴重な機会でした。食材をもらったあと本当に感謝されていました。自分ももらったら嬉しいものばかりだったのでなおさらだと思います。開催場所は高円寺のカトリック教会でした。一緒に作業をしていた高齢の方々にはシスターで、そういう人たちに会うことも新鮮でした。自分が知らない世界を目の当たりした気がします。ボランティアをして人に感謝されて純粋に嬉しかったし、役に立てたのかなと思います。

文学部英文学科1年 吉田 悠汰

昨年1年生の時に参加し、本年度も参加させていただきました。今回は37家庭の方に食材を仕分け、お渡ししました。過去最多の家庭数のようで、ボランティアのみなさんはお疲れのようでした。しかし訪れた方が受け取りに来ると「ありがとう」と感謝の声をかけていただくからか、終わる頃にはみなさん笑顔で活動をしていたのが印象的でした。たくさんの食材を運ぶのは大変でしたが、とても嬉しい気持ちでボランティアを終えることができました。また担当の石川さんにこの活動がどのように成り立っているのかを伺ったところほとんど寄付で賄われているそうで、この食堂もなんとか活動を続けられていることを知りました。個人でも資金を募ることができるそうで、将来自分の所得に余裕ができたならこのような活動に寄付できたら良いなと思いました。

経営学部市場経営学科 ボランティアセンター学生スタッフ VSP2年 渡部 葉奈



活動に参加した学生



配布された食材

05. Oluolu 障がい児サッカー教室

- 1 日程 2023年4月～2024年3月
- 2 場所 品川区中央公園、大井町イトーヨーカドー屋上など
- 3 概要

毎月1～2回(天候などにより異なる)品川区の特定非営利活動法人OluOluの方々が運営を行っているCPサッカー・障がい児サッカー教室に参加しお手伝いさせていただいております。

OluOluのCPサッカー・障がい児サッカー教室は、脳性まひ、もしくは手足に何らかの障がいがあり、独歩ができる小・中学生または、身体の障がいや、発達障害により運動が苦手な子どもたちがスポーツを楽しみ、心も体も笑顔になれる場を提供することを目的としています。

私たちは、理学療法士や児童の発達に関する有識者であるコーチの方々と共に、学生ボランティアとして子どもたちが安全に活動できるようサポートし、子どもたちと一緒に楽しんでサッカーをしています。

4 学生参加者数 延べ 17名

日程 (月1～2回実施)	参加人数 (延べ人数)	日程 (月1～2回実施)	参加人数 (延べ人数)
4月	2名	10月	2名
5月	3名	11月	0名
6月	1名	12月	0名
7月	1名	1月	1名
8月	1名	2月	3名
9月	0名	3月	3名

【Oluoluについて】

Homepage: <https://www.oluolusports.org/>

FB: <https://www.facebook.com/oluolulsports/>

5 参加学生の感想

昨年度から継続して参加させて頂き、子どもたちとの関係も一層深まったと感じています。月に2回という限られた中での活動ではありますが、参加するたびに一人一人に対してどのようにアドバイスを行えば良いか、またどう褒めれば喜んでくれるかなど、考える機会が増えました。新しい仲間も加わり、普段とは異なる場所で活動を行うなど様々な変化があった1年でした。これからもこの活動が継続できると嬉しく思います。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 理工学部経営システム工学科 1年 山本 樹輝



活動の様子



アイルしながわでの活動

06. バイタル・プロジェクト×VSP 子ども居場所企画

1 日程 2023年4月～2024年2月（毎週月曜日・全27回）

2 場所 吉まぐれ屋（荒川区）

3 概要

VSPでは2020年度から、NPO法人バイタル・プロジェクト協力のもと、オンライン上で子どもたちの居場所づくりに取り組んでいます。以前は、新型コロナウイルスの影響により、Zoomを用いた交流を主に行っていましたが、今年度からオンラインでの活動を中止し、実際に子ども食堂のある荒川区の吉まぐれ屋に起き、対面での活動に切り替えました。毎週月曜日に子ども食堂にお弁当を取りに来る子どもたちとクイズや絵しりとり、トランプなどのゲームで交流し、現地での子どもの居場所づくりに取り組みました。11月には、「学びんピック」というスポーツ×勉強イベントを実施し、障害物早押しクイズやチームパズル、ポッチャを通して、世代を超えた学びの機会を提供することができました。今後は、「学びんピック」で得た経験を活かし、新たな学習支援のかたちや地域交流の場を提供できるようなイベントを企画することで、子どもたちの新たな居場所づくりに貢献したいと考えています。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科1年 小林 月琴

4 学生参加者数 延べ39名

5 企画学生の感想

この企画を通して、多くの子どもと触れ合い、今までに無い経験ができたと思う。子ども食堂では一緒にゲームで遊んで楽しみ、学びんピックでは子どもだけにとどまらず多くの方と交流して初対面でも仲を深めることが出来た。対面でのコミュニケーションを多くとることが出来たため、より子どもたちと親密な関係を築けたと思う。これからも子どもたちにとって、そして私たちにとっても居心地のよい”居場所”になるよう活動していきたいと感じた。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部法律学科1年 藤原 心音

この企画には、去年から通じて参加しているため、現地に訪れる小中学生とは顔見知りの関係を築くことができていました。ただ、今年は大学の授業の関係でなかなか毎週の活動に参加することができませんでしたが、休み期間で現地に訪れることができた際は、子どもたちが非常に喜ばしい表情をしてくれたことが、この企画に参加する上でのこの上ないやり甲斐になっていました。外に出てのイベントも行うことができたことから、今後はさらに活動の幅を広げて企画を運営していきたいと感じました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部日本文学科2年 早川 大心



学びんピックの様子



子ども食堂のお弁当

07. 2023 年度ボランティア・KYOPRO 合同説明会

- 1 日程 2023年4月8日(土)
2 場所 大内山校舎7階Y701～705教室

3 概要

今年度もボランティアに関心がある新生に向けて、ボランティアセンターに所属するVSP、チーム・オレンジ、東京メトロ飯田橋駅ボランティアの3団体と、課外教養プログラム(KYOPRO)を合わせた計4団体合同の説明会を実施した。説明会は2部構成となっており、前半は各団体の説明、後半は団体ごとに個別説明会や企画体験などの交流会をおこなった。前半の説明会には、多くの新生が参加し、各団体の活動内容をメモしながら真剣に耳を傾けている様子が見受けられた。後半の交流会にも、たくさんの新生が参加し、やりがいや団体の雰囲気など、具体的な内容を積極的に質問する姿が印象的だった。さらに、交流会中に団体への加入を決断してくれた学生もいた。これは企画学生にとって、今回の説明会のために準備をしたことが実を結んだというやりがいを感じる経験となった。作年まで感染症拡大により、ボランティア活動などに制限がある場面があったが、今年から規制が緩和されることで、活動の幅が広がることが期待される。今回の説明会が、団体に加入した学生だけでなく、参加した新生全員にとって、大学生生活で「はじめの一歩」を踏み出すきっかけになってくれたら嬉しい。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科3年 今給黎 優那

4 参加人数 134名

5 企画学生の感想

説明会当日は100名を越える新生の方々が参加してくだり、後半の時間帯にはKYOPROのブースにも多くの方に来ていただきました。前半の説明会では、KYOPROの活動や魅力を精一杯伝えることができたと感じています。また、後半の時間では新生の方々に企画の案出し体験を行ってもらいました。新生ならではの新しい視点の意見が沢山あり、我々スタッフにとっても大変有意義な時間となりました。今後はこの説明会での学びを生かし、法大生の「知りたい」に応える企画作りに取り組んでいきたいと思えます！

課外教養プログラムプロジェクトスタッフ 経営学部経営学科3年 岩崎 正太郎

100人を超える学生が足を運んでくれて、多くの人がボランティアに対する興味を持ってきていることを嬉しく思いました。説明会の準備の中で自分が所属する団体の活動を振り返り、それを踏まえて今後について考えることが出来たり、他団体の発表を見て情報共有をすることで、自分の団体の参考にしたい部分が見つかったりと、4団体全体にとっても良い機会になったと思います。新生を迎えた新しい仲間との活動が楽しみです。

ボランティアセンター学生スタッフ チーム・オレンジ 文学部哲学科2年 大津 夏帆

ボランティア説明会の準備開始時点で私は1年生で、先輩方に頼ってしまうことも多々ありました。ただ打ち合わせから積極的に意見を伝えることを意識し、実行することができたのではないかと感じています。新生にメロボラの魅力をよりわかりやすく伝えるために資料や言葉遣いに注意して説明会に臨んだので、説明会後に興味を持ってくれた新生が想像以上に多く、やりがいを感じる事ができました。また、他の団体の雰囲気を見ることもでき、刺激になりました。

ボランティアセンター学生スタッフ東京メトロ飯田橋駅ボランティア 文学部日本文学科2年 中山 麻理奈

ボランティアをしてみたい！イベントの企画をしてみたい！
2023年度入学生
ボランティア・KYOPRO
合同説明会

学生センターに所属する「学生団体」についての説明会を開催！
説明会前半は学生スタッフの先輩が団体紹介、後半は各団体の活動や雰囲気に触れてもらう
企画が盛りたくさん、みなさんの参加をお待ちしています！

日時…2023年4月8日(土)
時間…13:30～15:30(途中退席可)
場所…申込者に対してメール配信
申し込み方法…GoogleForm

お申し込みはこちら▼

参加団体

VSP ボランティア全般
チーム・オレンジ 被災地支援・防災啓発
東京メトロ飯田橋駅ボランティア 飯田橋駅見守りボランティア
KYOPRO 課外教養プログラム

お問い合わせ先
市ヶ谷ボランティアセンター(外濠校舎1階学生センター)
TEL...03-3264-9516
MAIL...ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp



多くの新生が参加しました



チーム・オレンジからの説明

08. 市ヶ谷キャンパスツアー 2023

1 日程 2023年4月14日(金)

2 場所 法政大学市ヶ谷キャンパス

3 概要

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフVSPでは、新入生を対象としてキャンパスツアーを企画しました。本企画では新入生がこれからの市ヶ谷キャンパスでの学生生活を快適に過ごせることを目的とし、同じ学生の視点からキャンパス内の各施設の情報を紹介しました。市ヶ谷キャンパスの5つの校舎に加え、図書館や体育館などの施設を巡り、施設の概要のみならず、知っておくと為になる豆知識や法政大学のイベント時のことに絡めて紹介しました。ツアーの時間設定を1時間に設定し、紹介するポイントを絞って説明することにしたため、参加者の求めている情報を紹介できるが懸念でしたが、参加者からの質問に返答する形式で、想定よりもたくさんの情報を伝えられたと思います。また、新入生の学校生活のことや大学生の生活についての相談を聞くなど、想定以上にコミュニケーションが取れる結果となり、新入生の交流の場となったのではないかと思います。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 法学部政治学科3年 薄井 春彦

4 学生参加者数 18名

5 学生の感想

ほとんどの授業が対面となり、キャンパスも賑わっていく中でキャンパスツアーを実施でき、貴重な機会になったと思います。複数回にわたって行ったミーティングでは、企画者で各校舎の紹介すべき場所を出し合い、「早めを知っておきたいこと」を考えてコースを決定しました。当日は、参加者からいくつか質問をいただき、大学の施設を利用するにあたっての豆知識などを共有することができました。新入生の皆さんのこれからの大学生活に、今回のキャンパスツアーが役に立てていれば嬉しいです。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 法学部法律学科2年 宮野 真

6 学生の感想

キャンパスについて把握しておきたいなという軽い気持ちで参加しました。しかし、同じ人間環境学部の子がたくさんいたことと、率いてくれたスタッフさんが人間環境学部の先輩だったこともあり、キャンパスの施設についてだけでなく、ゼミや履修についてもたくさん教えて頂けてとても助かりました。

人間環境学部 人間環境学科1年 宮澤 彩絵



薩埵ホールでの様子



熱心に説明を聞く新入生

市ヶ谷ボランティアセンター
活動について
活動の報告

09. エコキャップ回収徹底説明！

- 1 日程 2023年4月19日(水)
2 場所 外濠校舎5階523～526会議室

3 概要

VSPの定例活動として行っているエコキャップ回収・分別にて集めたエコキャップがどのように業者に引き継がれ、ワクチンに変えられているのかを理解するために本企画を実施した。認定NPO法人 世界の子どもにワクチンを 日本委員会(JCV)の方に実際に現地の子供たちにワクチン投与をしている映像やJCVのCMを見ながら回収したエコキャップがどのように役に立っているのか説明していただいた。その後、ワークショップとして「エコキャップ回収活動を広めるにはどうしたらいいのか」というテーマについて参加者間で話し合い、グループごとに発表してもらった。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 法学部政治学科3年 守 綾乃

4 参加人数 15名

5 企画学生の感想

今まではペットボトルキャップ回収・分別を漫然と行っていました。今回の講演を受けて活動に対する見方が変わりました。日本人が当たり前のように受けているワクチンが届かずに、命を落としてしまう子どもがいるということに心が痛みます。「何のためにボランティアを行っているのかを大切に」という言葉が印象に残っています。今後は、自分のしているエコキャップ活動がワクチンに変わり、途上国の子どもたちの手に渡っていることを意識しながらボランティアを続けていきたいと思えます。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 人間環境学部人間環境学科3年 富島 祐菜

6 参加学生の感想

エコキャップ回収活動は小中高の頃にも学校で行われていて、回収に参加したことはありましたが、「なぜエコキャップ」を回収したことがワクチンの寄付につながるのだろうと疑問を持っていたので、実際のワクチン寄付までの流れを知ることができ、具体的にいくつ集めることでワクチン1つに換算されるのか知れたことでエコキャップ回収への意欲が高まりました。また、グループ活動でどのようにしたらエコキャップ回収活動が広がるかという議論を通して、新しい視点の意見を知ることができて勉強になりました。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 経営学部市場経営学科1年 小室 麻桜

法政大学市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフVSP企画



日時：4月19日(水)
4限(15:00～16:40)
場所：外濠校舎5階 523～526会議室
講師：認定NPO法人 世界の子どもにワクチンを
日本委員会(JCV)
定員：30名

お問い合わせ先

市ヶ谷ボランティアセンター
(外濠校舎1階学生センター)
TEL:03-3264-9516

MAIL:ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp

こちらのQRコードから
お申込みください!



NPO法人JCV様の講義の様子



VSPより最後にエコキャップ回収のご案内をしました

10. HU コラボグッズ作成企画

1 日程 2023年5月～

2 販売場所 法政大学生協同組合、一〇坂校舎1階法政オリジナルグッズショップ（ネットショップ）、大学祭チーム・オレンジ、VSPブース等

3 概要

法政大学では、被災地の人たちへ向けた応援グッズを毎年制作しています。今回の企画では、VSPとチーム・オレンジの合同で、グッズのデザインを担当させていただきました。デザインを考案する段階では、メンバーで案を出し合い、スケッチをするなどしてアイデアを形としました。商品化する際には、価格設定の関係などで思うようなデザインができないという問題が生じることもありました。しかし、HUさんとのミーティングを重ね、自分たちの理想に近い商品が出来上がりました。今回商品化されたのは、どら焼き、ポーチ、サーモステンレスポトル、保冷バッグ、トートバッグの5点です。いくつかの商品は好評をいただいているとのこと、メンバーとしてとてもうれしく思います。なお、売り上げの一部は被災地に寄付されます。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部英文学科 佐々木 澄香

4 企画学生の感想

今回チーム・オレンジさんとのコラボグッズ開発に参加させていただいて、商品開発から販売まで全て自分たちでやるという貴重な体験が出来ました。職員さんや株式会社 HU 様のお力添えもあって、自分たちの考えたアイデアを実際に商品化し、またその商品を学祭で販売するというなかなか普段の生活では体験できないようなことができ、大変刺激的だったと感じています。昔から自由帳に自分の考えたものを描くことが大好きだったので、今回のようなゼロからイチを生み出す体験を通して初心に帰れた気がしました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 経営学部経営戦略学科 1年 坂下 舞

私たち学生のアイデアが実際に商品化されるというのは貴重な経験でした。お互いに意見を出し合い、改善点等話し合うなかでよりよいものをつくりあげ、同時にメンバーとの仲も深められたと思います。職員さんなど様々な方のお力添えをいただきながら素晴らしい商品ができました。意見がぶつかりあったりなかなか時間が合わなかったりと大変なことも少なくありませんでしたが、成長の糧になる経験でした。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 経営学部市場経営学科 1年 小室 麻桜

会議を重ねてデザイン性と機能性にこだわりました。自分自身が使うことを考えて設計に携わったので、大変機能性の良いものになったと思います。デザインに関しては法政大学のキャラクター「えこぴょん」のアピールをこだわり、何度も試行錯誤し力作を作り上げることができました。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ経営学部市場経営学科 1年 西本 創哉



完成したコラボグッズ

11. Blind Soccer Project ～パラスポーツを体験しよう～

- 1 日程 2023年4月22日(土)
2 場所 法政大学富士見坂校舎4階体育館

3 概要

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフVSPでは、パラスポーツへの理解を深めるため、ポッチャとシッティングバレーの体験、日本ブラインドサッカー協会様の協力のもとでブラインドサッカー体験を実施いたしました。今回は法政大学の学生だけでなく、共立女子大学や明治大学などの他大学の学生にも多く参加していただきました。大学、学年、学部がバラバラであり、「チーム内で会話が進まなかったら」と懸念していましたが、ブラインドサッカー協会の方のアイスブレイクや、スポーツをする上での応援や会話を通し、チームの団結力が高まりました。講義終了後には、ブラインドサッカーの選手の方と学生が楽しそうに会話している姿がみられました。学生にとって、パラスポーツに親しみやすい環境を作ることができたのではないかと考えています。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 間環境学部人間環境学科2年 田宮 帆華

4 参加人数 31名

5 企画学生の感想

今回の企画を通し、コミュニケーションを取る上で大切なのは「相手を思いやる心」

だということを学びました。アイマスクをつけて歩くことは想像以上に怖く、何も見えない中で歩くのは本当に難しかったです。法政大学の学生以外にも他大学の方が多く参加してくださいました。チーム内の仲を深めることで安心感が生まれ、最初はまっすぐ歩くこともままならなかったところから、チームメイトの指示を信じて、最終的にはボールを目指して軽く走れるようになりました。この経験を通して、相手に情報を伝えるためには「ちょっと」や「あと少し」といった、人によってとらえ方が異なる言葉は適していないということを知りました。自分がわかっているから相手も理解できると思わず、誰にでも通用する共通の基準の上での言葉を用いる必要があり、今後はどうしたら相手が理解しやすいかということを念頭に置いてコミュニケーションを取っていきたいです。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 国際文化学部国際文化学科2年 藤田 莉子

6 参加学生の感想

シッティングバレーやポッチャなど初めて経験する種目が多かったが、ルールを知るととても楽しくできたので良かった。そして、ブラインドサッカーでは目が見えないという日常では味わえない体験でしたが、必要なのは「思いやり」だな～としみじみ思いました。私も多様性を尊重した社会になってほしいと思っているので、また一つ自分の価値観を広げられて良かったです！

社会学部社会学科4年 齊藤 恵里



シッティングバレーの様子



最後の集合写真

12. 防災地下神殿 首都圏外郭放水路 見学会

- 1 日程 2023年4月23日(日)
- 2 場所 首都圏外郭放水路 埼玉県春日部市上金崎720

3 概要

2023年4月23日に埼玉県の首都圏外郭放水路に行き、「調圧水槽」の見学をしました。この首都圏外郭放水路は、日本の首都圏で水害を軽減するためにつくられた治水のための世界に誇る日本の防災施設です。大雨による洪水で中川、倉松川、大落古利根川等の水位が上昇し、越流堤の高さを越えた時点で、5本の立坑を通じて地下放水路に洪水流入が開始されます。流入した洪水は一時的に地下水路に溜められ、江戸川に流れの影響のないときにポンプで汲み上げられ放流される仕組みです。2002年に一部完成してから、年に7、8回使われているそうです。また、高さ18m、重量500トンの巨大な柱が天井を支える地下の光景が神殿のように見えるため、「地下神殿」と呼ばれています。見学開始まで時間があつたため、首都圏外郭放水路内にある「龍Q館」という施設にいき見学をしました。実際にポンプを動かす「中央操作室」を実際に見ました。この「中央操作室」はウルトラマンコスモスなどのメディア作品の撮影にも使われています。見学時間が始まり、約100段の階段を下り降り、地下神殿内に入りました。中はひんやりとしていて、大きな柱が圧倒的でした。

ボランティアセンター学生スタッフ チーム・オレンジ
キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科3年 影山 絢菜

4 参加人数 27人

5 企画学生の感想

首都圏外郭放水路のことは以前から知っていて、いつか見学したいと思っていました。首都圏外郭放水路周辺には多くの河川があります。洪水被害が発生した際には、それらの河川から大量の水が見学した調圧水槽に送られると聞いた際には、なかなか想像がつかせませんでした。そのようにして私たちの生命を守ることができる場所を見学できてとても有意義な時間になりました。

ボランティアセンター学生スタッフ チーム・オレンジ 法学部政治学科3年 磯網 巴

6 参加学生の感想

首都圏の防災の要である外郭放水路に実際に行って学ぶ良い機会となった。展示室では、外郭放水路内のトンネルを掘った掘削機や、情報を司る中央操作室などに関する展示を説明していただいた。防災だけでなく、普段触れることのない建築や情報の分野に関して自分の知見が広がったように思う。その後に見学した調圧水槽の内部は、そのあまりの大きさに圧倒された。自分の身長よりはるかに高い位置まで水がたまった跡があり、もしこの量の水が首都圏に流れ込んだら考えると空恐ろしい気持ちになった。今回の見学会で、災害の恐怖を再認識したと同時に、その災害から首都圏を守る技術を深く知ることができた。

ボランティアセンター学生スタッフ チーム・オレンジ 文学部地理学科2年 田村 祐希



施設概要の説明を真剣に話を聞く学生



全員で集合写真

13. 献血企画

1 日程 2023年4月25日(火)・5月10日(木) 11日(金)

2 場所 富士見坂庭園

3 概要

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフVSPは、日本赤十字様のご協力のもと今年度も献血を実施しました。法政大学富士見坂庭園で3日間にわたり実施した本企画ですが、初日から40名超の方にお越しいただき、合計で112名の方に参加いただきました。数年前から何度も献血企画を実施していますが、献血バスに空きができなくなるほど、年々多くの学生に参加いただけていると感じています。改めて学生の皆様のご協力に感謝しています。献血に対して、不安や恐怖を抱いている方もいらっしゃるかと思います。そのような方に向けて、少しでも気軽に献血にチャレンジしてもらおうと始動したのが、大学内での献血活動です。献血が必要とされている事実は今も残っています。自分の勇気や行動の一つで、誰か救えることを多くの学生が実感し、献血が活発に行われるようになることを願っています。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 国際文化学部国際文化学科3年
長尾 美紅

4 参加人数 133人(内献血者数112人、21名は献血できず)

5 参加学生の感想

・献血は今回が初めてという事で、少し緊張もしていたのですが、スタッフの方が親切に接してくれたおかげで、リラックスして臨む事が出来ました。痛みもほとんど感じず、飲み物やお菓子なども準備して下さっていてとても有り難かったです。献血の流れも掴む事が出来、良い経験になりました。是非また献血に協力し、誰かの役に立ちたいと感じました。ありがとうございました。

・血液型が知りたいという興味本位で初めて献血に参加した。自分の血液型を知ることができたのでよかった。思っていたよりも針を刺される時に痛みを感じず、採血後も特に異常が見られなかったので安心した。また機会があれば献血に参加したいと思う。



献血のお願い

400ml献血にご協力ください!

4/25(火)・5/10(水)11(木)

10:20~16:00

富士見坂庭園 付近

●ご参加にあたって●

●当日服用口長の薬●



初めての学生も多く参加



看板を持って勧誘する学生

14. 「学習」の貧困～私たちにできること～

- 1 日程 2023年5月11日(木)
- 2 場所 外濠校舎5階 523～526会議室
- 3 概要

子ども系の企画を行いたいということから始まり、子どもたちと対面でかつ継続的に関わることができる子どもの学習支援について企画を行うことになりました。特に家庭の貧困により思い通りに勉強ができない子どもたちをテーマに話を進め、企画メンバーは実際に約半年間港区の学習会に参加しました。実際に参加子どもたちと関わることで現場を知ることができ、その中で新たな発見や学びを得ることができました。当日は特定認定非営利活動法人KIDSDOOR様に子どもの貧困と取り組みについて講演をしていただいた後に、私たちが参加した学習会の体験談を話し、後に質疑応答に加えて、ディスカッションを行いました。ディスカッションでは「家で自主学習できる環境をどのようにつくるか」、「学習の貧困の連鎖を断ち切るには連鎖のどこに重点を当てるべきか」について話し合いを行いました。参加した学生同士で積極的に意見を出し合うことができ、最後にグループの意見を発表することで理解を深めることができました。身近で小さな問題だけでなく、私たちが考えているよりも多くのそして大きな問題が深く関わっているということを知ることができ、その中で何が大切なのか私たちに何ができるかということを知ることができたと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 工学部経営システム工学科 2年 山本 樹輝

- 4 参加学生数 33名(法政24名・共立女子9名)

5 企画者感想

子どもの貧困問題は、私が想像していた以上に深刻な問題でした。7人に1人の子どもが貧困である社会において、キッズドアさんのように子どもたちを支援する取り組みは必要不可欠であると考えました。また、貧困の連鎖を止めるために学習支援がどれほど重要であるか理解することができました。しかし、このような子どもたちは弟や妹の面倒を見たり、家事をしたりして勉強をする時間を確保することが難しいということです。このことを学び、子どもたちが落ち着いて学習することができる環境をどのように用意すべきか、が今後の課題であると考えました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部国際政治学科 2年 魚地 遥香

6 参加者の感想

自分が今まで知らなかった日本の学習の貧困について知って、深く考えさせられました。誰かに任せのではなく自分ができるサポートや支援を見つけて行動を起こしていきたいと思います。

人間環境学部人間環境学科 1年 佐藤愛理



質疑応答の様子



キッズドアさんと企画者の集合写真

15. 川の清掃ボランティア

- 1 日程 2023年5月13日(土)
2 場所 京成押上線「四ツ木駅」付近の荒川沿い

3 概要

世界では、年間約800万トンものゴミが、陸域から海域に流出しているといわれています。本企画では、海洋ゴミの根源となる河川ゴミの清掃によって、環境被害の連鎖を防ぐことを目的に活動をしました。企画当日は、荒川の河川敷を清掃し、約1時間で90Lの袋2つ分のゴミが拾うことができました。今回は、葛飾区の「いつでもできるゴミ拾い」という制度を利用し、いつでも支給してもらえる専用のゴミ袋で清掃をしました。今回の企画を通して、このような制度を知るきっかけにもなったため、今後も参加学生が積極的に清掃活動をする機会が増えることを願っています。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 法学部政治学科3年 今給黎 優那

4 参加人数 20名

5 企画学生の感想

雨が降っているにも関わらず、多くの学生に参加していただけてとても嬉しく思います。私自身はじめて川の清掃に参加したため、ペットボトルやタバコの吸い殻などさまざまな種類のゴミが落ちていることに驚かされました。また、参加者と話をしながらゴミ拾いをしたことで、ゴミ問題や環境に対する理解を深めることができました。環境問題を自分のこととして考える良い機会になったと思います。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 経営学部経営戦略学科3年 境野 怜佳

6 参加学生の感想

集合から作業開始までスムーズで、予定時間内に終わって良かった。公共交通機関からのアクセスも良く、河川関係のボランティア活動として、始めやすいと思った。

人間環境学部人間環境学科2年 井上 広樹



小雨の中ゴミを集める学生



企画終了後の集合写真

16. 富士山自然保全ボランティア

1 日程 2023年5月14日(日)

2 場所 富士山麓

3 概要

昨年に続き、今年もNPO法人富士山クラブ様のご指導のもと、富士山自然保全ボランティアを実施することが出来ました。富士山の麓で、環境保全や自然体験活動を行いました。今回は法政大学31名、共立女子大学2名、明治大学2名、関西大学2名の計37名の学生が参加しました。はじめに富士山クラブさんによる活動のご説明を受け、その後4つのグループに分かれて活動しました。山の環境問題や、オーバーユーズ、アンダーユーズの違い、日本はアンダーユーズであり、それを解決するためには、人の手を加えることが重要であることを教えて頂きました。グループに分かれてからは、薪割りや木の皮剥ぎ、椎茸の菌打ち、小屋の床壁剥がしを交替で行いました。休憩時には、ハイジのような自然のブランコに乗せていただいたり、木の上の小屋に登らせていただいたりしました。今回はじめてこのボランティアに参加する学生も多かったですが、おたがいに楽しく活動することができました。こういった機会でないとは体験できないことも多く、非常に貴重な体験でした。今後も富士山の自然に関わるボランティアを継続していけたらと思います。

ボランティアセンター学生スタッフVSP文学部日本文学学科3年 羽田 健太郎

4 参加人数 41名(法政35名 共立女子2名 明治2名 関西2名)

5 企画学生の感想

緑の少ない東京で普段暮らしているが、自然豊かな富士山の麓で活動するのが純粹に快かった。活動の中で困難に直面したとき富士山クラブの方々ですぐに頼らず仲間のなかで何とかやってみようと思いをだしあったり、工夫を凝らしたり、それぞれの得意が生かせるように役割分担したり、と大半が初対面の人ながらもよく話し合い協力して主体的に活動することができたと思う。また、活動中に自然に触れることで森林問題に直接向き合うことができた。気分転換と同時に学びを得ることができ、充実したボランティア活動ができたと思う。

ボランティアセンター学生スタッフVSP法学部法律学科1年 重永 等

私は田舎に住んでいるにもかかわらず、ここまでの森林活動を行ったことがなかったので、とても貴重な経験になりました。特に、キノコの菌打ちはこれほど気軽にできると思っていなかったので、新たな発見になりました。また、環境問題は、学校で教わるもの以外にもあることを学びました。森林を全く使わないことも良くないと知り、日本各地には荒れ果てた森林がたくさん存在するので、ただ緑があれば良いだけでも限らない、と考えるきっかけになりました。

ボランティアセンター学生スタッフVSP法学部国際政治学科2年 魚地 遥香

6 参加学生の感想

大学生として初めて参加したボランティア活動だった。活動は雨天の中行われたが、とても満足した。私は前日に8時間アルバイトをしていた上に当日は5時起きだったので、体力的に万全ではなかった。しかし、一度活動が始まればそれをすぐに忘れ去ってしまった。それほど楽しい活動だった。ボランティアに参加しているのに、楽しいという感情をもったのは自分にとって意外なことだった。人や社会のために活動して自分も楽しい思いができるのはとても素晴らしいことだと思う。また参加したい。

経営学部経営学科1年 川田 勇人

私はあまり森でこのような活動をするのがなかったので、とても新鮮に感じました。雨でしたが、雨の中で活動することは小学生以来なので、自然(森と雨)と触れ合うことの楽しさを思い出すことができました。このボランティアを通して、初対面の人たちと楽しい思い出を作ることができ、自然保全の活動メンバーの一員として携わることができて大変やりがいを感じました。ボランティアに参加するのは大学に入学してから初めてだったので、また参加しようと思える良い機会になりました。ありがとうございました。

文学部地理学科3年生 三原 咲優

法政大学市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフVSP企画
富士山自然保全ボランティア

今年度も富士山保全活動開催！
本企画は毎年春と秋に実施している、人気の企画です。階段を作ったり薪割りをしたり、普段なかなかできないような体験をすることができます。
自然豊かな富士山麓で、森づくりをしませんか。
学部外の友達を作るチャンスかも！？

INFORMATION

日程 2023年5月14日(日) 7:10-21:00
(当日の状況により多少前後する可能性があります。)

内容 富士山麓にて森林保全活動

集合場所 法政大学市ヶ谷キャンパス 市ヶ谷体育館前

定員 本学学部生40名程度

参加費 2,000円

申し込み 右のQRコードからお申し込みください。

お問い合わせ
法政大学市ヶ谷ボランティアセンター(外濠校舎1階学生センター内)
TEL: 03-3264-9516 Email: ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp



富士山クラブの方からのお話



きのこの菌打ちの様子



小雨の中、木の皮剥ぎの体験



薪割をする様子



小屋の壁や床を剥がす学生



集合写真

17. セラピードッグとのつながり

1 日 時 2023年5月18日(木)
2 場 所 外濠校舎 5階 523～526会議室

3 概 要

世間では未だ認知度の低いセラピードッグについて、セラピードッグとは何なのか、犬との触れ合いがどのような心理的効果を我々に与えるのかを実際にセラピードッグとふれあいながら、講師にNPO法人セラピードッグすまいるわん様をお迎えし、講義していただきました。後半ではふれあい体験後、「コロナ禍でセラピードッグがいたらどうだったか」というテーマについてグループごとにディスカッションを行いました。どこを触られても動じないトレーニングを積んだセラピードッグの安定感に、ふれあう事の心理的効果を多くの学生が実感することになった企画となりました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 国際文化学部国際文化学科 2年 高見澤 礼

4 学生参加者数 30名(法政大学24名、共立女子大学6名)

5 企画学生の感想

今回のセラピードッグ企画には、セラピードッグとは一体どういう存在なのか知りたいという興味から参加しました。講義で扱ったAAI(動物介在介入)の中のAAE(動物介在教育)による発達に関わる諸項目への影響を知ることができました。

また、セラピードッグ体験では、体温や肌触りを感じることができたほか、精神的にポジティブになりました。身近に動物がないので、今回の体験ではセラピードッグとのふれあいのなかで、身近な動物の存在の大きさを実感できました。講義全体を通してセラピードッグが必要とされる理由を知ることができました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科 3年 薄井 春彦

6 参加学生の感想

セラピードッグの役割や活動区分人間に与える効果について初めて知ることができた。特に高齢者介護において介護の必要なレベルの認定が可能になり、施設利用者の性格に合った犬がマッチングできるような仕組みが用意されていることに驚かされた。また日本においてセラピードッグの認知が進んでおらずセラピー犬の数の不足や受け入れ先不足などさまざまな問題があり認知拡大を進めると共に医療との提携や学校教育への導入など制度の確立が必要だと感じた。

経営学部経営戦略学科 4年 土寄 人和



NPO法人すまいるわん様による講義



セラピードッグの役割を感じる学生

18. 防災×清掃企画

- 1 日程 2023年5月20日(土)
- 2 場所 新宿御苑前から法政大学までの道中

3 概要

本企画は、災害時に長距離を歩くことを想定し、広域避難場所に指定されている「新宿御苑」から「法政大学」までの約3キロ間の清掃活動を行った。実際に、消火栓やAEDの場所を確認しつつ、避難の妨げになりうるゴミの清掃をすることで、防災意識を高める啓発活動の要素も兼ねた清掃活動となった。防災訓練と清掃活動を掛け合わせた新しいボランティアに参加したことで、学生が次回に繋がる新たな気づきを得られていれば嬉しく思う。

ボランティアセンター学生スタッフVSP法学部政治学科3年 今給黎 優那

- 4 学生参加者数 11人

5 企画学生の感想

清掃の面では、今回のルートは普段清掃活動を行っていないエリアであったこともあり、ゴミが多く捨てられていました。ゴミを減らしていくためには、普段から継続的に清掃を行い、ゴミのない状態を維持していくことが必要だと感じました。また、防災の面では、東京都が地震発生後3日間の安全な建物内待機を呼び掛けており、原則として大学に3日間待機する必要があることを知りました。大地震発生時にはすぐに家に帰れないことを親に伝えておくなど、日頃からの備えや防災意識を持っておくことが大切だと思いました。

ボランティアセンター学生スタッフVSP法学部法律学科2年 宮野 真

様々な問題が発生し企画を行うのに長期間かかってしまいましたが、無事に終わることができて嬉しく思います。参加人数は少なかったものの参加者は熱心に清掃活動に取り組み、また防災について考えてくれました。消化器が木に隠れていて見つけにくく取り出しにくいなど防災面について普段歩いているだけでは気づかないことがありました。また、普段清掃活動を行わない場所と行う場所ではゴミの量が違うので定期的に様々な場所で活動を行い、ごみを捨てさせないような環境を作っていくことなどが大事だと考えました。

ボランティアセンター学生スタッフVSP理工学部経営システム工学科2年 山本 樹輝

6 参加学生の感想

大学で災害に遭った際、大学に留まることを家族に伝えておこうと思った。安否確認が取れない状態で安心をさせるためにも必要な事だ。また、今回の3キロ歩いた中でいつもより動きやすい格好だったが実際にはもっと動きにくくパソコンを持った状態で行動することは大変であり、もし災害に遭った時その場所が自分家から5キロ圏内にあるならば動けるような格好で日頃から意識することの重要性を理解出来た。

人間環境学部人間環境学科3年 本間 ひかる



スタート地点の新宿御苑にて企画説明の様子



道中、ごみを拾う学生

19. 外来魚・外来生物駆除について考えよう！①

- 1 日程 2023年5月22日(月) 講義企画
2023年6月 3日(土) 駆除ボランティア
- 2 場所 外濠校舎 5階 523～526会議室(講義企画)
千葉県我孫子市四つ池(NEC 我孫子事業場内(駆除ボランティア))

3 概要

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフVSPは、手賀沼水生生物研究会様とNEC様のご協力のもと、外来魚問題に関する講義とワークショップを行いました。本企画には合計8名の学生に参加いただき、次月にある外来魚駆除活動にも多くの応募をいただきました。当日の講義では、四つ池の現状や今までの問題を写真とともに学びました。小さな環境で大きな食物連鎖が行われていること、広大な自然の中から減少してしまった在来種を探し守り抜くことなど、全てが新たな気づきであり、それを解決する難しさを痛感しました。ワークショップでは、外来種の現状問題を踏まえ「それらの問題にどのような立場から解決に取り組めるか」を考えました。外来種に対する知識差の違いや学部ごとの独自の視点は、より一層議論の盛り上がりを見せました。外来魚や外来種のことを知らない学生は多いと感じています。しかし、外来種は身近なところに存在し、予想よりも高い確率で人々の影響を受けています。今後、一人一人が環境に対して考える機会を増やしていきたいです。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 国際文化学部国際文化学科3年 長尾 美紅

- 4 学生参加者数 13名(講義企画) 5名(駆除企画)

5 企画学生の感想

今回の講義は外来魚や外来種について知る良い機会になったと思います。私は外来種についてあまり考えたことがなかったので初めて知ることが多かったです。特に、外来魚を駆除し在来魚を守る活動は自然相手のため一筋縄ではいかず、人々の理解を得るのが大変だったというお話が印象的でした。ディスカッションは短い時間にもかかわらず活発に議論することができました。参加者が外来種について考えるお手伝いので嬉しく思います。

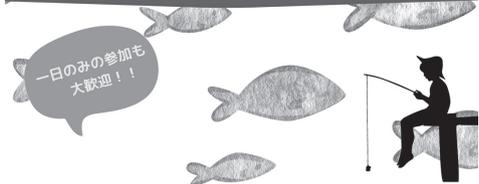
ボランティアセンター学生スタッフVSP 経営学部経営戦略学科3年 境野 怜佳

6 参加学生の感想

外来生物に対しての関心というのはそれほどあるわけではありませんでした。しかし企業説明会に参加した時に多様化への取り組みがでてくるのが多数あったこと。父が釣り好きな影響で釣り番組を見るのですが、ちょうどバス釣りの回でそれに対して父が文句を言っていたこと。以上のふたつがきっかけとなり今回参加させて頂きました。今5月なのに異常に暑かったり身近な気候変動には興味を持ち行動をとる一方で生物の多様性というのはあまり意識下ないことを改めて実感しました。極端に言ってしまうと、日常的に見るのはヒトとイヌとネコだけです。生物だけではなく現代の意識、ファッションも画一化されていると日々感じます。生物の多様化が失われることで訪れる危機についての例がとても分かりやすかったです。遺伝的攪乱も目には見えずとも重要な問題だと思いました。統計的な増減に基づく原因の推察や行動というのはとても好きな分野なので四つ池の具体例をお聞きするのはとても面白かったです。

経営学部経営学科2年 伊藤 萌香

法政大学ボランティアセンター学生スタッフVSP企画 外来魚・外来魚駆除について考えよう！



STEP 1 知る

《講義&ワークショップ》

5月22日(月)17:00~19:00
@市ヶ谷キャンパスS523-526
定員30人

STEP 2 実践する

《釣りによる外来魚駆除活動》
《講義&トンボ観察&水草種植》

6月3日(土)9:05~15:00*
@NEC我孫子事業場四つ池
(千葉県我孫子市)
定員20名
9月13日(水)詳細は後日メールで配信

【講師】手賀沼水生生物研究会 【申込】QRコードよりお申し込みください！

この企画では、STEP1で外来魚に関する講義・ワークショップを行い、STEP2で実際に駆除活動を体験します！
外来魚…環境問題の一つとして耳にすることも多いかもしれませんが、具体的に何が問題なのでしょう？この機会にみんなで楽しく学んで行動してみませんか？

『お申込QRコード』



『お問い合わせ』

市ヶ谷ボランティアセンター
(外濠校舎1F学生センター内)
03-3262-9516
ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp



手賀沼水生生物研究会による講義



発表前のディスカッション



駆除対象の四つ池



四つ池を見学する学生

20. 第34回神田すずらん祭り

1 日程 2023年5月27日(土)

2 場所 神田神保町すずらん通り

3 概要

学生スタッフ(VSPとチーム・オレンジ)は、神田すずらん通りにて開催された「神田すずらん祭り」でVSPはポッチャ体験会、チーム・オレンジはオリジナル防災かるたの実演を実施しました。また、一般のボランティア参加学生も「すずらんくじ」の受付、後片付けなどのボランティアに協力しました。千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアムに所属する共立女子大学、そして明治大学、専修大学など近隣の大学と共に、すずらん祭りに協力しました。

新型コロナウイルスの影響で3年越しに開催された今年のすずらん祭りは、例年以上の熱気を放っていました。チーム・オレンジ主催の防災かるたでは、防災についての認識を参加者の方に持ってもらう契機となり、親しみやすいゲームを基盤に行うことで、より親密に幅広い世代との交流をはかれました。

VSPからは「ポッチャ」体験を行いました。参加者の方々からの声から、パラリンピック競技の一つである「ポッチャ」の知名度が高まっていることを認識しました。ルールを知らない子供たちから、競技者としての経験がある人まで様々な方に参加していただき、ポッチャの存在をより広い世代に浸透させることが出来ました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部日本文学科2年 早川 大心

4 学生参加者数 35名

5 参加学生の感想

災天下の中、子供・親・お年寄り・大学生など、幅広い世代の多くの人々に参加して頂いた。親子・友達同士で対決する方が多く、中には5回連続で対戦していた体験者もいた。多くの体験者に「楽しかった!」「ありがとう!」といただき、嬉しかった。他大学のボランティア団体が数多く出店しており、他大学の学生と交流する姿も見られた。他大学の活動を知ることができる貴重な機会であった。次のすずらん祭りでは、熱中症予防のため、テントの設置を検討するべきだと考えた。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 学生スタッフ 人間環境学部人間環境学科2年 田宮 帆華

今回はすずらん祭りにチーム・オレンジとして参加させていただきました。防災かるたをお客さんに遊んでいただき、防災啓発活動を行いました。正直、お祭りでかるたをする人はいるのだろうか、と思っていましたが、思っていたよりも多くの人に遊んでいただきました。小さな子供たちから、外国の方まで、幅広い方々に私たちの、活動に関心を持っていただいたので、参加した甲斐があったと思えました。今後もこのようなイベントに参加し、防災啓発活動をおこなっていきます。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 文学部英文学科1年 荒毛 竣太

たまたまメールでボランティアの案内が回ってきて、軽い気持ちで参加しましたが、とても良い経験になりました。ボランティア内容は、ゴミの分別の呼びかけや後片付けなど比較的簡単なものでしたが、少しでも地域のお役に立てたことを嬉しく感じました。初めてのボランティア活動の参加で不安もありましたが、リーダーの指示が明確で質問もやすく、ペアの方も話しやすくとても良い方で、自分が今すべきことを考えて積極的に、また自発的に行動することが出来ました。ありがとうございました。

法学部法律学科3年 宮田 ひかり



ポッチャ体験をする子どもたち



チーム・オレンジの防災かるた



多くの方に VSP のポッチャ体験を参加いただきました



集合写真

21. 発達障害について考える会

1 日程 5月30日(火)

2 場所 外濠校舎5階523～526会議室

3 概要

最近になって知名度が上がり、身近になりつつある発達障害に関して、正しい理解を促し、当事者とどのようにかかわっていくべきか考えを深める場を提供するという目的で、本企画を実施しました。本企画では、特に大学生や大人に焦点を当てることで、参加者に寄り添った視点の企画となるよう工夫しました。実施形態は、参加者がより円滑にコミュニケーションをとれるよう、対面に決定。当日は、NPO法人発達わんぱく会理事長の小田知宏様よりご講演をいただき、そのうえでディスカッションとシェアリングをするという形で企画を進めました。なお、企画は二部構成として、「発達障害の基本概念」と「発達障害を持つ人の困りごと」という2つのトピックを設けました。企画の実施までには、発達障害の当事者と当事者でない人とが混在する中で、どのようなトピックを扱えばいいのか、匿名性に配慮すべきかなど、かなり悩むところがありました。しかし、実施後アンケートを見る限り、本企画の評価は高く、それぞれの参加者がそれぞれの気づきを得ることができたようです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部英文学科2年 佐々木 澄香

4 学生参加人数 37名(法政17名 共立女子7名 三輪田学園13名)

5 企画学生の感想

今回の発達障害企画には、発達障害とはどういうものなのかという興味から参加しました。講義の中では「ちょっと違う」ことへの配慮の有無で、違うことが長所か二次障害になるということを知り、当事者以外の周囲の配慮の大切さを感じました。また、ディスカッションでは配慮の仕方や気遣いなどを話し合い、発達障害との向き合い方を共有することができました。発達障害という言葉が実は自分とは縁遠いことではなく、身近な問題だと実感できる機会となりました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科3年 薄井 春彦

6 参加学生の感想

本日参加してみて、発達障害は明確なラインが決められているわけではないし、そう言った人々への配慮というよりも、誰もし得手不得手があるから、足りない部分を補い合おうという考え方が素敵だなと思いました。

社会学部社会学科4年 内野 結月



発達わんぱく会様の講義



グループディスカッションの様子

22. 2023 年度 東京メトロ飯田橋駅ボランティア研修会

- 1 日程 2023年6月10日(土)
- 2 場所 富士見ゲート棟(学生ホール)、飯田橋駅
- 3 概要

市ヶ谷ボランティアセンターと東京メトロは、飯田橋駅構内の「見守る目」として、2017年6月から学生によるボランティア活動を継続して今年で7年目となります。講師に公益財団法人日本ケアフィット共育機構をお招きし、座学と実技を交え、活動にあたっての基礎知識や注意点、心構えを学びました。

座学では、障がいには個人差があることやサポートを不要としている人もいるので、必ずお声がけをする等。ご案内の方法について理解を深めた。実技では、車椅子利用や視覚障がいの方との接し方についてや、車椅子の折り畳み方などの基本的な取り扱い方法を、二人一組になり、視覚障がいの方のご案内方法を体験しました、最後にペーパーテストを実施し、全員がサービス介助基礎検定の資格を取得しました。

「大学から一番近い地域貢献ボランティア」である東京メトロ飯田橋駅ボランティアを今後ともしっかり進めていけるよう努めたいと思います。

4 学生参加者数 16名

5 参加学生の感想

車椅子利用者や視覚障害者の方の介助の方法だけでなく、介助される側の体験もす

ることで、双方の気持ちを理解することができた。特に、視覚情報が無い状態で移動することはとても難しく不安だった。自分がボランティアとして介助する時は、定型文だけでなくこまめに状況を説明することが、不安をやわらげることに繋がると感じた。身体障害者補助犬については、盲導犬だけでなく介助犬、聴導犬の存在を初めて知った。補助犬の役割が最大に発揮できるような見守りと、適切な介助を心がけたいと思った。

東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ 文学部・地理学科1年 植本 陽帆

座学だけでなく、車椅子の操作方法や盲目の方の道案内をするときの方法を実践でき、ボランティア外でも、役に立つのではないかと思っています。また、白内障の方の見え方を専用のゴーグルを使って初めて知り、白内障を患っている祖母の対応の仕方を考えるきっかけにもなりました。飯田橋の構内には複数の路線があり、複雑です。東西線を使う私にとって、東西線以外についてご案内するとき、スムーズにできるか不安ですが、頑張りたいと思います。

東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ 国際文化学部 国際文化学科1年 坂田 和佳

これからメトロボランティアに関わっていく中で何度も障がい者や高齢者と接する機会があると思うが、その度に今日の講習においてお話があった、障がい者の目線にたって自分が当たり前だと思っていることが障がい者にとっても本当に当たり前なのかについて思い出して同じ目線にたって活動するよう心がけようと思う。百人百様の精神でお客様とコミュニケーションをはかり、そのお客様にあったお手伝いをさせていただくことができるよう多くの経験を通じて対応力を高めていきたい。

東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ 法学部・法律学科1年 重永 等





段差で車いすの使用法の実技



緑内障の方の見え方を体験



駅職員の方から施設や活動の説明を聞く



全員で記念撮影

23. バリアフル社会 ～みんなが笑って暮らせる社会を目指して～

1 日程 2023年6月13日(火)、20日(火)、27日(火) (全3回)

2 場所 富士見ゲート4階 G401教室

3 概要

例年ボランティアセンター主催で後期に全8回の「手話講座(入門編)」開催し、手話について学ぶ機会を設けていますが、今回はろう者だけでなく視覚障がい者や肢体不自由者についても学生に関心を持ってもらうため企画を実施しました。又、講師として手話講座の講師を務めてくださった中野佐代子先生をお迎えしました。中野先生には第1回目の講座では視覚の変化と視覚障がい者・児について、第2回目は肢体不自由児・者について、第3回目は「盲ろう者」についての講話をしていただきました。本講座を通して多くの参加学生が障がい者に対して他方面から学び、興味を持つきっかけを持つことができたのではないかなと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 人間環境学部人間環境学科1年
高木 結衣

4 学生参加者数 39名(全3回延べ人数)(法政27名 共立女子大12名)

5 企画学生の感想

先生のおっしゃった「無知は差別を生む」がとても心に残っている。子ども用車いすはベビーカーに間違われることが多く、畳むように言われたりすることがある。

車いす利用者の方が優先的に待遇された時、悪態をつく人がいる。これらの原因は全て知らないことである。恥ずかしながら私も今回の講義で初めて耳にする話題が多かった。そのため、今回全3回の講義を通して社会にいるさまざまな人々の視点について理解を深められた。私たちが障がいを持つ方に配慮をしていくべきであり、まずそのためには私たちが障がいについて一緒に学び、知識を身につけ、寄り添っていくべきだと考えた。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 経営学部経営学科1年 山内 万結子

6 参加学生の感想

またひとつ知見が広がり、より多くの人とコミュニケーションが取れるような気がしました。

講義内で紹介されていたヘレンケラーの言葉「愛の対極にあるのは憎しみではなく無知」が印象的でした。知らないと気にすることもなく、そして助けを必要とする人々の思いや考えを自分なりに考えるだけに終わってしまうように思います。まずは『知ること』を大切にしたいです。

指文字、点字、手話を知った時、沢山のひとと意思疎通がとれるとわくわくしました。そのために、上記の事柄について勉強します。有意義な時間をありがとうございました。

法学部法律学科1年 根岸 祐里

法政大学市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフVSP企画

バリアフル社会 ～みんなが笑って暮らせる 社会を目指して～

01 街でラストマンに出会ったら...
視覚の変化と
視覚障がい児・者への理解

02 多目的トイレを使用していますか?
肢体不自由児・者への理解

03 日本にもいます!ヘレン・ケラー
「盲ろう者」を知っていますか?

日時 * 6月13日(火)、20日(火)、27日(火)
16:50-18:30

場所 * 富士見ゲート4階 G401教室

対象 * 本学学部生

定員 * なし

参加費 無料

講師紹介
手話通訳士・
本学手話講座講師
中野 佐世子 氏

申し込み・問い合わせ

市ヶ谷ボランティアセンター
(外濠校舎1階、学生センター内)
03-3264-9516 | ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp

Googleフォームからも
お申し込みできます!




講義の様子



紙幣の点字を確認する学生

24. 災害救援ボランティア講座

1 日程 2023年6月17日、24日、7月1日（毎土曜日）

2 場所 大内山校舎5階Y504教室、本所防災館、市ヶ谷総合体育館、3階柔道場

3 概要

市ヶ谷ボランティアセンターでは、災害救援ボランティア推進委員会、東京防災救急協会、千代田区社会福祉協議会のご協力のもと「災害救援ボランティア講座」を実施しました。

第1日目は、市ヶ谷キャンパス大内山校舎にて千代田区社会福祉協議会の取り組み、災害救援ボランティアの基本、被災地での安全衛生、防災対策の基本などを学びました。

第2日目は、本所防災館で災害模擬体験を行った後、大学に戻り講義形式で出火防止と初期消火について、グループワーク形式で災害ボランティア活動図上演習を学びました。

第3日目は、本学市ヶ谷総合体育館柔道場にて、上級救命技術講習として応急手当活動について学び、AEDの使用法、胸骨圧迫、災害時などでのけがの応急処置などは実際に人形などを使い実践しました。

災害救援ボランティア講座は毎年行われており、全講座受講により、上級救命技能認定証、セーフティリーダー認定書が交付されます。今年も多くの学生が認定証を交付されました。また本企画参加者は「法政大学災害救援ボランティア」に登録し、災害発生時に学生ボランティア市ヶ谷ボランティアセンターでは引き続き災害時に活躍できる学生の育成に取り組んでいきます。

4 学生参加者数 6月17日 27名
6月24日 27名
7月1日 24名

5 参加学生の感想

救命技能をずっと学びたいので、今回は学校のイベントに出くわして本当にありがとうございました。ネットで動画を見ながら心肺蘇生や異物除去などを学びましたが、実践する機会がなかったので、どうも物足りなかったと思います。今回は専門の方の指導のもと、救命技能をたくさん学ぶことができ、本当に楽しかったです。一番印象に残ったのは、心肺蘇生は意外と簡単ではなく、力が結構いるということです。実は途中で何度も疲れを感じ、どうしてこんなに長い時間が終わらないのですかと思いました。救命技能は思ったほど簡単ではありません。

今日の勉強を通して、専門的な知識も身についたので、これから生活に応用していきたいと思います。

文学部日本文学科2年 陳 心怡

今までは災害時の行動や救命活動についてはとても基本的なことしか知らなかったが、今回の講座を通してより専門的な知識を学ぶことができたし、また実際に災害を体験したり人形を使って救命したりした実践経験を通して、いざという時に使えるスキルも身に付いたと思う。特に自然災害は自分達の意思でとめられるものではないので、いざという時の為に対策しておくことはとても重要なことだと改めて感じた。もし今後災害等が起きた際には、自分にできることを積極的にを行い、多くの人の命を守る手助けができればと思う。

現代福祉学部 臨床心理学科1年 島田 夏希



市ヶ谷ボランティアセンター
活動について
活動の報告



1日目のグループワークの様子



暴風雨の体験



AED・胸骨圧迫の実習を行う



認定書を受け取る学生

25. 森づくりを通して自然環境を考える

1 日程 2023年6月17日(土)

2 場所 千葉県千葉市若葉区「千葉おぐらの森」

3 概要

都心の大学に通う私たちは、森林や里山などの自然環境に対する関心が薄れていることを危惧し、本企画では、NPO法人企画樹木・環境ネットワーク協会様の活動に参加させていただき、枯れ木の伐採や薪割りなどの森づくりのボランティア活動を行いました。映像でしか見たことがないような大木が倒れる瞬間を間近で見ることができ、重い斧を振るって木を真っ二つに割るといった、日常では体験出来ないことをやらせていただきました。今回の企画を通して、森林を管理する活動の重要性を実感し、自然環境について深く考える機会となりました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部日本文学科2年 早川 大心

4 参加人数 7人

5 企画学生の感想

山の中で木を切ったり、薪割りをしたりといった体験を通して、自然と共に生活することの大変さと魅力を実感することができた。ご協力いただいた協会の方々には難なくこなしている作業でも、私は丸太一つ運ぶのも一苦労で、薪割りでは斧すらまともに持つことができなかった。けれども、終わった後には達成感と充実感があつた。都心の大学に通っている私たちの多くは日常生活において自然と触れ合うことはほとんどない。だからこそ、こうした自然保全活動に参加し、自然と向き合うことは大切であると考えた。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科3年 守 綾乃

枝切りや薪割り、木の伐採を生で見ることができ、普段の生活では出来ないような貴重な体験をする事が出来ました。また、思っていた以上に重労働で、森林管理の大変さを身をもって感じた1日となりました。森林管理者の高齢化や人手不足は全国的にも課題となっている為、若い世代が自然との距離を近付けることが出来る今回のような活動は、今後更に重要性が増すのではないかと感じました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 人間環境学部人間環境学科3年 佐藤 莉乃

案内していただいた森林には、植えたばかりの木から伐採の対象となる枯れ木まで、多様に存在していて、自然の豊かさを体感しました。このような森のサイクルは、森を管理する方々の手によって循環しています。実際に体験させていただいた枯れ木の伐採や薪割りは、想像以上に重労働で時間を要す大変な作業でした。当たり前前に自然があるありがたみを感じました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科3年 今給黎 優那



木の伐採体験をする様子



自然の中での貴重な体験

26. 若者サンカク＋地域コミュニティ

1 日程 6月26日(月)

2 場所 外濠校舎5階523～526会議室

3 概要

私たち VSP はこれまで小学生や中学生を対象にした子ども居場所づくり支援や学習支援をしてきましたが、高校生以上を対象にした支援に携わったことがありませんでした。そこで、15歳から25歳前後の若者へ生きていく基盤の支援に取り組んでいる特定非営利活動法人サンカクシャ様のご協力のもと、若者問題に関する講義とワークショップを実施しました。講義では若者問題や地域一体となって若者を支援している現状、ボランティアの役割などについて学びました。ワークショップでは、講義を受けての感想や気づきなどを話し合い、サンカクシャ様のような活動を広げていくための方法や地域支援の在り方について話が盛り上がりました。質疑応答の時間では、積極的に手が挙がり、若者問題の関心の高さを感じました。私たちと同年代である若者の問題やそれに関する取り組みが知られていないことが課題であるため、VSP では今後も若者問題を考える機会を設けていきたいです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部地理学科3年 小林 咲穂

4 参加人数 39名(うち法政大学:28名、共立女子大学:4名、三輪田学園:7名)

5 企画学生の感想

今回の企画では若者支援と地域社会との繋がりについての講義をして頂き、同じ若者の立場である自分に何ができるのかを考えるきっかけになりました。また安心できる家や通いたい学校があること、会いたい人がいることは決して当たり前ではなく、物理的に存在する場所だけでない人との繋がりという意味での“居場所”を作っていくことが大切であると改めて感じることができました。学生同士の議論も白熱し、とても有意義な時間でした。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部国際政治学科3年 星野 美郷

6 参加学生の感想

若者の社会参画における課題点やこれからの取り組みを体系化された状態で理解できた点が大変良かったです。多くの新しい気づきがありました。特に、「特定の場所ではなく活動として広めていく」というのが印象に残っています。また、オトナリさんを増やしていくという方向性や、ある程度地域に委託していく方向性到大変共感しました。また新たなアンテナを会得できました。素敵なご講演ありがとうございました。

国際文化学部国際文化学科 1年 斎藤 日向子



ディスカッションする様子



企画学生と集合写真

27. 伝承遊びでタイムスリップ

1 日程 2023年7月1日(土)

2 場所 高齢者総合サポートセンターかがやきプラザ 1階 ひだまりホール

3 概要

本企画は「日本文化体験」をテーマに、伝承遊びを通じて多世代交流がはかれることを目標として実施しました。千代田区社会福祉協議会ちよだで多世代交流 Ciao! 様協力のもと、当日は多くの子どもや高齢者の方にご参加いただきました。折り紙、お手玉、けん玉、こまなど、様々な伝承遊びを体験できるブースを用意し、学生スタッフが参加者に教える姿が見られました。また、参加者の年配の方からは、「久しぶりに昔遊びができて嬉しかった。」という声を聞くことができました。地域の子どもや高齢者と大学生の交流がうまれる機会となりました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 経営学部市場経営学科2年 高田 結衣

4 学生参加者数 9名

5 企画学生の感想

私はこの企画を通して日本文化を様々な人に知ってもらいたいと思い参加しました。企画が始まった当時はメンバー全員が一年生で、初めての企画だったためメンバー同士で沢山話し合い、職員の方々にもアドバイスを頂きながら進めてきました。新学年からは新メンバーを交えて進め、成功させることができました。当日は企画メンバーと高齢者か子どもの組み合わせが多く、ご年配の方と子ども達との交流が少なくなってしまう、多世代交流ができるよう取り組んでいく必要があると感じました。しかし、参加者の方が楽しく昔遊びをしていく中で、交流を通して学ぶことができとても良い機会になりました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP デザイン工学部都市環境デザイン工学科2年 富士 祥花

6 参加学生の感想

けん玉、ヨーヨー、折り紙といった日本の伝統的な遊び体験を通じて子供、ご高齢者、職員さんと多世代の方々と活発に交流することができた。ご高齢者の方がご自身のエピソードなども交えて伝承遊びのコツを教えてください、それを大学生が子供たちに噛み砕いて伝えるという状況があちこちで見られ、まるで“伝承”というものが体現しているかのような印象を受けた。今後もこのような企画に参加し、人生の先輩から学び、それを後輩に伝えていくという貴重な体験をしたい。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部法律学科1年 重永 等



けん玉の体験ブースの様子



VSP 企画者の集合写真

28. 「防災クイズ&ゲーム Day2023 in そなエリア東京」

1 日程 2023年7月2日(日)

2 場所 東京臨海広域防災公園 そなエリア東京

3 概要

7月2日に防災キャンプなどでお世話になっている宮崎賢哉様(防災教育コーディネータ/社会福祉士)のお誘いで、そなエリア東京で行われた防災クイズ&ゲーム Day2023 にチーム・オレンジの5名で参加しました。このイベントは防災ゲームを通じて災害や防災を楽しく学ぶイベントとなっており、チーム・オレンジでは防災カードゲーム「ツナグ」の実演を行った。当日は社会人や学生が来場し、とても賑やかで楽しい雰囲気を実演しました。

4 学生参加者数 5名 体験会ブース来場者数 20名

5 企画学生の感想

今回は、防災ゲーム day に参加し、「ツナグ」というゲームを紹介させていただきました。ゲームのルールが少し複雑であり、ルールを理解するのに時間がかかってしまったグループもありました。しかし、ゲームを通して楽しみながら、災害ごとの、日常の様々な場所に応じた正しい避難方法の知識を身に付けることができているように感じます。これからも防災ゲームを通してより多くの方が防災についての関心を高められるような活動をしていきたいと思っております。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ文学部地理学科1年 渡邊 映乃

チーム・オレンジは、7月2日(日)に東京臨海広域防災公園にあるそなエリア東京で行われた、「防災ゲーム Day」に参加しました。当イベントでは、チーム・オレンジオリジナルゲーム「ツナグ」を披露し、他大学生及び一般参加者を混じえ実際にゲームをしました。「ツナグ」を通して、災害発生時にその場から逃げるか、もしくはその場に止まるかを学ぶことができました。また、参加者の方に意見をお聞きすることができ、説明及びゲームに関する改善点を発見するに至りました。「防災ゲーム Day」に参加したことにより、我々は有意義な時間を過ごしました。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 法学部法律学科1年



チーム・オレンジの紹介



防災クイズカルタの様子

29. 災害に役立つ救助セミナー

- 1 日程 2023年7月4日(火)
- 2 場所 外濠校舎5階523～526会議室

3 概要

麹町警察署(東京都千代田区)の警備課の方が7月4日、本市市ヶ谷キャンパスに訪れ、学生たちに防災の知識と技術をレクチャーいただきました。いつどこで発生するか分からない有事に備え、ロープの結び方や毛布で担架を作る方法などを学ぶことができました。署員の方々から、東日本大震災や熱海市伊豆山土石流災害における大災害時に、現場ではどのようなことが起き、救助には何が必要だったかについて写真を使って説明を受け実技に入りました。最初はロープの結び方です。災害現場で多用されている「もやい結び」や、棒状のものに簡単に結び付けることができる「巻き結び」の方法をレクチャーしていただき、学生たちは実際にその場で結んでみて、やり方を習得できた様子でした。また毛布の両端を何重にも丸めてポール代わりにした担架で人が人や病人を搬送する方法について学びました。最後に実際の災害現場での一分一秒を争うような緊迫した場面を想定し、この日学んだことを2チームに分かれて実行し、ゲーム形式でタイムを競いました。

- 4 学生参加者数 7名

5 参加学生の感想

すぐにも役立つような知識を教えてくださいました。結び方も締めやすいものとそうでないもの、ただの毛布だけでなく棒を使うだけで搬出しやすくなるなど、小さな工夫も交えていて、とても勉強になりました。参加できて良かったです。

限られた時間の中で的確を絞って講習して下さいありがたかった。特にヒモの縛り方は日常生活で即活用できる内容で警察のスタッフの方々参加者1人1人に丁寧に指導してくれ助かった。ゲーム感覚の進行や職員さん達も交えて楽しい企画だった。 文学部 地理学科



毛布で作る簡易担架を体験



全員で集合写真

30. 大学・行政・社協・NPO等4者連携による防災・災害ボランティア育成フォーラム～20年の取り組みを振り返り、次の20年へ～

- 1 日 程 2023年7月8日(土)
- 2 場 所 専修大学神田キャンパス 5号館7階571教室、Zoom

3 概 要

例年、本学でも開催している「災害救援ボランティア講座」を千代田区内の大学で初めて開講してから今年で20周年を迎えた。千代田区で初めて開講された本学を皮切りに、現在では明治大学、上智大学、専修大学でも講座を実施し、20年間で4大学で合計2,400名を超える学生が受講した。今回は20周年を記念して、災害ボランティア講座を開講している災害ボランティア推進委員会主催の元、20周年の歩みの振り返りと次の20周年に向けた新たなステップを考えるためフォーラムが開催された。

本フォーラムは東京大学教授の廣井先生の基調講演、災害ボランティア推進委員会の報告、グループワークのほか、各大学(明治大学、上智大学、専修大学、法政大学)が大学独自の防災・減災に関する取り組み事例を紹介するプログラムがあった。本学も時間をいただき、ボランティアセンター所属のチーム・オレンジの学生スタッフ3名が登壇し、チーム・オレンジが主催している防災啓発イベント「防災キャンプ」について活動の報告や今年の当該イベントの抱負などを発表した。

本フォーラムを通して、これから起こる可能性の高い大地震について首都圏での被害状況や災害時に大学が求められている・期待されていることや災害救援ボランティア講座を継続的に開講する意義を再確認することができ、有意義なフォーラムとなった。

なお、本フォーラムについてはNHKの取材が入り7月9日に放送された。放送の一部でチーム・オレンジが登壇している様子も放送された。

- 4 学生参加者数 3名

5 参加学生の感想

今回のフォーラムに参加したことで、千代田区内の他大学の取り組みを知れる貴重な機会となりました。また、他大学が私たちとは異なる防災啓発活動に注力している事が分かり、良い刺激を受けました。活動内容を伝え合って団体内で共有をすることで、互いを高め合い、より充実した取り組みを行うことができると感じます。今後もこのような大学間の交流を設けていただけたらと感じました。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科 3年



防災キャンプについて発表



防災啓発の大切さを伝える学生

31. レッツボウサイフェス

1 日程 2023年8月11日(金)

2 場所 東京都台東区清川2丁目第2アパート集会所前

3 概要

今回のレッツボウサイフェスは初めて開催される行事のため、わからないことや予測しづらいこともある中での準備、開催となった。チーム・オレンジは、午前8時頃、現地に到着後、会場設営のボランティアを行った。10時ごろよりVR防災車体験、スタンドパイプ訓練を行い、外の道路警備、来場者の誘導等の対応を行った。11時より屋台企画が始まり、かき氷、わなげ、ヨーヨー釣り、物品販売等の屋台運営を終日対応した。午後12時半より30分程度、チーム・オレンジ主催のクロスロードを中高校生と開催。13時半よりバケツリレーにメンバーで参加した。タイムアタックのような形で行われ、小さな子供から中高校生、シニアの方まで老若男女、沢山の方と交流することができた。今後、地域の防災イベントを大切にしていけることの大切さを改めて感じさせられる1日となった。

ボランティアセンター学生スタッフ チーム・オレンジ キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科2年 山本 聖人

4 学生参加者数 学生スタッフ 14名

5 企画学生の感想

地域住民の方にイベントに関して質問をいただき、それに答える中で沢山の方に興味を持っていただけた。結果、多くの人に参加頂くことで、地域内交流の活性化を体験でき、有意義な時間を過ごせた。

ボランティアセンター学生スタッフ チーム・オレンジ キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科2年 神山 尚輝

今回のイベントでは、出店の接客に加えて、VR地震体験やバケツリレーなど災害時を想定した経験をすることができた。特に、メイン企画であるバケツリレーでは、声掛けの大切さや地域コミュニティの大切さを感じた。

ボランティアセンター学生スタッフ チーム・オレンジ 法学部政治学科2年 石川 大樹



みんなでバケツリレー



参加者全員で記念撮影

32. 関東大震災 100 年イベント

1 日程 2023 年 8 月 26 日 (土)

2 場所 東京都庁

3 概要

東京都庁で行われた関東大震災 100 年イベントに参加しました。

2023 年は関東大震災からちょうど 100 年を迎え、都民に自助、共助への理解を深め、首都直下型地震等をはじめとした災害への備えの大切さを考えるきっかけとなる構成となっており、親子で学べる体験が多数ご用意され、小さい子どもでも学びやすい環境が整えられていました。

ボランティアセンター学生スタッフ チーム・オレンジ 文学部地理学科 1 年 小林 真聖

4 学生参加者数 2 名

5 参加学生の感想

関東大震災から 100 年が経ち、これまでの街づくりとこれからの街づくりを各省庁、民間企業問わずブースが設置されていました。起震車や VR、地震動シュミレーターなど、自分の体で実際に感じてみるものが多く、改めて地震の怖さというものを体感することができました。今の東京がここまで発展することができたのは、関東大震災が発生した後から大規模な地震による被害を受けていないからだとブースを見て感じました。だからこそ、次に起こると言われている首都直下型地震や南海トラフ沖の地震等の大地震に備えた意識が必要だと思いました。また、自分だけでなく、1 人 1 人の防災や減災の意識がより一層高まっていくような活動を続けていかなければいけないと思いました。

ボランティアセンター学生スタッフ チーム・オレンジ 文学部地理学科 1 年 小林 真聖



VRで地震を体験する学生



地震動シュミレーターの様子

33. 大学生とピアノタイム—第2弾—

1 日 時 2023年8月29日(火)

2 場 所 かがやきプラザひだまりホール

3 概 要

昨年度ご好評を頂いた多世代交流企画、「大学生とピアノタイム」を千代田区社会福祉協議会 ciao さんのご協力のもと本年度も開催致しました。今回は0歳、上は90代という幅広い世代の方々にご参加いただき、音楽を通して世代を超えた繋がりを感ずることができました。昨年に引き続き法政大学公認サークルピアノの会さんによる素敵な演奏を聴きながら、楽しそうに笑うお子様や音に合わせて体を揺らす高齢者の方々の姿を目にし、とても温かい気持ちになりました。イントロクイズでは少し難しいお題であったものの、世代に関わらず近くにいる人と共に考え答えを導き大きな盛り上がりを見せていました。またピアノの会さんの伴奏に合わせて歌を歌った際も、皆さんが大きな声で、笑顔で歌ってくださりとても一体感がありました。企画の終盤では予定よりも時間が余ってしまったことから、急遽アドリブで演奏をして頂けないかとピアノの会さんに伺ったところ快諾していただき、新たに3曲ほど弾いていただきました。ハブニングではあったものの、そこにはプログラム以上の演奏が聴けて嬉しそうな参加者の方々もいて、とても素敵な時間だったと感じています。企画終了後には参加者のみならずご協力頂いた方々からも「来年もやりたい」とのお声を頂き、時間をかけて準備をしてきて本当に良かったと心から感じました。自分と違う世代の人と関わる機会はとても貴重なので、今回の反省点を生かして来年にはさらに良い企画を行い、より多くの方々を笑顔にしていきたいと思いました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部国際政治学科3年 星野 美郷

4 参加学生 11名

5 企画学生の感想

昨年度に引き続き、本企画に参加しました。準備期間が短い中、多世代の方が楽しめるコンテンツ考案や選曲は容易では無かったが、音楽が人の心を癒し一体感を生む大きさを改めて体感することができました。参加者だけでなく企画者もピアノの演奏に心を打たれ、幅広い年齢層の方と交流し、充実した時間を過ごせて良かったです。今後は音楽を聞くだけでなく、参加者が一体となって音楽を作り出す空間を提供したいです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部地理学科3年 小林 咲穂



イントロクイズを楽しむ様子



VSP 企画者とピアノの会の皆さん

34. 共生社会をダウン症から考える～講義編～

1 日程 2023年8月30日(水)

2 場所 Zoom

3 概要

「ダウン症」という言葉は多くの人に知れ渡っている一方で、当事者の方々に対する理解や配慮が、現在の社会では不十分なのではないかという問題意識を持っている。当事者の方々に対して偏見の目を持たずに、理解や配慮ができるようになるためには、知識を得ること、知識を基に自分たちがすべきことを考えること、実際に交流することの全てが必要だと私たちは考えている。この企画では、ダウン症を持つ人々と実際に関わることで、「ダウン症」に対して持っている心理的な壁を払拭すること、また、ダウン症について考えることから他のマイノリティについても目を向けてもらい、多様性を認め誰もが心地よく暮らせる共生社会の実現に繋がる行動を学んでもらうことを目的として実施した。本企画では3回の話し合いを行なった。第1回目の話し合いでは講義の形式などについて、2回目は講義の内容に関して、3回目では当日の詳細などを話し合った。そして当日のオンライン講義では、ダウン症の方向けの社会制度や、社会的障害について当事者の目線から講義をしていただいた。講義の後はディスカッションの時間を設け、普段生活をしている中ではなかなか気づくことができない、ダウン症の当事者の社会的困難に関して話し合った。なお、次回交流企画も踏まえ、ダウン症の方との接し方についても講義していただいた。

4 参加者数 11名

5 企画学生の感想

ダウン症の方だけでなく他の障害者の方も多くの社会的障害を背負っていることを再認識させられた。講義の中で、ダウン症に対する偏見がたくさんあることを仰っていた。講師の方は、ダウン症のお子さんを産んだ当時、ダウン症に関する正確な情報が少なすぎて、とても不安な気持ちになったそうだ。偏見は情報量の少なさから生まれ得る。そのことに気付いた私たちは、後のディスカッションにおいて、知識を増やすことがとても大切であると結論づけた。本企画がその役割を果たすことができたのならとても嬉しい。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部日本文学科1年 大江千歳

6 参加学生の感想

・自分は小学校のときにダウン症の方との交流があり、そこでダウン症がどのようなものかを知ることができた。今回ボランティアの方との対話を通して、ダウン症の方との交流がなかった地域があることを知り、その差を無くせたら良いと考えられるようになった。また、小学校の時のみでの交流では、知識を得るには程遠いと感じ、中学、高校とさらなる交流、授業を続けていければ良いと思った。

・Taking care of children can be challenging, especially children with Down's. Parents who raise down babies are actually training their character such as sense of humor and patience as well as the capacity to love. In order to be good educators and life guide, teenagers like us should be responsible to the growth of down babies by taking part in volunteer services.

<和訳>

本日で、ダウン症というのは確かに恐ろしい病として聞こえるかもしれないですが、やはり現実にはそうではなく、ダウン症のかたであっても充実した生活も送れるとわかりました。ダウン症の方は、趣味も興味のあるものを持ち、さらに個性も持っています。それらの特徴を日常生活や職場に生かし、ダウン症の方は自分なりの道も歩めるのでしょう。

法政大学ボランティアセンター学生スタッフ(VSP)企画

共生社会を ダウン症から考える



【日時】8/30(水) 10:00~12:00

【場所】zoom

【協力団体】NPO法人アクセプションズ

【参加費】無料

【定員】30人

【申し込み】Googleフォーム

お問い合わせ

市ヶ谷ボランティアセンター(外濠校舎1階学生センター内)

Tel: 03-3264-9516

Mail: ichigayavc-spply@ml.hosei.ac.jp



35. チーム・オレンジ×麴町消防少年団

1 日程 2023年9月3日(日)

2 場所 麴町消防署

3 概要

麴町消防署で、消防少年団の子どもたちと一緒に活動をした。まずは防災キャンプやツアー企画など、チーム・オレンジの活動紹介をした。その後、消防少年団の小学校 1,2 年生には防災カルタ、3 年～6 年生には避難所運営ゲーム HUG、中高生には防災ゲーム「ツナグ」を体験してもらった。最後に消防署の方に消防車を見せていただき、学生の質問にも快く答えていただいた。

ボランティアセンター学生スタッフ チーム・オレンジ 法学部政治学科3年 磯網 巴

4 学生参加者数 6名

5 参加学生の感想

とても元気な少年消防団員と関わった楽しい1日であった。私たちが実際に東北に行って得た知見などを、子どもたちに伝えることができよかったと思う。お家に帰って親御さんに「これ知っている？」と私たちが教えた防災知識を共有して、災害時に役に立つ行動をできるようにしてくれればとても嬉しいと感じた。いつもは震災講和など話を聞く側だったので、大事な情報を伝えることの難しさを知った日でもあった。チーム・オレンジとしてこれからも伝えていく活動を行っていきたい。

ボランティアセンター学生スタッフ チーム・オレンジ キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科2年

最初、HUGは小学生には難しいのではないかと心配していた。しかし、想像以上に盛り上がり、楽しんで取り組んでくれた。イベントカードでは、少しヒントを出すだけで、様々な意見が飛び交い、大学生には気がつかないような部分にも注目していることがあった。機会があればまた子どもたちに取り組んでもらいたいと思った。

ボランティアセンター学生スタッフ チーム・オレンジ 人間環境学部人間環境学科2年



HUGに取り組む小学生



自己紹介をするメンバー

36. 2023 年度 東北被災地ボランティアツアー

- 1 日程 事前説明会 2023年8月30日(水)
第49・50次隊 2023年9月7日(木)～9日(土)
第51・52次隊 2023年9月10日(日)～12日(火)
事後報告会 2023年10月11日(水)

2 場所 岩手県陸前高田市・釜石市・大槌町

3 概要

震災講話やボランティア活動、現地の人との交流を通して、震災について学習することを目的としたイベント。ガイドの方に案内してもらいながらの伝承館見学、山につながっている避難道の整備、被災された方との交流、当時の状況や復興の軌跡についての講話などを行った。

4 学生参加者数 40名(第49・50次隊 20名、第51・52次隊 20名)
(事前説明会 36名 事後報告会 37名)

5. 参加学生の感想

私はこのツアーへの参加は2回目となりました。繰り返し学び当時を思い出すという大切さを実感しました。昨年参加した際、実際の被災地の光景を見たり、現地の人々のお話を伺ったりして、たくさんの衝撃を受けました。その衝撃や、昨年の記憶が今年のツアーで全て思い返されました。例えば宝来館の女将さんの震災講話では、津波の恐ろしさや、大きな震災でも適切な備えや素早い避難で命が助かるという教えがありました。また武蔵さんのガイドでは、津波でんでんこの大切さや、たくさんの人の思いが詰まった奇跡の一本松のお話がありました。震災から十数年経った今だからこそ、震災のことを繰り返し学び、記憶を風化させないように思い返すことの大切さを強く感じました。



キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科 2年

私は今回の東北被災地ボランティアツアーを通して、自分の足で現地に運び体験することの大切さを感じました。また、メディアを通すことでしか被災地の情報を得ていなかった私にとって、被災地についてあまりにも無知であったことに痛感しました。そして、震災講話でお聞きした内容の中では現地の方々の実際の想いや取り組みなど、メディアでは語られていなかったこともありました。自分の目で見て聞くことが大事だと改めて感じました。3日間で行った薪割りや避難道の整備、海岸清掃などのそれぞれの意義を知り、復興が語られている今、まだ見つかる課題に対して協力して取り組めたことにやりがいを感じることができました。

経営学部経営学科 1年



栃ヶ沢公営住宅前にて



全員で記念撮影

37. 外来魚・外来生物駆除について考えよう！②（駆除ボランティア）

- 1 日程 2023年9月13日（水）
- 2 場所 千葉県我孫子市四つ池（NEC 我孫子事業場内）
- 3 概要

本企画は、千葉県我孫子市で活動されている手賀沼水生生物研究会様、並びに NEC 様のご協力のもと、外来生物の駆除を行いました。当日は合計11人の学生が参加し、5月に行った講義と6月に行った四つ池における生態観察で得た知識を活かし、トラップ点検・水草植栽・駆除釣りを行いました。トラップ点検では、池の中に仕掛けてある網を地上に引き上げ、その中に生きている外来生物がいるかを班ごとに確認・記録してまわりました。水草植栽では、胴長を着用し池の中に合計3つの水草を植えました。また、釣りによって外来魚の駆除を行いました。当日は厳しい暑さで、日陰が少ない環境でしたが、全員で8kgの外来生物駆除をすることができました。定期網を引き上げ、外来魚を実際に釣る体験をすることで、陸からだとは外来魚が多く生息している環境のようには見えなかった静かな池の中で、その見た目と異なることが起こっているのだと実感することができました。今後も、このような環境について考えられる貴重な機会を作っていけるように努めていこうと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 国際文化学部国際文化学科 1年 中谷 千紘

- 4 学生参加者数 11名

5 企画学生の感想

参加学生同士や協力して頂いた研究会の方々との交流もあり楽しく活動することが出来ました。針を入れるとその瞬間に釣れる光景から、外来生物の多さを実感しました。個体数を測定することによる、生物同士の影響の推測と対策がとても興味深かったです。池の周りは足場が悪いところも多く、水草を植えるのも大変で、環境維持の難しさを感じました。現代で生活し成長する中で生き物に触れる機会が少なくなりましたが、生物多様性の重要性を再認識し、外来生物という問題の深刻さを改めて考える機会となりました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 経営学部経営学科 2年 伊藤 萌香

6 参加学生の感想

生物調査や環境整備をすることはとても楽しかった。改めてブルーギルやアメリカザリガニをはじめとする外来種は身の回りに住み着いているのだなと実感した。日本の在来種の生態系に侵入し、バランスを崩壊させている以上、駆除対象になってしまうのは仕方ないが、外来種そのものに罪はないのだから、無責任な飼い主にだけはならないように気をつけたいと思った

理工学部機械工学科 2年 阿部 友慈

法政大学ボランティアセンター学生スタッフVSP企画
外来魚・外来魚駆除について考えよう！

釣り未経験者も大歓迎です！！

《スケジュール詳細》
集合 初めの挨拶＆準備
午前釣り お昼 午後釣り
片づけ＆まとめ 解散
※当日の詳細は申し込み後、メールにてご連絡します！

《釣りによる外来魚駆除活動》
9月13日(水) 9:30~15:00
@ NEC我孫子事業場四つ池
(千葉県我孫子市)
定員40名
※小雨決行・雨天の場合は延期または中止(未定)

【講師】手賀沼水生生物研究会 【申込】QRコードよりお申し込みください！

この企画では、実際に外来魚の駆除活動を体験します！
外来魚…環境問題の一つとして耳にすることも多いかもしれませんが、具体的に何が問題なのでしょう？
この機会に駆除活動を通してみんなで楽しく学んで行動してみませんか？

『お申込QRコード』 『お問い合わせ』

市ヶ谷ボランティアセンター
(外濠校舎1F学生センター内)
03-3262-9516
ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp



水草植栽の様子



釣った外来生物を記録

38. 浅草清掃企画

1 日程 2023年9月14日(木)

2 場所 東京都台東区 浅草寺周辺

3 企画概要

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ VSP では、本学学部生を対象として東京都台東区浅草寺を中心とした周辺地域の清掃活動を実施いたしました。本企画では「観光」と「ボランティア」を一体化することにより、本学学部生にボランティア活動への手軽な機会を提供するとともに、ボランティア活動そのものに対して慣れ親しんでもらうことを目的として、観光地である浅草寺周辺をゆっくりと練り歩きながら路上清掃並びに観光を行うことを企画の主意としました。企画の実施場所が浅草寺周辺であることから観光客が多く混雑が予想され、その混雑の中での路上における大人数でのボランティア活動は、観光客や地域住民等に迷惑をかけることにつながるのではないかと企画前に懸念されましたが、当日、参加する人数に合わせて臨機応変に4～5人ほどの少人数でのグループをいくつか作ることで混雑を回避しつつ、広範囲を効率的に清掃できるよう対応しました。また、実施時期は暑さの残る9月中旬であり、当日は日差しも強く照りつけていたため、2時間に及ぶ長時間の野外での活動によって参加者が体調を崩すことがないように、各班に企画者が一人ずつ随伴して、随時水分補給や休憩等と呼びかけました。それぞれ少人数のグループ内では盛んにコミュニケーションが取られており、企画実施後に参加者が自発的に各グループで浅草寺周辺を観光している様子なども見受けられ、本学学部生の交流の場ともなったのではないかと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部法律学科1年 重永 等

4 参加学生 24名

5 企画学生の感想

今回の浅草清掃企画では、浅草寺周辺の街並みを楽しみながら、観光地の清掃を行うことができました。観光地の清掃ボランティアをしてみたいと思い参加した企画でしたが、外国人旅行者が多い街ならではの工夫などを知ることができ、とても良い経験になりました。屋台などの飲食のゴミはあまり見つけられなく、当初予想していた観光地特有のゴミの回収がまち全体として行われているのだと感じました。また、清掃活動を共にしたメンバーとも清掃中にコミュニケーションがとれ、「清掃」や「観光」以外の要素としても今回の浅草清掃企画を楽しめました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科3年 薄井 春彦

6 参加学生の感想

平日だったため、人はあまり多くなく、清掃しやすかった。その中でも外国人観光客の姿が目立った。日本に訪れてきて、楽しんでくれている様子を見て、とても嬉しくなった。また、ゴミ袋とトングを持って歩いていると、ときどき地元の方が、「ありがとう」と声をかけてくださった。浅草の人のあたたかさに触れながら、気持ちよくゴミ拾いをするのができた。ぜひまた参加したい。

文学部日本文学科1年 大江 千歳

初めてボランティアに参加しましたが、観光しながらの清掃活動だったので、とても楽しみながら活動できました。また、参加できる活動があればぜひ参加させていただきたいと思います。今日一日中ありがとうございました。

経営学部経営学科1年 北野 桜桃

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフVSP企画 (法政大学後援会補助事業)

秋葉原 清掃企画

- ・チームに分かれ、拾ったゴミの量を競います!
- ・指定された秋葉原のスポットの写真を撮ったらさらにポイントゲット!
- ・優勝チームには豪華景品が...!

【定員】本学学部生30人
【開始時間】10時～
【集合場所】秋葉原UDX前 (秋葉原駅電気街口前)

2/26 月
空雨天の場合
2/29 木

【お問い合わせ】
市ヶ谷ボランティアセンター
TEL 03-3264-9516
MAIL ichigayave-app@ml.hosei.ac.jp
←お申込みはこちらから



集めたゴミをまとめる学生



最後の集合写真

39. 琵琶湖の環境保全～琵琶湖ツーリズム！ 大学生で考える環境ボランティアの未来 2023～

1 日程 オンライン講座、事前説明会 2023年9月14日（木）
実践編（ボランティア活動） 2023年11月19日（日）

2 場所 Zoom・滋賀県 琵琶湖湖畔

3 概要

関西大学主催ボランティアイベント「琵琶湖の環境保全～琵琶湖ツーリズム！ 大学生で考える環境 ボランティアの未来 2023～」に昨年に引き続きご招待いただきました。本イベントは9月14日（木）のオンライン講座に5名、11月19日（日）の駆除活動は10名の学生が本学から参加しました。オンライン講座では、前半には滋賀県立琵琶湖博物館特別研究員の中井克樹氏に登壇いただき、琵琶湖の環境保全（特に侵略的外来生物への対策）をテーマにご講演をいただき、琵琶湖の環境保全の現状を学びました。また、11月の現地活動では2大学が連携して活動できるように学生同士の意見交換会や交流会も実施されました。19日の活動は近江八幡市の漁港で特定外来生物に指定されているオオバナミズキンバイの駆除を行いました。オオバナミズキンバイは少しでも根や茎が残っただけで繁殖してしまうため、1つ1つ駆除することが必要であったことから想像以上の重労働でした。ただその中でも、関西大学の方と協力して作業し、大変ながらも会話しながら楽しく作業できたので気持ちの良い活動でした。市ヶ谷ボランティアセンターは今後も関西大学と連携をして合同ボランティアを実施していきたいと考えています。

4 学生参加者数

オンライン講座、事前説明会 26名（法政大学5名、関西大学16名、明治大学5名）
実践編（ボランティア活動） 20名（法政大学10名、関西大学10名）

5 参加学生の感想

とても楽しく外来種駆除のお手伝いをすることができました。オオバナミズキンバイは思っていた以上に繁殖力があり、葉や茎の切れ端からでも再生するそうです。こう言った話を現地の方とお話ししながら琵琶湖や環境への知識を深めることができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。また、関西大学の方とも交流を深めることができ、とても充実した1日になりました。

人間環境学部人間環境学科4年 山田 真菜

自然の中で活動できるという高揚感と関西の方と交流できるという期待を胸に活動に参加させていただきました。外来植物の駆除は私のような初心者でも簡単にできることだったのでちょうどよい難易度で、周りの人との会話を弾ませながらとても楽しく活動できました。次もこのような機会があればぜひ参加させていただきたいです。

経営学部経営学科1年 山田 悠仁



ボランティア活動を通して交流を楽しむ



丸小舟に乗り琵琶湖で活動する様子

41. 千代田区男女共同参画センター 第11回MIW祭り

1 日程 2023年10月7日(土)

2 場所 千代田区役所1階

3 概要

2023年10月7日(土)に、千代田区の男女共同参画センター(MIW)の主催するMIW祭りに参加しました。MIW祭りの今年のテーマは「わたしはわたし 心地よく生きていく」です。このテーマからVSP、チーム・オレンジ、東京メトロ飯田橋駅ボランティアの学生スタッフの各団体からメッセージを集め展示ブースに掲示していただきました。MIW祭り当日は、VSPの学生スタッフがポッチャの体験ブースを設置し、多くの方にご来場いただきました。男性、女性はもちろんのこと、お子さんからお年寄りまで幅広い年齢層の方々がポッチャを楽しまれました。

4 学生参加者数 7人

5 参加学生の感想

ブースには、ポッチャをご存知の方、ポッチャを体験したことがある方、初めてポッチャを体験する方など、幅広く来て下さり、『パラリンピック種目でもある「ポッチャ」って何だろう』という問いに、答えることが出来たように感じます。私自身、ポッチャは初めて体験しましたが、想像よりもボールが重く、力加減が難しいこと、当てずっぽうにできるものではなく、頭を使いながらやる競技であることを学びました。来てくださった方たちは、皆さんお互いに声を掛け合い、笑顔で体験されていました。年代は様々でしたが、私たちが参加者の方に積極的に声をかけ、競技をする人だけでなく、その周りも一緒に楽しむことが出来ました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科1年 盛田 有紗

私はポッチャのルールすら知りませんでした。しかし、ポッチャのルールはとても簡単で、コツさえつかめればすぐに上達できるスポーツだとわかりました。参加者も、初めてポッチャを体験する方が多いようでしたが、皆さんとても楽しんでくださいました。MIW祭りでは私たち以外にも多くの団体が参加していました。多種多様なニーズに合わせてたくさんの方が活動しているの分、刺激的な時間になりました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部日本文学科1年 大江 千歳



ポッチャ体験の様子



VSP 学生スタッフ

42. 防災キャンプ

1 日程 2023年10月7日(土)～10月8日(日)

2 場所 法政大学市ヶ谷キャンパス

3 概要

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジは2023年10月7日(土)から8日(日)にかけて、防災啓発活動の一環として防災キャンプを実施しました。今回の防災キャンプでは、企画会議を対面より充実したものを行うとともに、講師の宮崎賢哉氏のアドバイスを受けながら学生主体のプログラムを実施することができました。また、実際に大学で被災した想定にするため、エレベーターやエスカレーターの使用、スマートフォンの充電、シャワーを浴びる行為を禁止するなどの制限をかけて実施しました。1日目は講師の宮崎氏によるガイダンス、停電を想定した暗闇体験、防災かるたを使用した防災学習、担架・車いす講座、クロスロード(防災ゲーム)、非常食学習と実食、応急処置講座、AED・胸骨圧迫講座、段ボールを使用した寝床づくりを行いました。2日目はラジオ体操、スキッドについての学習、ポアソナード・タワーでの避難体験、消火器・起震車体験を行いました。

ボランティアセンター学生スタッフ チーム・オレンジ 法学部政治学科2年
石川 大樹

4 学生参加数 24名

5 企画学生の感想

1泊2日で被災に遭った想定で体験や非常食を体験できて、とてもためになった。これを経てバックにはいつも何を入れていたら便利かなとかもわかったので今後生かしていきたい。また、周りの人にも伝えていきたい。実際に自分が企画して、前回の反省を活かしながら決めることができたと思う。当日も大きなハプニングも起こらずできたので、大成功だったと思う。

ボランティアセンター学生スタッフ チーム・オレンジ 法学部法律学科2年 石津 咲

暗闇体験は企画側として参加したが、長時間居たのにも関わらずなかなか目がなれなかったことに驚いた。実際の災害を想定して考えることができたクロスロードでは、自分とは異なる立場の意見も聞けたので視野が広がった。避難体験でスキッドを使用したのが、今回のような機会がなければ知ることもなかったと思うので、その利用方法やコツなどを学習できて良かった。暗闇体験も避難体験も企画するのが想像より大変だったが、無事に終わることができて一安心。職員さんがたくさん褒めてくれて嬉しかったし、達成感があった。消化器は過去に1度だけやったことがあるが、利用方法すら忘れていたので、改めて勉強することができてよかった。寝床は昨年よりよく寝られたが、実際はより厳しい条件だと思うと、寝られる気がしない。

ボランティアセンター学生スタッフ チーム・オレンジ 法学部法律学科2年 後藤 元香

今回防災キャンプに参加をして全体を通して、防災の意識や知識を楽しみながら学んで取り入れることができたと感じた。特に、寝る時間に関してはよく眠ることができず、そして実際にはダンボールを自由に使うことはできないため、より過酷なものになるのではないかと感じ、災害時の大変さを実感した。また、消化器体験については普段からどこかの建物に行けば置いてあるような身近なものではあるが使ったことがないという状況であったのだが、今回実際に体験をすることで使い方やどのような状況で活用できるのかについて学ぶことができた。これらの体験を活かして、もし災害が起きたときには率先して行動し、自分自身の命を守り、且つ周りの命も守れるようにしていきたいと思った。

ボランティアセンター学生スタッフ チーム・オレンジ 法学部政治学科2年 毛塚 雅人





集合写真



講師の方による AED・胸骨圧迫講座



非常食の美食をする参加者



防災学習による担架体験



段ボールを使用した寝床づくりの様子



ボアソナード・タワーでの避難体験

43. 富士山自然保全ボランティア

1 日程 10月15日(日)

2 場所 静岡県 富士山麓

3 概要

今年春に続き、NPO 法人富士山クラブさんのご指導のもと、富士山自然保全ボランティアを実施しました。富士山の麓で環境保全活動や自然体験を行いました。出発時点では天候の心配がされていましたが、到着した頃富士山付近は雨が止んでいたため予定通りの活動を行うことが出来ました。今回は法政大学の学生 33名が参加しました。現地に着いてから、最初に環境保全活動について、また森林に関する知識を教えてくださいました。環境保全活動の現状や意義を教わり、この活動の重要性を学ぶことが出来ました。その後、1チーム7人ほどのグループに分かれて森林保全活動に取り組みました。主な活動は、薪を積む、割る、運搬する、テントを立てる、シイタケの収穫・ほだ木積みを行いました。体験を通して、ほとんどの作業を人力のみで行う大変さを感じました。体力の面はもちろん作業をする対象が自然なので、同じ作業をしている中でも状況にあった工夫をすることが必要だと感じました。普段の生活では身近にないものであるため、実際に体験したことで新たに知ることが多く、貴重な体験をさせていただきました。学生は、最初は緊張している様子が見られましたが、協力して作業をしたり、木のプランコやツリーハウスなどの自然体験をしたりしているうちに、自然とコミュニケーションが広がり仲間ととても充実した1日を過ごすことが出来ました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科2年 藤井 りさ

4 学生参加者数 33名

5 参加学生の感想

・今回の森林保全ボランティアで私は、キノコの伐採体験をしました。最初に名前を聞いた際には、きのこの収穫をするだけのお仕事だと思っていましたが、実際はきのこの収穫だけでなく、きのこを育てるための土作りとして木の伐採、木材の切断や加工など非常に多くの体験をさせていただきました。中でも木の伐採では、近くにあって1番細い木を伐採したのですが、非常に大変で完全に木が倒れるまで相当な時間がかかりました。このことから、林業に携わっている方々の偉大さを痛感しました。また、自分たちがとった椎茸は、普段食べているものとは段違いに美味しく、自然の素晴らしさと大変さを同時に体感することができました。次回もできれば参加してみたいと思います。

・富士山の麓での作業ということで興味を持ち参加しました。当日の朝は雨天で富士山は見えず、作業も難航するかと思っていましたが、現地に到着すると雨が止み無事に活動することができて良かったと思います。帰り際には、富士山を見ることもできました。テント立て、薪割り、椎茸菌床整備など、富士山クラブの方々が多様な仕事を割り振ってくださいました。私は薪割りを体験しましたが、思ったより薪が硬く、斧の扱いに苦労しましたが上手く割ることができると爽快感がありました。今回のボランティアツアーで、普段は話さない学部の方とも知り合うことができ、彼らと話す時間がとても楽しいものになりました。ありがとうございました。

・今まで日本の名所である富士山を訪れたことが無く、尚且つ大学生のうちに1度でもボランティア活動を通じて社会との繋がりを実感したいと思い参加しました。森林保全活動を通じて日本や世界が抱える環境問題に関して関心が持てたこと、学科や学年の垣根なく人と繋がれたこと、そして何より自然の中で身体を動かして心地よい疲れを感じることが出来たことで机上では学べない有意義な時間で参加して良かったと強く感じました。また私は3年生ですが、VSPの1・2年生の子たちが運営を頑張っていて凄く尊敬し刺激を受けました。今回の活動で得るものがとても大きく参加出来てよかったと改めて感じます。ありがとうございました。





力を合わせて大木を倒す作業



薪割の様子



薪を運ぶ学生



大自然の中での活動



富士山クラブの方からの説明



集合写真

44. 麴町災害対策総合訓練

1 日程 2023年10月18日(水)

2 場所 日本武道館

3 概要

2023年10月18日に日本武道館で行われた麴町災害対策総合訓練に参加した。

最大震度7の首都直下型地震が発生したことを想定し、大学からの避難に始まり、ケガ人への応急処置や身近な防災術、起震車など普段できない体験を行った。ロープワークなど教えてもらわなければ活かすこともできないような貴重な体験をした。その後、災害対策競技会も開催され、他大学とともにゲーム性がある中で防災に関わる知識を身に着けることができるイベントだった。最後はトヨタ、ハウス食品の協力のもと炊き出し体験を行い、避難所や緊急時の食事を体験することができた。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 文学部地理学科1年 小林 真聖

4 学生参加数 12名

5 参加学生の感想

災害において使える知識を実践的に教えて頂けて、とてもためになる機会だった。警察や消防の方と大学で対抗のチームプレーをして楽しみつつ、学ぶことができた。実際に使うときに思い出せるように、日々防災のための知識をインプット・アウトプットしていくことの大切さを感じた。

ボランティアセンター学生スタッフ チーム・オレンジ 法学部法律学科4年 石田 里菜

普段はあまりやらないが、緊急時には必ず率先してやらなければいけないこと。そんなことをたくさん学ぶことができた半日だった。特に、応急処置や救急措置は誰かを守るために必要な体験だと思い、

もしもの時のために訓練した内容を忘れないようにしたいと思った。災害対策競技会では他大学と切磋琢磨し、非常に楽しみながら防災について知識を深めることができたと思う。今回得た知識を他の人たちに共有することで、1人でも多くの人を救うことのできる環境づくりを進めていきたいと感じた。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 文学部地理学科1年 小林 真聖



全員で記念撮影



動かなくなった車を押す学生

45. 神保町ブックフェスティバル

- 1 日程 2023年10月28日(土)、29日(日)
- 2 場所 神田神保町 すずらん通り 神保町三井ビルディング公開空地
- 3 概要

第31回「神保町ブックフェスティバル」が10月28日と同29日の2日間、開催されました。会場は東京・千代田区の神田神保町、すずらん通り、神保町三井ビルディング公開空地になります。本学からも2日間で21名のボランティアスタッフが参加しました。活動内容はごみエコ隊（ごみの分別指南役、ごみの減量化）、インフォメーション（来場者への会場案内）、交通案内（道路横断時の誘導、案内）ステージのサポートなどを各人グループに分かれ担当しました。

全国でも最大級の規模を誇る、読書の秋にふさわしい本のお祭り「神保町ブックフェスティバル」。出版社をはじめとした多数のブースが並び、幅広いジャンルの書籍を販売されました。お天気にも恵まれ、また他大学の学生、社会人の方のボランティアスタッフの活躍もあり、本好きにだけでなく、老若男女、ご家族みんなで楽しめる2日間となりました。

- 4 学生参加者数 10月29日(土) 10人
10月30日(日) 11人

5 参加学生の感想

今回はボランティアに参加させていただきありがとうございます！このイベントではこども広場のインフォメーションを担当し、市民の方や観光客と交流することができました！そのおかげで少しですが普通に訪れるだけでは分からない神保町の魅力が分かった気がします。また、明治や共立女子などの他大学の交流も行うことができました！そのおかげで少し和を広げることができた気がします。次もこのような地域のイベントがあればぜひ参加したいです！

デザイン工学部都市環境デザイン工学科2年 古賀 大善

神保町ブックフェスティバルの活気に圧倒されました。たくさんのジャンルの本が並べられており、幅広い世代の方がブックフェスティバルを楽しんでいるようでした。私はボランティアとして参加者にゴミの分別を促しました。しかし、多くの方は自ら進んで分別してくださり、私の役目はほぼありませんでした。それほど参加者のみなさんがこのお祭りを大切にしているように見えました。神保町ブックフェスティバルがこの先もずっと続いて欲しいです。

文学部・日本文学科1年 大江 千歳

市ヶ谷ボランティアセンター・地域貢献ボランティア

本の街 神保町

神保町ブックフェスティバル

10月28日(土) 29日(日) 会場：神田神保町 すずらん通り・さくら通り

運営ボランティア募集！

本の街として知られる東京・神田神保町で今年もブックフェスティバルが実施となりました。大手から中小のまでさまざまな出版社が製本で本を販売します。本好きが「掘り出し物」や「お宝」を求めて神保町に集まります。新刊本のお祭りにもあなたもボランティアとして参加し、神田神保町を身近に感じてください。

ボランティア概要
・見回り隊・インフォメーション・交通案内

●10月28日(土)	●10月29日(日)
①10:00~13:00	⑥10:00~13:00
②10:00~14:00	⑦10:00~14:00
③13:00~16:00	⑧13:00~16:00
④14:00~18:00	⑨14:00~18:00
⑤16:00~19:00	⑩16:00~19:00

※開場30分前までに受付をすませてください。お申込みはこちらからお申し込みます
イベント保険加入、食事(軽食)が付きです。時間帯が重複しなければ複数コマの応募が可能です。

お申し込み・お問い合わせ
市ヶ谷ボランティアセンター(外環校舎1階、学生センター内)
tel. 03-3264-9516 ichigayavo-apply@ml.hosei.ac.jp



ごみの分別ボランティアをする学生



ブックフェスティバルの会場

46. 一緒に優しい世界を作りませんか？～ダウン症の子と一緒に大学祭を回ろう！～

1 日程 2023年11月3日(金)

2 場所 法政大学 市ヶ谷キャンパス

3 概要

「ダウン症」という言葉は多くの人に知れ渡っている一方で、当事者の方々に対する理解や配慮が、現在の社会では不十分なのではないかという問題意識を持っている。そこで、ダウン症に関する企画として、前期にオンラインにてNPO法人アクセプションズさんによるダウン症に関する講義を実施した。そして今年度第二回目の企画として法政大学市ヶ谷キャンパスの大学祭と一緒に回ろうという企画を実施した。午前、午後と2部制で行った。まず、ダウン症の方と学生混合の、4～5人ほどのチームに分かれてもらった。その後5分ほどのアイスブレイクの時間を取った後、90分ほど大学祭を自由に回ってもらった。控室として教室をおさえたり、チーム割を考えたり、事前に参加できそうな教室企画などをピックアップし、マップを作るなどの準備を重ね、充実した企画を実施することができた。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 人間環境学部 1年 高木 結衣

4 学生参加数 13名(法政大学12名、共立女子大学1名)

アクセプションズさんからの参加数 7名

5 企画学生の感想

参加したダウン症の子は最初、保護者の方がおらず不安がっていましたが、その後色々なところを回りたいと言ってくれてたくさん笑顔を見せてくれたのがとても嬉しかったです。時間通りに戻れないというハプニングもありましたが、そのときの対応で言葉のかけ方の工夫やコミュニケーションを意識したことなど、自分の成長も少し感じられました。大学祭企画自体は昨年度も実施しており、私も参加しましたが、今年はグレードアップして実施できたことで、楽しむと同時に学びの機会にもなったことが本当に嬉しかったです。教室に笑顔で帰ってきたことにより会話が弾んだり、事後アンケートでは各々固定観念や考え、接し方の部分で多くのことを学べたという意見を聞いて、やってよかったと思うことができました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部英文学科 3年 菅原 光里

ダウン症の方と一緒に学祭をまわったことで、ダウン症に対する理解が深まったと思います。特に、一緒にまわってくれた子はパワフルで、学祭の出し物や学祭に訪れた人など様々なものに関心を示していたのが印象的でした。また、保護者の方からダウン症の方のお仕事や大変だったことについてのお話を聞くことができ、ダウン症の方の実生活にも興味が湧きました。ダウン症の方だけでなく、保護者の方とも交流することができ、大変貴重な体験だったと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 経営学部経営戦略学科 3年 境野 怜佳

今回の企画でダウン症の方と初めてコミュニケーションをとって、実際に会うことで得られたものが非常に多かったです。学祭と一緒に回ったダウン症の方も含め班全員が同い年だったこともあり、班のメンバーがとても楽しそうだった姿が印象的でした。ダウン症とひとくくりの表現では収まらない、それぞれ異なる性格や個性を持っていると感じました。実際にコミュニケーションをとったことで、講義で学んだ内容を改めて理解し、関わり方などの実践的な部分も学べる貴重な機会でした。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 国際文化学部国際文化学科 1年 岡安 愛羽



6 参加学生の感想

・ダウン症の方と接するのは初めての経験だったので、緊張しました。最初は何を喋るか迷いましたが、康平君と歳が近いこともあって共通の話題をお互いに話せることができるようになりました。また、VSPの方も一緒に回りましたが、コミュニケーション能力が高く、助けてくださった場面が多かったです。本日は貴重な体験ありがとうございました。また来年も参加したいです。

・これまであまりダウン症の方と関わる機会がなかったので、ダウン症の方を遠い存在に感じていましたが、イベントでダウン症の方と沢山お話することができて、ダウン症の方を身近に感じることができました。ダウン症の方と一緒に文化祭を回ってみて、どういう方法で、ものごとを伝えたり、希望を聞いたりしたら良いのかが初めは分からなかったのですが、イベントを通して、少し感覚が掴めたような気がします。もっとたくさんお話ししたり、関わってみたりしたいと思いました。本当にありがとうございました！！

7 アクセptionsさんの参加者の感想

・年の近い学生の方々と一緒に回ることができ、親と一緒にとは違う楽しさがあったようです。学祭は全く未知の世界でしたから親子共々楽しめました。

・本人は去年のことも覚えているようでまた学園祭に参加できてとても楽しかったと言っていました。今年は飲食と一緒にできたことも印象深かったようです。

この日に向けてお忙しい中いろいろとご準備いただきありがとうございました。



キャンパス内を楽しむ様子



作成した地図を見ながら案内スタッフ

47. 市ヶ谷キャンパスで災害が起きたら？大学生にできること、考えよう！

1 日程 11月6日（月）

2 場所 ポアソナード・タワー3階 マルチメディアスタジオ

3 概要

首都圏で大地震といった災害が発生した場合、千代田区の通勤者や通学者など、多くの人々がキャンパスに避難してくると予想されます。その中には、妊婦さん、子供連れ、障がいがある人など、様々な事情がある方も避難してくると考えられます。本企画は「災害弱者」「予期せぬこと」「大学生にできること」など、答えのない問いに対して、学生が考える機会を作る目的で対面にて実施しました。講師の法政大学人間環境学部教授の高橋五月先生から考えるヒントをいただきながら、班でのディスカッションと発表に挑みました。「予期せぬことの向き合い方」として、クロスロードゲーム体験やチームオレンジの紹介、大学の備蓄の現状を紹介し、日頃から自分自身を守る行動や考えるべきことを伝えることができました。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ人間環境学部人間環境学科2年 田宮 帆華

4 参加人数 27名（法政17名 三輪田学園10名）

5 企画学生の感想

災害弱者と聞いて高齢者や妊婦の方などを想像しましたが、自分が想像する以外にも、多くの方が災害弱者に該当すると知って驚きました。参加者の中には、自分は災害弱者に該当しないだろうと思っていた人もいたと思いますが、状況によっては自分も災害弱者になるということを知り、各々が自分事として捉えられたと思います。グループディスカッションを中心としたイベントであったため、多くのグループから個性的な意見が出て、お互いにとって学びとなりました。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ法学部政治学科3年 磯網 巴

6 参加学生の感想

私は災害弱者という言葉を知りて身体が不自由な人などを最初に思い浮かべた。しかし、そうした人たちは弱者であることを証明できる人であり、身体が不自由な人を介護する人や乳幼児がいる人といった一見弱者には見えない人も災害弱者に含まれるのではないかという話が印象的だった。そのように考えると、誰でも災害弱者になる可能性があるため、他人事として捉えるのではなく、日頃から災害にどう備えるか考え、実行する必要があると気づくことができた。

法学部政治学科3年 守 綾乃



司会を担当する学生スタッフ



グループディスカッションの様子

48. 手話講座入門編

1 日程 2023年10月10日、17日、24日、31日、11月7日、14日、21日、28日（いずれも火曜日）

2 場所 法政大学市ヶ谷キャンパス 富士見ゲート5階 G501教室

3 概要

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ VSP では、本学学部生を対象とした手話講座を開設いたしました。本企画は、手話の入門として、基礎的な知識、スキルを習得するとともに、ろう者をはじめとした障がい者に対する理解を深め、誰もが暮らしやすい社会について考えを深めることを目的としました。手話通信士として現役でご活躍されている中野佐世子氏を講師としてお招きし、実際の手話を見ながら、挨拶など基礎的な表現から指文字などを用いて自分の伝えたい内容を相手に伝える応用的な練習などまで、段階的に幅広く実施いたしました。全8回と比較的長期にわたる企画であったため、参加率の低下等、懸念されましたが、学んだ手話を実際に使用する機会としての交流会を設けるなどし、参加者のモチベーションを維持したまま全8回を終了することができました。全8回終了後に参加者に向け実施した事後アンケートからは、本企画に満足したとの旨の感想に加え、「なかなか踏み出せなかった手話を始めるいい機会になった」など、手話講座入門編を本学で実施したことそのものに対する反響の声が多くみられ、本企画は本学学部生にとって手話の世界に足を踏み入れることのできる良い機会になったと実感しています。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部法律学科1年 重永 等

4 延べ311名（全8回）

5 企画者感想

聞こえない世界に住むろう者と聞こえる世界に住む私、講座を受ける前、私は当然そこには決定的な違いがあって、聞こえない世界に住むろう者を聞こえる世界の私がサポートするための手段として「手話」を学ぶ機会だと無意識的に考えていました。しかしながら、その考え方は間違っていました。聞こえない世界に住む彼らと私たちの間に優劣や、援助する側とされる側と言った違いなど存在しないのです。彼らは私たちが口で発声するのと同じようにコミュニケーション手段として「手話」を使い、同じように笑い、同じように生活しています。私たちは、聞こえない世界の人をサポートするために「手話」を学んでいるのではなく、一人でも多くの人々と語り合うために「手話」というコミュニケーションスキルを習っているのだとそう考えるようになりました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部法律学科1年 重永 等

簡単なあいさつ、指文字から始まった手話講座は全8回終わる頃には文章を手話で表せるほどの表現力が身につく、毎週着々と手話が身についている自分に成長を感じていた。毎回講義だけでなくゲームを通しての実践が、楽しみながら実力をつけられたのだろうと思われた。また、グループワークも多かったことから、自然と参加者の中で交流が生まれていたことも企画者側からすると喜ばしいことだった。一方で、講義内容では補聴器についての話題に興味を持った。補聴器をつければ鮮明にはっきりと周囲の音を聞き取れると勘違いしがちである。実際はすべての音を拾って増幅しているだけであるので、方向や距離感が掴みにくく、私たちは声を届けるために正面からハッキリゆっくり話す必要があるのだ。補聴器の知識のみならず、恥ずかしながら知らなかったことばかりだったが、いずれにせよ健常者側が意識しなければいけない問題であると感じる。そのため、健常者側が手話といった実践的な内容に含め、知識を身につけることが障害を持つ人々や高齢の方に1番寄り添う形になるのではないかと考えた。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 経営学部経営学科1年 山内 万結子

6 参加者の感想

8回の授業、本当に楽しく受講致しました。どうしても手話は本や教科書ではなく、実際見て自身もを動かして学べるものなので本当に良い経験になりました。企画者の方々も少しでも講義が良いものになるようにとの努力がこちら側にもかなり伝わってきました。企画者の方々と受付や手話のグループで話しましたが、皆さんの人間性の素晴らしさに脱帽しました。とても有意義な授業でした。心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

文学部・哲学科1年 磯崎 豊





手話で挨拶をする参加者



中野先生から直接手話を学ぶ学生



手話で発表する様子



中野先生と企画者の皆さん

49. 野鳥保護区の保全活動

1 日程 2023年11月11日(土)

2 場所 行徳鳥獣保護区

3 概要

私たちが暮らす東京など都市部では、都市の発展に伴って環境保全という課題が浮き彫りになっています。また産業の発達した現代社会は、海洋プラスチック問題も抱えています。そこで、野鳥保護区の保全活動を通して環境問題について考えるため、NPO 行徳自然ほごらぶの野長瀬様に講師をお願いし本企画を実施しました。本企画では、はじめに行徳鳥獣保護区の歴史や保全活動の内容について学び、保護区の清掃活動、バードウォッチングを行いました。行徳鳥獣保護区は水路で海とつながっているため、ペットボトルなど多くのゴミが漂着していました。海を漂う海洋プラスチックを海鳥が誤って食べてしまうなどの問題がある中で、改めて使い捨てプラスチックの使用を減らすなど、自然界にプラスチックを流出させないための取り組みが必要だと実感しました。また、バードウォッチングでは関東最大のカワウコロニーなどを観察し、野鳥の保護活動について学ぶことができました。参加者からも自然の中で貴重な経験ができたという声が寄せられ、普段自然と接する機会が少ないからこそ、実際に自然に触れることで環境について考えることが大切だと思いました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部法律学科2年 宮野 真

4 学生参加者数 15人

5 参加学生の感想

水車を回すことで工場排水を用いて埋立地に保護区を作るという発想に驚きました。様々な遷移状態が存在していて、定期的に水を干上げることにより初期遷移を生み出している場所が新鮮で面白かったです。1番衝撃を受けたのは散った白い羽の山を見た時です。大型の猛禽類がサギか何かを狩って食した跡だそうで、命や自然を感じられる貴重な機会を頂きました。飛んでいる鳥を見ようと双眼鏡のピントを合わせるのに苦戦しましたが上手くいくとワクワクしました。チャッチャッと地鳴きをしていたウグイスが轉る季節にまた訪れたいです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 経営学部経営学科2年 伊藤 萌香

私は、整備されている鳥獣保護区に足を踏み入れさせていただき、高速道路が非常に近いにもかかわらず、野鳥がのびのびと生活していたことが最も印象に残りました。また、野鳥だけではなく、川の生き物がいたり、草木が生えていたりしていたため、自然の豊かさを感じました。現在、森林減少が地球規模で深刻な課題となっていますが、ただ森林を残すだけではなく、それを人間が整備して生態系を守ったり、草木が自然に生えてきたりする環境を作ることが大切であるのではないかと考えました。今回、野鳥を保護するとともに自然を守る活動に参加できたことを嬉しく思います。

(ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部国際政治学科2年 魚地 遥香)

保護区内をゆったり歩きながら、見える鳥や蟹などの生き物について特徴や生態などの解説してもらいました。足跡をみて、これはタヌキだ、アライグマだと教えてもらったのが印象に残っています。あんなに見た目は似ているのに足跡だと全然違うのですね。こういう知識をパッと話せたらカッコいいと思います。(笑)実際に自分で色々見たことで、ただ聞くだけでは得られない鮮烈な体験をさせていただきました。

文学部地理学科2年 中川 まちる



バードウォッチングをする様子



NPO 行徳自然ほごらぶの野長瀬様の説明

50. 洋服リサイクル企画

- 1 日程 2023年11月16日(木)
2 場所 法政大学市ヶ谷キャンパス 富士見ゲート2階 G201

3 概要

今回学生に洋服の現状問題を知ってもらい、そこから参加者自身が考えてもらう時間となるように本企画を実施した。本企画はH&M様を講師として招いての実施であった。対面とZOOMのハイフレックス型で行い、講義企画、古着回収体験談、そして講義をもとに「当事者としてできること」「回収の面倒をどう解決するか」についてグループディスカッションを行った。
ボランティアセンター学生スタッフ VSP 経営市場経営1年 植松 久美子

- 4 参加人数 38名(法政21名 三輪田学園17名)

5 企画学生の感想

洋服リサイクル企画を通して、H & Mさんの取り組みを知り、ファッションとサステナビリティについて改めて考えることができた。また、ファッションをより長く楽しむためには、環境、社会、経済に対して包括的にアプローチすることが必要であり、古着回収ボックスなどの取り組みはサステナブルな未来へつながる一歩であると感じた。さらに生産者側だけでなく私達消費者も含めた双方の継続的な取り組みが大切であり、今回の企画では洋服を捨てるのではなく、「リサイクルする」という意識を持つことができた良い機会であったと感じる。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科1年 小林 月琴

今回身近である洋服のリサイクルについて詳しく知りたいと思い企画者として携わりました。H & Mという大手企業の方を招いての企画が初めてで不安がありましたが企画本番では予想していた定員より多く、50名ほどの規模で実施することができ貴重な体験ができました。講義で洋服のアフターケアや実際に体験した古着回収やリユース・リサイクルを行っていることを知り、私は体験するまでH & Mさんが他ブランド、少しの汚れ・穴があっても持ち込み可能な古着回収をしていることを知らなかったので、私だけでなく他の学生にも身近な洋服のサステナブルについて知る機会になったと思いました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP デザイン工学部都市環境デザイン学科2年 富士 祥花

ファッション産業は製品生産段階だけでなく、人々の手に渡った後、その洋服をどうするかによって環境に与える影響が大きく変わるということを学ぶことができた。私はこの企画に携わるまで着られなくなった服の大半を処分していた。けれども、ファッション産業と環境問題について考えてみると、古着回収のような洋服を循環させる取り組みは将来的に人々が洋服を買い、着ることの楽しみを継続させるために必要不可欠であると感じた。そのために自分たちは何ができるのか、改めて考えていかなければならないと思った。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科3年 守 綾乃

6 参加学生の感想

全体的に、大変興味深い内容でした。私は学部の授業でビジネスプランを考える授業があり、そこで古着を利用した洋服レンタルサービスを考案し、最終課題で提出しました。そのときは、環境面で考えるというよりも、古着を使えば安くレンタルができるだろうというコスト面だけを考えていました。しかし、環境面でもたくさんの貢献できる点があることをこの企画を通じて痛感させられました。今後は買い物する際にも、今日学んだ視点を持っていけたら良いと感じました。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科2年 山本 真聖

私は、以前からH & Mのリサイクルボックスを利用していたのですが、その回収された洋服がどうなるかなどは知らなかったのですが、今回の講義で知ることが出来て、とてもおもしろかったです。普段は企業さんから与えられたものを利用するだけだったので、今回のグループワークを通して、回収の面倒を無くすにはなど、自分から意見を発信できる機会があって、とてもよかったです。

法学部国際政治学科2年 浅井 春菜



回収ボックスに古着を入れる VSP 企画者



講義の様子

51. 冬の献血企画

1 日程 2023年11月21日(火)、22日(水)

2 場所 富士見坂庭園

3 概要

4 令和5年11月21・22日に、日本赤十字社の方々と献血企画を実施いたしました。寒さが増しており人通りも少なくなりつつある中で呼びかけ活動ではありましたが、沢山の方々にご来場いただき合計で115名の方々が献血にご協力くださいました。ご協力頂きました皆様に感謝申し上げます。今現在、血液を求めている方が多くいらっしゃる一方で献血協力者の確保が困難な状況にあり、特に若者の協力者数の減少が課題となっているとのことです。今後も積極的に献血企画を行って参りますので、引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。また、今回の活動を通じて協力の呼びかけを休み時間等の往来増加時間に行う方がより効果的であると感じましたので、今後の改善点として検討してまいります。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP デザイン工学部システムデザイン学科
真田 紗季

5 学生参加者数 115人(内献血者数89人、26名は献血できず)

6 参加学生の感想

- ・自分の血液型を知らなかったのでそれを知る機会を得、また体に関する検査結果を知ることができ、とても良かった。これで少しでも病院や病気の方々に貢献できたかなと感じます。
- ・献血は初めてで緊張したが、担当の方々がとても優しく、安心できた。また、記念品も魅力的で参加しようという意欲が湧ききっかけとなった。
- ・始まる前から少し緊張してしまって採血中も緊張したけど、結構あっという間に終わりました。自分の血が誰かの役に立てばいいなと思います。



ティッシュを配布して献血を呼びかける VSP 学生スタッフ



献血の受付をする参加者の様子

52. 「子ども居場所」企画イベント 『学びンピック』

1 日程 2023年11月25日(土)

2 場所 日暮里駅前イベント広場

3 概要

新型コロナウイルスのパンデミックにより、多くの小中学校が休校、運動会等の学内行事が中止になってしまいました。そのため、現在の小中学生は他の世代と比べてイベント等でしか味わえない体験を得る機会が制限されてきました。そこで、本企画では小中学生向けに、体を動かしながら学べるスポーツイベントを実施しました。球技とクイズを組み合わせたり、走りながら課題を解決したりする競技を通して、教室で授業を受けるのとはまた異なった学びの時間を子どもたちに提供しました。当日は駅前の開けた空間で本企画を実施したため、参加者は途中参加・退出も可能という形式で行いました。 ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部日本文学科2年 早川 大心

4 学生参加者数 4名(企画者4名)

5 感想

今回のイベントではもともと子どものみが対象でしたが、通りかかった外国の方、お年寄りの方など、さまざまな方も参加してくださいました。寒空の中でも、上着を脱いで遊ぶ子どもたちのパワフルでエネルギッシュな姿から元気を貰うことができました。特にポッチャは、どんな人でもできる競技で、ルールや目的を学びながら遊ぶことができ、多くの参加者の方々から好評価をいただくことができ、非常にやりがいを感じました。性別、年代、国籍を超えて交流できたことは、とても貴重な経験になりました。このような学びとスポーツの両方ができる交流の場をもっと増やしていきたいです。 ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部法律学科1年 藤原 心音

今回スポーツ×勉強イベントである学びンピックを通じて、新たな学習支援のかたちを見つけることができたと感じています。また、教室で授業を受けるのとは異なる学びの時間や世代を問わず交流することのできる機会を提供することができたと感じています。このイベントが子どもたちにとって学びをより楽しく、身近に感じられるきっかけとなっていれば嬉しいです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科1年 小林 月琴



球技とクイズを組み合わせた体験をする参加者



ポッチャの様子

53. 新宿・市ヶ谷間清掃企画

- 1 日程 11月25日(土)
2 場所 新宿御苑付近から法政大学市ヶ谷キャンパス

3 概要

新宿御苑付近に集合し1チーム6人ほどの4つのグループに分かれて清掃を行いました。一人一人ゴミ袋とトングを持って法政大学市ヶ谷キャンパスまで2時間かけて清掃しました。街路樹が紅葉していて、秋を楽しみながら清掃を行うことができました。今回は法政大学の学生23名が参加しました。ゴミは空き缶やペットボトル、タバコの吸い殻が多く合計で38.16kgにも及びゴミを回収しました。歩いていてそこまでゴミが多い印象はありませんでしたが、いざ集めてみるとこれだけ多くなって、普通の道にもゴミがたくさんあることに気付きました。すれ違う方に褒めていただけたことがとても嬉しかったです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 経営学部経営学科2年 伊藤 萌香

- 4 学生参加者数 23名

5 企画者の感想

今回は長距離清掃として約2時間の清掃を行いました。班のメンバーとの交流を楽しみながら新宿御苑から市ヶ谷キャンパスを目指してゴミを拾って行く中で、大通りでも様々なゴミが落ちており、全員が袋いっぱいになるほどのゴミを拾うことができました。最終的には全体でかなり多くのゴミが集まり、達成感を目で実感したのと同時に、この距離でこれだけのゴミが落ちていたことに驚きました。本企画は普段どれほどのゴミが道に落ちているのかを知る良い機会となりました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部法律学科1年 鈴木 理央

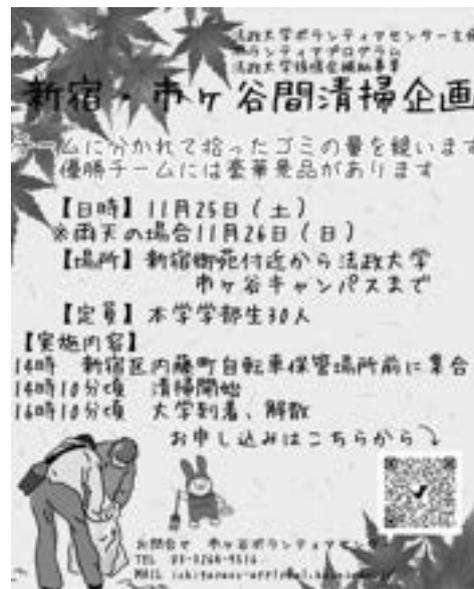
6 参加者の感想

小金井キャンパスのストリートダンスサークル、小金井 groovy を代表して参加させていただきました。ゴミ拾いボランティアは、とても有意義な体験でした。地域の公園や通りを歩きながら、捨てられたペットボトルや紙くずを拾うことで、自分たちの住む環境を直接的に綺麗にすることができました。この活動を通じて、日常生活で見落としがちな地域の清潔さや自然の大切さを再認識することができ、非常に意義深いです。また、同じ目的を持った仲間と協力することで、コミュニティの絆も深まりました。この体験は、今後も続けていきたいと強く感じました。

理工学部電気電子工学科2年 廣瀬 竜斗

ゴミを拾うという行為は単純でありながら、ゴミを拾う者に多くの思索をもたらす。このゴミは誰が捨てたのか、なぜここにゴミはあるのか、果たしてこれはゴミなのか。路上にゴミを捨てた者に対する怒りは不思議と生まれにくい。私はただ目の前のゴミを拾うことに集中していた。結果的にゴミを拾うという行為を媒介として、同じ空間にいる学生との交流、新宿の地理的分析、人々の観察などができ、とても有意義な時間となった。

文学部日本文学科3年 高橋 梨咲



VSP 企画者からの説明



参加者の皆さん

54. 本リサイクル企画

1 日程(期間) 2023年7月～11月

2 場所 学生センター前

3 概要

本企画では、大学内に本リサイクルボックスを設置し、回収した本を寄付金として、支援を必要とする団体へ寄付を行った。ボックスを設置していた約4か月間で、39冊の本が寄付された。この寄付金は、学生のアンケート結果から「NPO法人ペット里親会」という団体に寄付を行った。本企画は、リサイクルにご協力いただいた学生の方々と直接顔を合わせることはできなかったが、企画者としてご協力いただいた方々の想いをのせて、支援先に届ける役割ができて大変光栄に思う。アンケートにて、今の学生が興味を持っているボランティア活動についても調査することができたため、今後のVSPの企画づくりに活かしていきたい。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 法学部政治学科3年 今給黎 優那

4 学生参加者数 企画者5名 寄付した本39冊

5 企画者の感想

今回の企画ではポスターや回収ボックスを作り設置するという形だったため、ご協力いただいた方々と直接会うことは叶いませんでしたが、予想以上にたくさんの本が集まりとても嬉しく感じました。今後も定期的にこのような企画を開催し、より多くの方がボランティアやNPO等に興味を持っていただくきっかけになればと思います。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 法学部国際政治学科3年 星野 美郷

この企画ではポスターを作ったり、回収ボックスを作ったりしましたが、どちらも楽しかったです。本を送る支援先を考えるのも楽しかったです。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 文学部3年 羽田 健太郎

この企画を通して本をリサイクルすることで、私たちがどのように社会に貢献出来るのかを学ぶことが出来ました。企画の途中では、回収した本がなくなってしまったこともあり、思ったように本を集めることが出来なかったため、本を集めるためにより学生の目を引くような工夫をするという部分が改善点だと思いました。

ボランティアセンター学生スタッフVSP キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科2年 藤井 りさ



リサイクル可能な多くの本が集まった



回収した本を梱包する学生

55. 災害時学生ボランティア研修会

- 1 日程 2023年12月2日(土)
- 2 講師・協力先 警視庁警備部災害対策課、東北福祉大学・船渡忠雄氏
- 3 場所 新宿NSビル30階NSスカイカンファレンス

4 概要

東北福祉大学の船渡忠雄氏からの講義の後、避難所運営ゲーム(HUG)を使っての図上訓練を行った。講義では船渡氏が経験されたボランティア活動の内容について、詳しくお話をうかがうことができた。避難所運営ゲームでは、グループに分かれ、避難所で起こる様々な出来事を模擬体験し、災害時何が求められるか考えた。

- 5 学生参加者数 1名

6 参加者の感想

船渡氏は講義の中でボランティアは自主性と楽しさが大事だということを強く強調されており、私たちの、ボランティア、防災啓発の活動にも軸となるものが必要であると感じた。また、避難所運営ゲームでは、リーダーという役割の重要性を学ぶことができた。限られた時間で最良の選択をするためにはリーダーは必要不可欠であり、普段防災に触れている私たち自身がいざというときにリーダーになれるよう、日々学びを重ね、正しい知識をすぐに取り出せるようにならないと感じた。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科2年



避難所運営ゲーム(HUG)

56. 農業ボランティア

1 日程 2023年12月3日(日)

2 場所 群馬県 渋川市

3 概要

本年度初の「農業企画」。非営利団体いよいよさんのご指導のもと、農業ボランティアを群馬県渋川市にて行いました。天候にも恵まれ、予定通りの活動を行うことが出来ました。今回は法政大学の学生20名が参加しました。日本三代うどんの一つ水沢うどんを食べて、力を蓄えたところで農業作業を開始しました。主な作業はさといも掘りとブルーベリーの剪定、ネギの種植え作業でした。「農作業をしつつコミュニケーションも大切にする。それが何十年先に生きることあるので何事もチャレンジしてほしい。」そんな素敵な想いのある方たちと活動することができました。その後、収穫した採れたてのさといもを使った豚汁をみんなでいただきました。次回はまた違う農作物を収穫できたらと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 経営学部市場経営学科2年 渡部 菜奈

4 参加人数 20名

5 企画者の感想

今回の農業ボランティアで私は、さといもの収穫とブルーベリーの剪定作業をしました。土を触ることすら懐かしく思いつつ、自分たちがいかに自然に触れられていないかを実感しました。またスーパーでは見ることも無いさといもの個性豊かな形に驚きながらも収穫作業を行いました。私たちは1番達成感のある収穫を経験したのですが、農家さんはこういった作業を毎日やっていると思うと本当に大変な作業だと思いました。「毎年育て方を変えることで収穫量や味までも変化する。」と教えてもらいました。そのため農家さんは毎日力仕事が多く大変だと思われていますが、そういった毎年変化のある楽しみ方があるのだと気づくことができました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 経営学部市場経営学科2年 渡部 菜奈

今回の農業ボランティアに参加したことによって、私は農業の楽しさや大変さ、更には農家の方々に対するありがたさを改めて認識することが出来た、とても充実した良い機会になりました。近年、日本では少子高齢化の加速が問題視されており、それに伴う形で農業に携わる人の数も減っているのが現状です。しかし、そんな中でも私たち消費者のために農家さんは毎日身を粉にして農作業をしてくださっており、私たちは何気なくスーパーで野菜等を沢山買いますが、そういった行為が当たり前なことではないのだと再認識し、感謝の気持ちを持たなければいけないと感じました。大変なことが多いけれど、その中でも農作物の小さな変化に喜びを感じていると、農家さんから貴重な話を伺うことが出来ました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部法律学科1年 福本 晴己

6 参加者の感想

第一に自然に囲まれるような場所で活動できたことが何よりも嬉しかったです。農家さんの話を聞く限りでは農業における人手不足が深刻だという現状を身をもって認識できたことが1番大きかったかと思います。農業地域に遠征して実際に自分が体験するという一連の流れが自分の経験と知見を培ううえで重要な要素だったかと感じられました。特に、山の手の中心に毎日通う私は、通学途中または学生同士の会話の中で、基本的に第三次産業的なものとはしか接触しません。だが玉ねぎの苗一つずつ植えながら、確かに日本には第一次産業とまたそれに従事する人の声が存在することを感じました。私の専攻は農業ではないが、農業の抱える喜びとそれより大きな痛みを今回感じ取ったことで、フードロスや農業従事者の高齢化・低賃金労働などに対して、肉体的に問題意識をもてるようになることを願います。

経営学部経営学科1年 山田 悠仁



さといも掘りの様子



ネギの種植え作業の様子

57. 手話講座特別編

- 1 日程 2023年12月5日(火)
- 2 場所 法政大学市ヶ谷キャンパス 富士見ゲート5階 G501教室
- 3 概要

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフVSPでは、本学学部生を対象とした手話講座・入門編を10月10日から12月28日までの期間で実施した。そして、本講座は入門編に続く特別編として、デフリンピックの自転車競技への出場経験もある早瀬 憲太郎氏をお呼びし、講座を開講した。入門編では基礎的な知識、スキルの習得を主な目的としていたが、今回の特別編では会話において使われる手話を実際に体験する、そして早瀬憲太郎氏のお話を聞くことでろう者への理解を深めることを目的とした。本企画にて、早瀬憲太郎氏にはまず、自身の生い立ちや家族の存在、ろう者の日常生活についてまずお話しいただき、次にデフリンピックに出場した際の体験、NHKみんなの手話講座にて講師を目指したきっかけ、8年出演して今思うことなどをお話しいただいた。そして、現在も公開中である映画「咲く」など映画監督としてのご活躍、ろう者の方も楽しめるスポーツ実況を行うことへの取り組みに関してのお話もお聞きすることができた。入門編から続く今回の手話講座の締めくくりにふさわしく、手話を実践的に用いた企画を行うことができた上、早瀬氏からは耳が聞こえない世界の一端をとても深くお聞きすることができた良い機会だったと感じる。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 人間環境学部人間環境学科1年 高木 結衣

- 4 学生参加者数 33名(法政32名 専修1名)

5 企画者感想

今回の手話講座特別編にて私は初めてろう者の方が使う手話というものを体験しました。入門編でも中野先生と手話を使った会話というものを練習してきましたが、最も違いを感じたのは「抑揚」についてです。私たち聴者が話すのと同じくらい、手話で抑揚が表現されていた点から音は発生しないものの、手話が「生きた言語」であることを実感しました。そして講義中のお話の中で印象に残っているのは聴者とろう者の聞こえ方の違いについてです。早瀬さんが小さかった頃、妹さんからドアの開め方について注意されたことがあったそうです。聞こえないからこそ意識せずにドアを思い切り閉めてしまうけれど、聴者はゆっくり丁寧に閉めていることを、注意された時に初めて気づいたそうです。聴者がろう者に対して違和感を覚える点はこの「気づき」があるかどうかで、他は聴者と同じなのだ改めて感じました。また、早瀬さんが母から投げかけられた「失敗を恐れて挑戦は迷わず」という言葉は私の中で強く印象に残り、これからもこの言葉を大切にしていこうと思います。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 人間環境学部人間環境学科1年 高木 結衣

全8回の入門編と、昨日特別編も企画実施いたしました。入門編では、参加者から「楽しく学べた」という声を多くいただき、「手話講座を通じて新たな友人ができた」という方、「コミュニケーションをする中で、気遣いや汲み取る優しさが大切だと改めて気づいた」と仰っていただいた方もいて、講座自体、とても意欲的な雰囲気、受講者同士でのコミュニケーションを図っていたので、目的としていた、「手話」に関して楽しく学び、そして新しい知識、今ある考えをさらに深める機会にすることが出来ました。特別編では、講師にろう者である早瀬様を迎え、講義形式で企画を実施いたしました。参加者は33名で、身内の方にろう者がいらっしゃる方、将来の仕事がもう決まっている方などいましたが、生の手話というのは私個人の感想としては、本当に生き生きとしており、入門編で習ったものも多かったので、わかる部分もあり、楽しかったです。一方で、自分自身が抱えていた偏見についても気づくことが出来、知らないことは悲しいことだと改めて感じました。

ボランティアセンター学生スタッフVSP キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科1年 森田 有紗

法政大学ボランティアセンター主催・ボランティアプログラム(法政大学後援会補助事業)

手話講座 特別編

12月5日(火)

時間: 16:50~18:30(5限)
場所: 富士見ゲート5階 G501教室
対象: 本学部生50名
※手話講座(入門編)受講生の方以外の方も参加できます。

講師: 早瀬 憲太郎氏
手話通訳士・本学手話講座講師 中野 佐世子氏
手話通訳士 豊田 直子氏

ろう者・教育者・映像作家

「手話の世界へようこそ」というテーマで、早瀬憲太郎さんに講演をしていただきます。

申し込み・問い合わせ
市ヶ谷ボランティアセンター
(外濠校舎1階、学生センター内)
03-3264-9516
ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp

GOOGLEフォームからもお申し込みできます!

6 参加学生の感想

小学生の時に道徳の教科書で早瀬さんを見たことがありました。その早瀬さんが実際に手話をしているところを見てすごく感動しました。もし手話通訳をしてもらえなかったら早瀬さんの言葉を聞けなかったということがすごく寂しい気持ちになりました。英語を学んでいるように手話を学ぶことは新しい世界を知ると言うより、多くの人の経験を知ることができるのだと改めて気づきました。私が左利きだということが耳を聞こえない人となりが違うのかと言われてハッとしました。その違いに区別する意味を考えさせられました。

法学部法律学科 1年 志村 櫻子



早瀬様の講義の様子



手話通訳士の中野先生と豊田様



質問をする参加学生



集合写真

58. 福島被災地スタディツアー

1 日程 2023年12月10日(日)

2 場所 福島県いわき市

3 概要

2023年12月10日、「福島被災地スタディツアー」として福島県いわき市を訪れ、以下の施設等への見学、講話を聞かせて頂いた。

■「アクアマリンふくしま」

アクアマリンふくしまの水口様の講話を通じて、福島県の海の特徴・被災した観光施設が復興していくための流れ、その中で人とのつながりの大切さを感じることができた。

■「いわき震災伝承みらい館」

東日本大震災の実際の被害状況の展示物を見て知識を深めた。その後、薄磯(うすいそ)海岸に行き、津波が海岸をどのようにして陸に上がってきたのか見ることができた。

■「四倉公民館」

カネシメ佐藤水産株式会社の佐藤様より講話をいただき、今を生きる私たちが今後意識していかなければならないことを聞くことができた。

■「魚てつ」

お刺身の定食を提供していただいた。「常磐(ひたち)もの」と呼ばれる名産の海産物の魅力が十分に伝わるものだった。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 文芸部地理学科1年 小林 真聖

4 参加者数 30名

5 参加学生の感想

今回福島被災地スタディツアーに参加して、被災地でどのような被害があったのかを学ぶだけでなく、今後の私達の生き方についての教訓を学ぶことができました。アクアマリンふくしまでは、説明にて震災の被害の様子を伺ったのちに海岸の見学をしたため、この場所でのような惨状だったのかを理解することができました。また双方の説明に共通して、人との繋がりが人生において大事だと気づききっかけになりました。

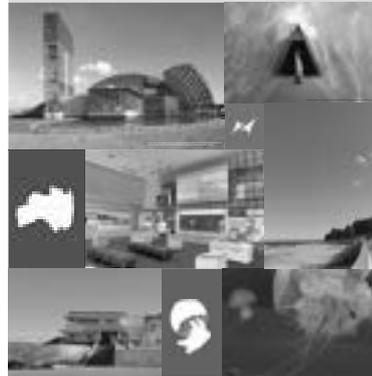
法学部法律学科4年

私は昨年に続き2度目の福島被災地スタディツアーの参加であったが、今回の企画でも普段家や大学にはできないような学びをすることができた。アクアマリンふくしまのお話や四倉公民館での佐藤さんのお話を通して、改めて人との繋がりの大切さや非常時の協力の大切さなど多くのことを知った。また普段の食事でも魚料理を食べることは多々あるが、今回は命のありがたみを知り、そして食べることによって自分たちが成長していることを事前に学んだため、夕飯に提供していただいた魚はまた普段とは違う味わいかたをすることができた。普段は何気なく魚料理を食べてしまっているが、今一度感謝の気持ちを忘れないようにしていきたい。

法学部政治学科2年

巡りませんか？
震災の傷跡、そして数々の魅力

幅広い方が参加していただけるスタディツアー。
法政大学ボランティアセンターチーム・オレンジのメンバーが、皆さんに最高の学びの場を体験していただけるよう企画しておりますので、ご参加をお待ちしております。



【お申し込み先】

こちらで自身の情報を登録していただきます。
先着順ですので、お早めにご登録下さい。
<https://forms.gle/7vmeF9HsdgPMK0W9>

【お問い合わせ先】

法政大学市ヶ谷ボランティアセンター (外課 学生会 1 階)
電話 03-3264-9216 メール shigayama-apply@ml.hosei.ac.jp

【企画実施概要】

実施日: 12月10日(日)
募集対象: 本学部学生30名
参加費用: 2000円
集合: 07:30 東京駅
解散: 20:43 東京駅
行先: アクアマリンふくしま
四倉公民館
いわき震災伝承みらい館

福島被災地スタディツアー



四倉公民館でツアーの感想の共有や振り返りの様子



いわき震災伝承みらい館で記念撮影

59. STOP フードロス～私たちにできることは～

1 日程 2023年12月22日(金)

2 場所 Zoom

3 概要

フードロスについて学びたいという学生の声から、今回の企画を実施することになりました。特に、フードロスの現状と、その現状に対して学生たちができることは何かということについて学ぶことを目的としました。当日は特定非営利活動法人 日本もったいない食品センター 高津博司様に、日本のフードロスの現状と、日本もったいない食品センターさんが行っている取り組みについて講演をしていただきました。その後、「講演を聞いて、自分にできると思ったこと」「身近なフードロスの一つ取り上げて、具体的な対策を考える」の二つをテーマにグループディスカッションを行い、グループごとに出た意見を発表後、高津様からフィードバックをいただきました。また、最後に質疑応答の時間を設けました。グループディスカッションでは、参加者がそれぞれの生活環境で起きているフードロスとその対策について活発に意見を出し合っていました。また、質疑応答の時間では学生から積極的に質問が寄せられ、有意義な時間に来たと思います。今回の講演をきっかけに、フードロスが意外と身近に起きているということ、そして自分たちの小さな行動一つが対策につながるのだということを知ることができたと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部心理学科 2年 丸茂 綾音

4 参加学生数 20名(法政12名、専修大学3名、三輪田学園5名)

5 企画者感想

講演を通して、フードロスというのはまだ食べられるもの、つまりは価値のあるものを捨てることであり、それが貧困に苦しむ人々とのごぼこを生んでいるのだと学び、フードロスに対しての問題意識がさらに高まった。今回お話を聞いたことで、消費者としての自分自身の行動を再度見直すきっかけになったとともに、紹介していただいたエコイトなどの取り組みを自ら発信して、限りある食品についてもったいない意識をさらに多くの人に広めていくべきだと感じた。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部法律学科 2年 落合 桃花

6 参加者の感想

今回の講演を通して今の食品ロスと貧困の現状、現実を知ることができました。お話の中で同じ地域に食べ物を捨てる人、企業と食べ物を求めている人がいるということが1番衝撃的で、自分には遠い世界のことで勘違いしていたことに気づかされました。そして食品ロスと貧困に対する行動、再流通をはかり捨ててしまう食品を無くす工夫や話を聞いて良い経験になったと思います。小さなことですが賞味と消費の違いを理解することや買わずにないといったことでも対策になるので、できることから行動しようと思います。

文学部心理学科 2年 黄金井 菜名



講演の様子



高津さんと参加者の集合写真

60. 子ども食堂「クリスマス会」

- 1 日程 2023年12月17日(日)
2 場所 東京都渋谷区「地域交流センター代々木の杜」

3 概要

大学生である私たちにとって子どもと触れ合う機会は少ないため、新しい発見や考えが見つかるかという思いから今回の企画を実施することになりました。そこで本企画では、「渋谷区社会福祉協議会 子ども支援課 子どもテーブル係」様の活動に参加させていただき、子どもたちが企画したクリスマス会の準備や当日の運営の補助を行いました。子どもスタッフと企画した料理やゲームに参加した子どもたちは、合計29名となり、楽しそうに笑顔を浮かべていました。また、子どもたちが考えた料理やゲームは私たちからは生み出せないようなアイデアが多くあり、非常に驚かされたのと同時に視野を広げられました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部心理学科 1年 黄金井 菜名

- 4 学生参加人数 5名(法政5名、青山学院大5名、日本女子大3名、子ども29名)

5 参加学生の感想

子どもたちと触れ合う機会が私にはほとんどなく今回はとても良い体験ができました。子どもたちは言わないだけで不安や悩みを抱えているという職員さんの話がとても印象に残りました。それを少しでも取り除けることができればいいなと思います。また子どもたちは子どもスタッフを含めてとても積極的に行動し、自身の考えを発信できてそれを実現できる場があるのは子どもにとって大きなことだと感じました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部心理学科 1年 黄金井 菜名

クリスマスと近い時期に企画を実施したことにより、当日はかなり多くの子どもたちが参加し、想定よりも規模の大きな企画となりました。企画運営を担当していた子どもたちとは、11月頃から関わりを持ち始めていましたが、彼らの独創的で柔軟な発想には非常に驚かされました。企画当日は特に大きなトラブルもなく、無事に終えることができ、子どもたちが達成感に満ちた表情をしている姿を見て、私たち大学生も安堵に包まれました。今後も彼らと何らかの形で関わりを持ち続けられればと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部日本文学科 2年 早川 大心



大勢の子どもたちが参加しました



クリスマス会での食事を準備する学生スタッフ

61. 「学生×防災」非常食を食べよう！の企画

1 日程 2024年2月21日(水)

2 場所 市ヶ谷キャンパス富士見ゲート

3 概要

令和6年の能登半島地震からも分かるように、災害発生後には、さまざまな問題が起こりますが、その一つに「食」の問題があります。普段私たちは、災害時に活躍する「非常食」を食べることはありませんが、今回の企画を通して、企画者(学生)が非常食についてレクチャーした後、実際に非常食であるアルファ米やおかずを参加者に食べてもらい、満足度やその非常食に対する意見などについてアンケートを取りました。また、非常食のレクチャーの他に、非常時に持ち出すバッグについて法政大学が災害時に、帰宅困難者となった学生に配布するための非常食や市販の非常食を用いて、3日間の非常食体験を行い、企画者2名が報告を行いました。この企画ではあわせて大学内にある備蓄倉庫の見学、避難所運営ゲーム(HUG)、「学生ができる防災とは」をテーマにワールドカフェ形式でディスカッションを行い、最後に、参加者全員に防災に関する行動宣言を書いてもらいました。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ法学部政治学科2年
石川 大樹

4 学生参加者数 21名

5 企画者感想

今回この企画を通して、非常食や非常備蓄、予めの備えの大切さを改めて再確認できた。最近では、1月1日に能登半島で大きな地震があり、首都直下型地震も今後30年以内に発生する確率が70%ほどと予想されている。しかし、防災についての意識が薄れているのではないだろうか。今回、私たちは3日間、防災食のみで生活をして、実際被災した際の疑似体験を行なった。ほとんどの食事がエネルギー必要量に満たしておらず、栄養素に偏りもあり、お腹が空くことも多く、災害の厳しさを知ることができた。この企画に参加して下さった方々にも、災害の怖さを知ってもらい、日々の備えをして欲しい。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ法学部法律学科2年 石津 咲

6 参加者感想

この企画を経て、非常食を備えることの重要性・必要性を再確認することができた。そして、大学に備蓄されている分で三日間生活できる自信がないため、普段から軽食を持ち歩くようにしようと思った。また、HUGを通して避難所運営の難しさを学んだため、被災した際には、率先して行動し、避難所運営に貢献したいと考えるようになった。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ法学部法律学科2年 後藤 元香

法政大学ボランティアセンター
チーム・オレンジ企画(法政大学後援会補助事業)

学生×防災 「非常食を食べよう」

参加無料

2024年
2.21(水)
時間:12:00-16:00
場所:富士見ゲート
2階G201教室

お申込み方法
QRコードから
Googleフォーム
お申し込みください。

対象:本学部生
先着30名限定!

お問い合わせ先:ichigayasu@apply.wpl.hosei.ac.jp/ホームページ
もしくは(法政大)ボランティアセンターまで!

内容は、被災した際の非常食の経験をもとに、避難の重要性を知っていただきます。その他にも備蓄倉庫の見学やHUGと呼ばれる避難所運営ゲームなどさまざまな企画を用意しています。



非常食(3日分)の説明を受ける様子



企画参加者集合写真

62. 秋葉原清掃企画

1 日程 2月26日(月)

2 場所 秋葉原駅より西側(電気街方面)

3 概要

今回は法政大学の学生 25 名が秋葉原 UDX 前に集合し 1 チーム 5 人程の 4 つのグループに分かれて清掃を行いました。一人一人ゴミ袋とトングを持って秋葉原駅より西側を 2 時間かけて清掃しました。雨の多い週だったにも関わらず当日は天気恵まれましたが、終始旋風に翻弄されました。ゴミは特に煙草の吸殻が多く随所に不法投棄も見られ、連日の雨の影響で壊れたビニール傘を複数回収しました。三連休の翌日だったこともあり、ゴミの総重量は 31.82kg にも及びました。事前に企画者が用意した 11 枚の秋葉原のスポットの写真をもとに、参加者に自力で撮影場所を見つけてもらう試みにより、秋葉原の街並みを楽しみながら清掃することができました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部日本文学科 1 年 高月 莉乃

4 学生参加者数 25 名

5 企画者の感想

たばこの吸殻が至るところに落ちていたことが、秋葉原清掃を実施する中で最も印象に残りました。参加者からお話を伺ったのですが、秋葉原を含む千代田区は日本で最初に路上喫煙を条例で禁止した地域らしいです。その為か、路上では数多くの路上喫煙防止の標識が見られ、加えて多くの啓発ポスター、喫煙所もありました。それにも関わらず、多くの吸殻が路上にポイ捨てされている現状を見て、少し胸が傷みました。秋葉原にはたばこをポイ捨てする人が多いと感じましたが、その裏で秋葉原の景観を保とうと日々清掃活動に取り組んでいる方が必ずいらっしゃると思います。多様なコンテンツを持つきらびやかな秋葉原というイメージは、そういった方々の日々の努力によって支えられているのだと今回の活動を通して強く実感しました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部法律学科 1 年 重永 等

6 参加者の感想

今回初めて大学内で行われているボランティア活動に参加しましたが、様々な学年学部と交わりながら楽しむことが出来ました。自分の所属している学部学科上、街における環境問題について考えることはよくありますが、今回身を持って体験することができて良かったです。

デザイン工学部 都市環境デザイン工学科 2 年 小西 彩

ゴミ拾いだけでなく、コミュニケーション能力の養成や他学部との交流の場になっていると毎回参加するたびに感じる。単に地域に貢献している以上に、自分自身の成長につながっているのだ。今回の秋葉原では観光地だけあってゴミが多く、特にタバコの吸殻が目立った。外国人観光客が多い場所であるからこそ、秋葉原のイメージが日本のイメージになってしまいかねない。ぜひ地域をあげて対策をしてほしいと感じた。

文学部日本文学科 3 年 高橋 梨咲

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフVSP企画 (法政大学後援会補助事業)

秋葉原清掃企画

- ・チームに分かれ、拾ったゴミの量を競います!
- ・指定された秋葉原のスポットの写真を撮ったらさらにポイントゲット!
- ・優勝チームには豪華景品が...!

【定員】本学学部生30人
【開始時間】10時~
【集合場所】秋葉原UDX前 (秋葉原駅電気街口前)

2/26 (月)
※雨天の場合
2/29 (木)

【お問い合わせ】
市ヶ谷ボランティアセンター
TEL. 03-3264-9516
MAIL. ichigayave-app@ml.hosei.ac.jp
←お申込みはこちらから



清掃活動の様子



企画者の皆さん

63. 法政大学・関西大学コラボ企画 スポーツ×ゴミ拾い

- 1 日程 2月27日(火)
- 2 場所 法政大学外濠校舎 S205 教室、キャンパス周辺(飯田橋エリア、神楽坂エリア)

3 概要

昨年に引き続き、スポーツとゴミ拾いを融合した「スポごみ企画」を実施しました。関西大学さんと zoom をつないで、地域を超えて合同で実施しました。この企画ではゴミ拾いというボランティアの中にゴミの質と量によって得点をゲットするゲームの要素を加えることで、楽しくボランティアできるような活動を目指しました。チーム編成は法政大学と関西大学さんでお互い A グループと B グループを作り、それぞれの A 同士、B 同士が 1 チームとして競い合いました。企画当日は風が非常に強く吹いており、ゴミ拾いではとても苦労しましたが、そんな苦労を吹き飛ばすほどに楽しんでゴミ拾いをしている姿が見られました。ゴミ拾い後は両校で交流の機会としてお互いの学校に関するクイズ大会を実施し、充実した時間となりました。本企画を通じて、ボランティア活動の汎用性を感じることができました。オンラインやゲーム性などを取り込むことで新たなボランティアの形を参加者に感じ取ってもらえたのではないかと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部法律学科 1 年 野澤 礼文

4 学生参加者数 20 名(法政 12 名 関西 8 名)

5 企画学生の感想

企画当日は一般参加者の欠席が多く、また強風に見舞われ、企画を実施できるかどうか不安でしたが、参加者同士で協力しながらゴミ拾いをする事ができたと感じます。また、zoom を使用して関西大学とコミュニケーションをとりながら実施することができ、地域を超えての交流を深めることができました。本企画がゴミ問題への意識や関心を持つきっかけとなっていればうれしく思います。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科 1 年 小林 月琴

6 参加学生の感想

ゆったりとした雰囲気イベントが進行されていき、笑いの多い印象だった。ゴミ拾いという、それ単体では参加者が集まりにくいものであったがそれをゲーム形式にし、クイズを織り交ぜることによってイベント性を持ったのはとても良いやり方だと思う。クイズも良問が多く、感覚だけでなく頭を使って問題を解けた。通信状況がよくないときがあり、関西大学との意思疎通が取れなかったことと、参加者が極めて少なかったことが残念であったが春休みの懐かしい 1 ページとなったと言える。

文学部日本文学科 3 年 高橋 梨咲



清掃活動の様子



集合写真

64. 法政大学×ベイラー大学 交流企画

1 日程 2024年3月4日(月)、3月5日(火)、3月6日(水)

2 場所

【3月4日】浅草寺周辺、子ども村ホッとステーション、吉まぐれ屋

【3月5日】市ヶ谷キャンパス外濠校舎「和室」

【3月6日】飯田橋駅、市ヶ谷キャンパス外濠校舎5階523～526会議室

3 概要

かねてより本学と協定を結び、派遣留学や語学研修などで交流のあるベイラー大学と3日間のボランティア交流企画を実施しました。ベイラー大学の学生さんは今回の来日目的として、日本の大学が実施しているボランティア活動への参加や「子ども食堂」への訪問があったため、これまで私たちが実施した企画である浅草清掃や、子ども居場所企画でお世話になっているバイタルプロジェクト様にもご協力いただき、3日間を通してVSPが行っている活動について紹介しました。また、企画最終日はチーム・オレンジ、メトロボランティアとも連携して3団体での活動を実施し、同じボランティア団体としてお互いの活動を知る機会にもなりました。海を跨いでの学生間交流となりましたが、様々な活動を通して親睦を深めることができました。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 文学部日本文学科2年 早川 大心

4 学生参加者数 32名(ベイラー大学10名 VSP10名 チーム・オレンジ6名 メトロ6名)

5 企画学生の感想

ベイラー大学との交流を通して文化の違いを再発見するとともに、違う言語を話す国で活動することの大変さやそれを軽減するために私達ができることを学べる貴重な経験ができました。またベイラー大学の方々も日本に来るのが初めてというもあり様々なことに対して目を輝かせていたのを見て、再度日本の魅力を私自身感じる事ができました。浅草清掃で何個か制限があった中、彼女達が清掃に対してゲーム感覚を持っていたり、小さな通路に入るワクワクさを嬉しそうに話していたのがとても印象的でした。このような素敵な企画が実行できたのもベイラー大学の皆さん、VSPの皆さん、ボランティアセンターのスタッフさん、様々な団体など数多くの方が長い時間をかけて計画されたおかげなのでそんな貴重な企画に参加する機会を与えていただきとても嬉しいです。

ボランティアセンター学生スタッフVSP グローバル教養学部1年 井ヶ田 美優

今回の企画では、ベイラー大学の学生の方々、話し合いながら積極的に防災ゲームに取り組んでくれていたことが印象に残っている。ゲームという親しみやすい形で災害について学んでもらえたのが良かった。短い時間ではあったが、チーム・オレンジの活動や日本の非常食を海外の人に知ってもらえる貴重な機会になったと思う。また、VSPや東京メトロ飯田橋駅ボランティアの学生にも非常食やゲームを体験してもらおうことが出来たので、ボランティア団体同士の交流の機会にもなった。今後も団体の垣根を超えたコラボ企画が出来ると良いと思う。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 文学部哲学科2年 大津 夏帆

メトロボランティアとして初めて他大学や他団体とコラボした企画となり、反省点も多くありながら貴重な経験をすることができました。普段の活動ではあまり関わることのなかったメンバーと協力したり、プレゼンテーションや英語のスキルなどメンバーの知り得ない一面を見られたりしました。これらは、今後新しい企画を行うにあたって大いに活かされると思います。小さな団体であり、外部に活動紹介をすることがなかった私たちにとって、ベイラー大学や同行して下さったVSPのみなさんにメトロボランティアの活動を知っていただけたことはとても嬉しく思います。

ボランティアセンター学生スタッフ東京メトロ飯田橋ボランティア キャリアデザイン学部2年 前田 すみれ

6. 参加学生(ベイラー大学の学生)の感想

I absolutely loved meeting everyone and really appreciate all the effort you guys put into organizing the project! Coming from Hawaii where majority of people are Asian, I never thought about my ethnicity or nationality. Now being at Baylor in Texas where there aren't many Asians, I find myself wanting to fit in with the Caucasians because I'm part of the minority. Going to Japan and seeing how much love you guys have for your community, I've never felt more proud to be Japanese. Thank you for the experience, and I'll never forget it!

訳：みんなに会えて本当にうれしく思います、この企画の準備にたくさんの努力を費やしてくれたことに、心から感謝しています！私の出身地であるハワイでは多くの方がアジア系であることから、私は自分自身の民族性や国籍について考えたことはありませんでした。現在はテキサス州のベイラーにいて、アジア人が少ないことから、少数派の一員として白人の中で馴染もうとする自分がいます。しかし、日本を訪れて、皆さんが自分たちの住む社会に対して持っている愛情の深さを見て、私は日本人であることをこれまで以上に誇りに思いました。この経験をありがとう、そして決して忘れません！

Tia Shimabukuro



1 日目の浅草清掃



東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフの見学をする
ベイラー大学学生



チーム・オレンジによる防災ゲーム



集合写真

65. 阪神・淡路スタディツアー

1 日程 2024年3月13日(水)～3月15日(金)

2 場所 兵庫県(神戸市・淡路市)
大阪府大阪市

3 概要

1日目は淡路島に訪れ、北淡震災記念公園と野島断層保存館を見学した。実際に阪神淡路大震災の時にずれ動いた断層をみたり、断層の動きによって1メートル以上家ごと動いてしまったメモリアルハウスなどを見学したり、ツアーの最初に大地震の大きさを肌で実感した。1日目の後半はふたば学舎を訪れ、ガイドさんと共に、実際に大きな被害に遭った街並みを震災当時の写真と比較しながら歩いた。また、クロスロード(災害対応カード)を行い、防災についての意見交換を行った。

2日目は、人と防災未来センターと神戸港震災メモリアルパークに訪れた。様々な資料や防災知識が展示され、語り部の方から震災講話をいただき、当時の被害が分かる映像や被災者目線での映像が放映されていた。また、2日目は神戸大学学生災害救援隊と交流会を行い、チーム・オレンジにとってはよい刺激になり、一般参加の方にもこのような団体があるという事を知ってもらい良い機会となった。

3日目前半は、神戸にて被災地NGO共同センターの顧問である、村井雅清様より震災講話を頂いた。阪神淡路大震災だけでなく、最近の能登地震とも絡めたお話であった。後半には津波・高潮ステーションに訪問し、ガイドの方に案内していただきながら学習した。

4 学生参加者数 40名

5 企画学生の感想

自分自身は阪神・淡路大震災について、被害状況を写真などでしか見たことがなかったが、今回スタディツアーを通してまず初めに、東日本大地震は津波の被害が大きかったのに対し、阪神・淡路大震災は建物の崩壊や火災などによる被害が大きかったことを知った。次に実際に被害に遭われた方の話を聞いていると、日頃からの地域住民同士の繋がりが救助などの際に非常に重要であったこと、飲み水に非常に困っていたことなどを話されていた。このことから自分は常日頃から近所の人との付き合いや避難時に発生する困難な事態を未然に防ぐような対策をおこなう必要があることを学んだ。

デザイン工学部 都市環境デザイン工学科 チーム・オレンジ2年

6 参加学生の感想

今回の阪神淡路スタディツアーを通して、東日本大地震との違いを学ぶことができました。また、神戸は震災が起こってから数十年経っていることもあり復興の過程を具体的に学ぶことができとても有意義な時間でした。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科3年

今回のスタディツアーを通して学んだことは、いつ起きるかわからない災害に対して日常から備えておくことです。食料や排泄時に必要な物の備蓄はもちろん、「ここで災害が起きた時はこうする」ということを日々頭の片隅において生活しなければならないと思いました。そういった話題を家族や友人とも共有し、何かあった時に自分の大切な人をなくさないよう、心構えもしなければと思いました。また、3日目の村井さんの講話では、ボランティアの重要性について学んだので、復興を必要とする現地へ訪問し、個人でできることは微力かもしれませんが、ボランティア活動をしたいと思いました。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科2年



阪神・淡路
スタディツアー2024

学びが行動を生む！自分の体で被災地の声を聴き、現状を学ぼう！

日時 2024年3月13日(水)～15日(金)

定員 40名
※2024年2月28日(水)14時～の「事前説明会」は参加必須となります

学費 15,000円
※参加費の支払方法は任意
※現地での高換金、お土産代等は自己負担になります

お申し込み はこちらまでお申し込みください
https://docs.google.com/forms/d/e/1PjipQk3ezow2gtv6W/SF7inQ
and3W6Xz2ambkyug58Vxv9u2/formresponse

主催・お問い合わせ先: 法政大学 市ヶ谷ボランティアセンター (外灘校舎1階 学生センター内)
☎ 03-3264-9516 | icnigayvc-apply@ml.hosei.ac.jp



震災当時の様子を見学する学生



防災街歩きでふたば学舎の方に話を聞く学生



ふたば学舎で集合写真



足湯体験をする学生



神戸大学学生震災救援隊交流会での集合写真



津波・高潮ステーションで説明を受ける学生

66. 2023 年度 東京メトロ飯田橋駅ボランティア年間活動報告

1 活動実績

- 通年 東京メトロ飯田橋駅構内での見守り活動、定例会
- 4月 2023 年度ボランティア・KYOPRO 合同説明会
- 5月 新入生交流会
- 6月 研修会
- 12月 交流会（2回）
第7回自由を生き抜く実践知大賞 「共感の襷」 賞受賞
- 3月 ハイラー大学交流企画
活動報告会
準定例会

2 概要

東京メトロ飯田橋駅ボランティアは、東京メトロ飯田橋駅構内で、駅利用者への道案内やお身体の不自由なお客様の介助などの見守り活動を行っています。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う活動人数の制限は、今年度より撤廃され、元通りの活動ができるようになりました。一方で、昨年度までも活動を継承するための様々な工夫を行っており、それが自由を生き抜く実践知大賞「共感の襷」賞の受賞につながりました。

今年度は、1年生 11 名・2年生 1 名が新たに加わりました。昨年度始まったシフト制を継続し、新しいメンバーも安心して活動できる環境を整えました。結果、自発的に活動するメンバーや、見守り活動以外の企画・活動に参加するメンバーも生まれました。

今年度の反省点は、新メンバーが入会した上半期にメンバーが集まる機会が少なく、新入生同士で交流することができなかったことです。メンバー同士が交流することにより、活動のモチベーションが向上したり、新たな活動が生まれたりするため、来年度はより交流する機会を設けます。

今年度、駅での見守り活動における大きな変化は外国人観光客の増加です。今後も増加することが予想されるため、外国語での案内方法もメンバーで周知していきます。お身体の不自由なお客様の介助・ご案内を想定し少人数で始まった当団体ですが、駅利用者のニーズや団体規模の変化により過渡期を迎えています。来年度は、見守り活動を中心に、他の活動やメンバーの交流にも注力し、より活発な団体となるよう努めます。

ボランティアセンター学生スタッフ東京メトロ飯田橋駅ボランティア
キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科2年 前田 すみれ

3 参加学生の感想

私は一人でも多くの利用者に飯田橋駅を利用してよかった、また利用したいと思ってもらえるように活動してきました。特に国際文化学部所属の強みを活かして、体の不自由な方だけでなく、訪日外国人へのサポートも積極的に行ってきました。当初はうまく声をかけられませんでした。先輩たちが優しくコツを教えてください、今では一人でも活動ができるようになりました。完璧なご案内にはまだ程遠いですが、「ありがとう」という言葉を頂くことがやがります。今後もボランティアを通じて、誰もが使いやすい駅施設を目指していきます。

ボランティアセンター学生スタッフ東京メトロ飯田橋駅ボランティア
国際文化学部国際文化学科1年 加藤 権



メンバー揃って記念撮影



飯田橋駅構内で活動する様子

67. 2023年度 東京メトロ飯田橋駅ボランティア活動報告会

- 1 日程 2024年3月7日(木)
2 場所 法政大学内 富士見ゲート4F 403教室

3 概要

東京メトロ飯田橋駅ボランティアの活動報告会が行われました。今回は東京メトロ社職員様、公益財団法人日本ケアフィット共育機構職員様、本学学部生、本学教職員にお越し頂きました。学生スタッフは報告会の3ヶ月ほど前からzoomを使い、スライド・原稿作成などを通してコミュニケーションを図りながら準備を行いました。直前のリハーサルでも互いに修正案を出し合い、より良い報告会となるよう尽力しました。当日は、学生スタッフからの活動報告発表、質疑応答、卒業生からのコメント、東京メトロ様からの表彰、学生スタッフからの今年度を振り返った感想、東京メトロ様・日本ケアフィット共育機構様からの講評というプログラムで行われました。今回の報告会を通して、改めて私たちの活動が沢山の皆さまの支えによって成り立っていることを実感したと同時に、この活動の意義や目的を再確認する場にもなったと思います。来年度も感謝の気持ちを忘れず活動に精進していきたいです。

ボランティアセンター学生スタッフ東京メトロ板橋ボランティア
キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科2年 大内 優奈

- 4 学生参加者数 13名

5 企画者感想

報告会では、それぞれのメンバーが、普段の活動で配慮していることや、工夫していることについて、共有することができました。報告会を通して取り入れた新しい視点は、今後の私自身の活動にいかしていきたいと思います。また、報告会にいらっしゃった、日本ケアフィット共育機構の講師の方のお話の中で、特に印象に残った部分があります。それは、「案内ボランティアは、鉄道会社が所有する土地の範囲を超えて、要介護者の路線乗換をサポートすることができない」という言葉です。保険などの制約により、案内ボランティアが活動できる範囲は、鉄道会社の所有地に限られています。今後の活動では、要介護者が案内ボランティアの手を離れ、東京メトロの敷地を出た後も、安全に駅を利用できるように声掛けをしていきたいと思っています。

法学部政治学科2年 渡邊 修

報告会を終えて、在り来りな言葉ですが私は報告会に参加出来て本当に良かったと感じています。日頃活動を支えて下さっている方がどんなことを考えながら協力して下さっているのか、どのようなことを目的にメトボラは発足されたのか等を、詳しく知ることが出来ました。それにより、活動の基本的な心構えも変わり、もっと活動したいと考え、より活動を改善していきたいと思いました。今回の報告会において改善した方が良いところと継続した方が良いところが明確になり、更に全員で共有出来たので、今後の活動はこれらを基にしていきたいと思っています。

デザイン工学部都市環境デザイン工学科1年 小森 陽



東京メトロ様より表彰される学生



参加者全員で記念撮影

68. 料理を通して食品ロスについて考えよう

- 1 日程 2024年3月17日(日)
- 2 場所 東京都渋谷区「地域交流センター代々木の杜」
- 3 概要

食品ロスというテーマは、長年にわたり世界中で重要視されている深刻な課題点であり、その解決を目的とした活動は今もなお継続されています。そして、今後もこのテーマは解決されるべき点として私たちの食生活に抵触してくることでしょう。そこで今回市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフVSPは、「将来を担う子どもたちに食品ロスというテーマを知ってもらいたい」と、小学1～4年生を対象とした本企画を実施しました。そこで、「社会福祉法人渋谷区社会福祉協議会 子ども支援課子どもテーブル係」様にご協力いただき、参加者の募集、企画実施場所の提供などのサポートをしていただきました。本企画では、普段捨ててしまう野菜の「皮」や「葉」も調理して一品に加えるという調理活動を子どもたちと行い、実際の料理を通して楽しみながらも、食品ロスについて子どもたちに知ってもらうための機会を提供しました。調理後は、クイズ形式で様々な食材の「食べられる部分」を紹介し、彼らにより興味を持ってもらえるような活動を行いました。実施後は「めっちゃ楽しかった!」や「お母さんに教える!」といった声が多く、より幅広い世代に食品ロスへの意識が向いてくれることを思うと、企画実施の甲斐があったと感じます。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 文学部日本文学科2年 早川 大心

- 4 学生参加者数 5名(法政5名、上智大2名、立教大1名、子ども14名)

5 参加学生の感想

本企画を実施するまでは、「果たして子どもたちみんなに満足してもらえるような企画になるだろうか」という不安があったのですが、実際に調理やクイズなどを進めていく中で、子どもたちが笑顔で非常に楽しそうにしている姿を目の当たりにして、子どもたちにとって良い思い出となる素晴らしい機会を提供することが出来たのではないかと感じました。また今回は、普段は捨ててしまうことの多い、葉や皮なども含め、大根を丸ごと一本使用した料理を作っていました、「帰ったらお母さんにもこのレシピを教えてあげよう」という子どもの呟きを耳にした際は、本企画を実施した意義を感じ、率直に嬉しく思ったと同時に、本企画で子どもたちが学び得た知識が家族や友人に共有され、少しでも食品ロス問題に対する意識の輪が広がってってくれば、企画者側としてはそれ以上に喜ばしいことはないと感じました。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 法学部政治学科2年 吉野 日菜子



フードロスについてプレゼンするスタッフ



大根切りを手伝うスタッフ

69. やってみよう！車いすバスケットボール企画

- 1 日程 2024年3月25日(月)
- 2 場所 市ヶ谷キャンパス富士見坂校舎 4階体育館
- 3 概要

2023年に行われたバスケットボールワールドカップでは、男子日本代表選手が48年ぶりにオリンピック出場を果たし、盛り上がりを見せました。しかし、パラスポーツの車いすバスケットボールはまだ認知度が低いという現状があります。そこで今回市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフVSPは、大学生へのパラスポーツ啓発活動の一環として、車いすバスケットボールの競技体験を通して、今まで体験したことのないスポーツについて学び、新しい世界を感じてもらいたい、多角的な考え方を身につけ心のバリアフリーを実現してもらいたいと考え、「NPO法人 パラキャン」様のご協力のもと、本企画を実施しました。私は今回初めてパラスポーツを体験しました。車いすバスケットボールは、テレビなどで見たことがありましたが、見るのと実際に体験するのでは全然違うなと感じることが多かったです。例えば、車いすバスケットボールのゴールの位置は、普通のバスケットボールのゴールの位置と変わらない一方で、シュートを打つ位置は、今まで経験してきた位置より車椅子に座っている分だけ下から打つことになり、ゴールとの距離が遠くなって、その分シュートを打ちにくかったり、足でしゃがんでジャンプをする

ことができない分、腕の力が必要になったり、ドリブルをするのも、車椅子をまっすぐ漕ぎながらそのスピードに合わせてボールをつくのがすごく難しかったりして、実際にやってみると想像していた以上に大変だなと感じました。このように、今回の企画を通して私達が普段生活している世界だけでは気づけない部分や、相手の立場になって考えないとわからない部分が多いことに改めて気づき、心のバリアフリーとは、自分とは異なる立場や状況の人が抱える困難を想像し、共感することから始まるのだなと感じました。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 文学部心理学科2年 渡邊 日花里

4 学生参加者数 16名

5 企画学生の感想

私はこの企画に入る前を見たパラリンピックのバスケットボール試合では、選手がディフェンスを軽やかに交わしてパスを繋ぎしシュートしていたので、あまり難しくはないのかなというイメージを持っていました。しかし実際に体験してみてわかったことは、車いすでバスケットボールをすることは、私が想像していたものよりもはるかに難しいということです。車いすを使うバスケットボールは、使わないバスケットボールと同じリングの高さに対して低い位置から上半身のみで打つ必要があることやタイヤがハの字になっているためディフェンスを抜くのが難しく、プレーすることは容易ではありませんでした。また、思っている以上に車いすを動かすには腕の力が必要でした。初心者の私はシュートを決められるか否か以前に、車椅子を自分で行きたい方向に動かすのがやっとだったというのが本音です。また車いすに注目してみると、ハの字になっているタイヤもそうですが、接触から足を守るバンパー、通常時より後ろに重心をかけるので転倒防止のキャスターなどバスケットというスポーツ特有の工夫がされていました。「どうして / なんのためにこれがここに使われているのだろうか」という日常に隠れているちょっとした相違点に気づき、疑問を持つことが健常者と障がい者の心の壁をなくすための一歩のなるのではないかと思います。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 国際文化学部国際文化学科1年 中谷 千紘

6 参加学生の感想

今回の企画を通して、車いすバスケットボールの魅力や面白さを体感することができました。

講演では、車いすバスケのルールだけでなく、競技用車いすの違いや動かし方について学びました。それを踏まえて実際に乗ってみたいですが、想像より難しく小回りやターンなどコツを掴むのが大変でした。しかし、試合を通してゴールを決めた時の達成感やパスで上手く連携した際の面白さは、非常にやりがいを感じました。本企画に参加して、車いすバスケットボールの試合を実際に観戦してみたいと思いました。また、車いすバスケットボール以外のパラスポーツも観戦したり体験してみたいです。

法学部法律学科4年 加藤 大喜





選手から競技用車いすの乗り方の指導を受ける様子



ゲームの様子



ゲーム終了後、選手とグータッチをする学生



車いすバスケットボール選手と集合写真

70. 投票式エコキャップ企画

1 日程 通年（2022年度より設置）

2 場所 外濠校舎

3 概要

本企画では、前年度の活動を継続して、エコキャップを“楽しく”分別できるようエコキャップ投票箱を作成しました。エコキャップ投票箱とは、「ディズニーとUSJどちらが好きか」などの2つの選択肢を設けて投票してもらうものです。今年度から2択だけでなく3択の投票箱を作成することで、より多くの人々が興味を持ち、楽しみながらエコキャップを分別できるように工夫しました。また、通常のペットボトルを回収するゴミ箱の上部に、新たに「エコキャップは投票箱へ」「エコキャップは捨てないで」と書かれた黄色い紙を掲示することで、誤ってエコキャップを捨ててしまうことを防ぎ、また、より多くのエコキャップを回収できるよう取り組みました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科1年 小林 月琴

4 活動報告

◇2023年4月27日 回収実施

- 投票箱①結果：1位 明治アーモンドチョコレート派
2位 ロッテトッポ派
- 投票箱②結果：1位 冬派
2位 夏派

◇2023年5月15日 お題の変更

- 投票箱①：赤のきつね派 or 緑のたぬき派
- 投票箱②：もしもボックス派 or どこでもドア派

◇2023年7月2日 回収実施

- 投票箱①結果：1位 緑のたぬき派
2位 赤のきつね派
- 投票箱②結果：1位 どこでもドア派
2位 もしもボックス派

◇2023年9月4日 夏休み中の作業日

- 新しい回収箱を作成（3択の回収箱を1つ）
- 既存の回収箱の容量を増やす（2択の回収箱を2つ）
→回収箱の数が計3つになる
- 投票箱①：ディズニー派 or USJ派
- 投票箱②：月曜1限派 or 金曜6限派
- 投票箱③：FIFAワールドカップ2022派 or WBC派 or FIBA fiba バスケットボールワールドカップ2023派

◇2023年9月27日

- 外濠校舎1～3階のゴミ箱上部に用紙の掲示を開始
- エコキャップの回収率を上げる

◇2023年10月3日 回収実施（投票箱③のみ）

- 投票箱③結果：1位 WBC派
2位 FIFAワールドカップ2022派
3位 FIBA バスケットボールワールドカップ2023派

◇2023年10月31日 回収実施

- 投票箱①結果：1位 USJ派
2位 ディズニー派
- 投票箱②結果：1位 月曜1限派
2位 金曜6限派

- ・投票箱③結果：1位 FIBAバスケットボールワールドカップ2023 派
2位 FIFAワールドカップ2022 派
3位 WBC 派

◇2024年1月18日 回収実施

- ・投票箱①結果：1位 USJ 派
2位 ディズニー 派
- ・投票箱②結果：1位 金曜6限 派
2位 月曜1限 派
- ・投票箱③結果：1位 FIFAワールドカップ2022 派
2位 WBC 派
3位 FIBAバスケットボールワールドカップ2023 派

◇2024年5月10日 回収実施、お題の変更

(変更前)

- ・投票箱①結果：1位 ディズニー 派
2位 USJ 派
- ・投票箱②結果：1位 月曜1限 派
2位 金曜6限 派
- ・投票箱③結果：1位 WBC 派
2位 FIBAバスケットボールワールドカップ2023 派
3位 FIFAワールドカップ2022 派

(変更後)

- ・投票箱①：フォレストガーデン 派 or カフェテリアつとひ 派
- ・投票箱②：過去にタイムスリップ 派 or 未来にタイムスリップ 派
- ・投票箱③：洋楽 派 or J-POP 派 or K-POP 派

5 企画学生 9名

6 企画学生の感想

私は、以前から本企画で活動されていた先輩方の取り組みを継承し、さらに発展させた活動ができたと考えています。今年度は3択の投票箱の作成と設置などの試みを実施し、エコキャップ投票箱がより楽しく、使いやすくなったのではないかと思います。私自身も投票箱の作成やお題決めなどで楽しく活動に参加することができ、投票の結果が私の予想と違う時も面白かったです。今後多くの学生たちに本企画の投票箱を利用してもらえたら嬉しく思います。 ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部法律学科 2年 押江 省吾



ゴミ箱の上に新たに設置した黄色い用紙



三択にしてより楽しくなった投票箱

小金井ボランティアセンターについて

2023年度 小金井ボランティアセンター活動の概要、活動総括 （ 小金井ボランティアセンター長 相原 建人 ）	110
2023年度 小金井キャンパス ボランティア活動カレンダー（参考）	111
2023年度 小金井ボランティア活動・研究公開サポート制度採択状況（参考）	112

第4章 小金井ボランティアセンターの活動の概要 小金井ボランティアセンター活動総括

小金井ボランティアセンター長
相原 建人

2023年度、小金井ボランティアセンターの活動は、新型コロナウイルスの影響はほぼなくなりましたが、これまで同様、組織だった学外活動は実施できていない。一方、学内活動については、小金井祭をはじめとし、コロナ禍以前の状態のように活発に活動を行うことができた。

小金井祭ではゲームスペース企画、屋台企画、工学展および研究室紹介が開催された。昨年度と比較しさらに参加者数は増加した。多くの学外の方々にご参加いただき、地域住民との交流も進み、貢献度は高かった。

学内献血は7月と12月の2回実施し、合計で131名もの献血協力者を募ることができた。今後も継続して実施したい。

学生がキャンパスに戻ってきたことにより、タバコの吸い殻やゴミのポイ捨てが目立つこともあったが、それに対し小金井ボランティアセンターは年間を通じて清掃活動を行った。

各キャンパスではコロナ禍前と同様に多くの企画が実施された。小金井キャンパスの学生が市ヶ谷主催の企画に参加するなど小金井キャンパスにおいてもボランティア活動の活発化の兆しが見え始めている。

ボランティアセンターは、学生が自ら考え、行動することで成長する機会を提供することが目的である。そのため、ボランティア活動をサポートする体制を整えることが重要である。小金井キャンパスでは専属学生の不足や教職員の体制が課題となっているが、市ヶ谷や多摩の関連部局と連携し、この問題を解決することを目指している。

2023 年度 小金井キャンパス ボランティア活動カレンダー（参考）

小金井ボランティアセンターではまだ組織だったボランティアセンター活動が実施できていないため、例年、参考として小金井キャンパスのボランティア活動について報告している。

2023 年度の小金井キャンパスのボランティア活動の学内行事については、小金井祭の企画を中心に活動し、近隣地域への連携を主とする活動とすることができた（詳細は下表参照）。

イベント名等	内容	2022 年度		備考
		実施時期	ボランティア参加者数	
学内献血	日本赤十字社主催の学内献血。	7月5日	74名（献血協力者）	企画実行委員会の学生の協力を得て実施。
工学展	技術連盟が工学展で理科体験教室を出展（対象：小金井在住者）。	11月2日～4日	202名	来場者712名
小金井祭でのゲームスペース企画	小金井企画実行委員会が学生・地域住民の交流の場として、ボードゲーム・カードゲーム企画を実施（対象：小金井市在住者）。	11月2日～4日	161名	
小金井祭での研究室紹介	小金井3学部の4研究室の研究室見学を開催（対象：小金井市在住者）。	11月2日～4日	76名	※参加研究室のうち申請した3研究室に対し「ボランティア活動・研究公開サポート制度助成」制度を適用。
小金井祭での屋台企画	小金井祭で屋台企画を実施（対象：小金井市在住者）。	11月2日～4日	15団体	
学内献血	日本赤十字社主催の学内献血に会場を提供。	12月7日	57名（献血協力者）	企画実行委員会の学生の協力を得て実施。
校内タバコ吸殻・ゴミ拾い	ボランティアセンター小金井職員が年間を通じて校内のタバコ吸殻・ゴミ拾いを実施。	4月～3月	1名	ボランティアセンター職員が実施。

以上

2023年度 小金井ボランティア活動・研究公開サポート制度採択状況（参考）

小金井キャンパスで実施しているボランティア活動・研究公開サポート制度の採択状況について、下記の通り報告する。

記

1 小金井ボランティア活動・研究公開サポート制度について

本制度は、小金井キャンパスにおける地域貢献を目的としボランティア等の活動を活性化することを目的に、2016年度より新設された。

小金井キャンパス周辺地域（小金井市・西東京市・三鷹市・武蔵野市・国分寺市・調布市）を対象としたボランティア活動や小金井祭における地域住民への正課研究の公開を目的とする活動をする小金井キャンパスに在籍する学部生・院生及び登録団体に対し、1回の活動につき10万円を上限、一団体年間2回まで助成する。企画の実施期間について、申請年度中に活動を実施し、完了することが条件となる。

活動実施1か月前までに申請することが必要で、毎年度12月上旬を最終受付としている。

2 2023年度の応募・採択状況

2023年度は3件の応募があり、全件採択された。

団体名	事業名	実施期間	助成額（円）
理工学部機械工学科 吉田研究室	小金井祭研究室紹介 加工計測・機能デザイン研究室の研究室紹介	11月2・3・4日	100,000
理工学研究科システム理工学 専攻 田中研究室	小金井祭研究室紹介 学際宇宙ゼミナールの研究室紹介・星野村プロジェクト	11月2・3・4日	100,000
理工学研究科生命機能学専攻 金子研究室	小金井祭研究室紹介 再構成細胞学研究室の研究室紹介	11月2・3・4日	100,000
合計			300,000

以上

ソーシャル・イノベーションセンター（多摩）について

2023年度 ソーシャル・イノベーションセンターの活動の概要・・・・・・・・・・114

2023年度 ソーシャル・イノベーションセンター学生団体紹介・・・・・・・・・・116

2023年度 ソーシャル・イノベーションセンター活動の報告・・・・・・・・・・117

ソーシャル・イノベーションセンター活動の概要

ソーシャル・イノベーションセンター
(多摩事務部多摩事務課学務担当)

1 ソーシャル・イノベーションセンター（以下、SIC）開設に伴う改組対応について

2023年4月に旧多摩地域交流センターと旧多摩ボランティアセンターが統合し、SICが発足した。SICは多摩事務部多摩事務課学務担当所管のセンターとなり、多摩キャンパスにおけるボランティア業務はSICにて全て対応している。

2 2023年度活動報告

(1) 学生ボランティアスタッフの募集

4月の新歓時期を中心に学生ボランティアスタッフを募集したが、昨年度からの継続8名（4年生2名、3年生2名、2年生4名）の体制のまま、新たに加入する学生がいない状況で、今年度の活動を実施した。

(2) 学生ボランティアスタッフの活動状況

2021年度よりチーム主体ではなく学生スタッフ全員に参加を呼びかける全体企画の運営が基本となっており、SICへ移管後も踏襲して対応している。また、今年度は新型コロナ5類に移行し、対面開催のイベントが主となっており、SICにはキャンパス近隣地域より多くのイベント実施に関する情報が寄せられているが、学生スタッフの体制を踏まえ、例年参加しているイベントを中心に活動を行った。

以下、学生スタッフが参加した外部イベントならびに学内で企画・開催したイベントである。

- | | | |
|------------|----------------------|----------------------|
| ①5月14日（日） | 第18回★学生天国★ | 参加学生：4名 |
| ②5月28日（日） | 境川クリーンアップ作戦 | 参加学生：6名 |
| ③9月23日（土） | 竹カフェ①～法大生と取り組む防災～ | 参加学生：5名、地域住民等17名 |
| ④10月14日（日） | つながりマルシェ | 参加学生：4名 |
| ⑤11月3日（金） | 相原スポーツ FUNDAY「走り方教室」 | 参加学生：1名（他、第二体育会より2名） |
| ⑥12月2日（土） | まちカフェ | 参加学生：3名 |
| ⑦2月17日（土） | 館ヶ丘団地「防災フェスティバル」 | 参加学生：3名 |
| ⑧3月2日（土） | 竹カフェ②～ボッチャ大会～ | 参加学生：4名、地域住民等13名 |
| ⑨3月9日（土） | つるかわ大交流会「ミライ大作戦」 | 参加学生：2名 |
| ⑩3月20日（水） | 学生活動報告会「ガクマチ EXPO」 | 参加学生：3名 |

(3) SIC 学生プロジェクトとの連携

今年度よりSICへ移行したことにより、旧多摩地域交流センターから活動を実施している学生プロジェクトとの連携にも着手した。SIC主催で実施する中間報告会（10月）では助成金を受けて活動する学生プロジェクトの中間報告とワークショップを行っているが、学生ボランティアスタッフにも同イベントに参加してもらった。SICで活動する一員であることを意識してもらうほか、SIC学生プロジェクト団体と、学生ボランティアスタッフのヨコの繋がりを作ることを意図とした。

秋以降には、学生プロジェクトで活動するイベントに学生ボランティアスタッフにも参加協力を求め

られるなど、SIC 所属ならではの新たな活動の幅が広がりつつある。

(4) 学生スタッフによる職員向け防災報告会の開催

1月12日(金)、学生ボランティアスタッフによる防災報告会を開催した。今年度の学生ボランティアスタッフは、防災をテーマにしたワークショップを開催する機会が多かったことから、SIC 担当職員から防災報告会開催の企画を設定した。職員の立場としては、学生スタッフが取り組む活動を理解することや防災対応の業務に生かすこと、学生スタッフには自分たちの活動の振り返りや次の世代に向けた引継ぎなどを意識してもらうことを目的とした。

防災報告会には多摩キャンパスで防災業務を担当する多摩事務部多摩事務課を中心に職員5名、SIC ボランティア学生スタッフ4名が参加し、今年度のボランティア学生スタッフ活動報告のほか、職員向けに机上での防災シミュレーションゲーム「ダイレクトロード」を体験する時間を設け、職員にとっても防災業務に生かせるよう工夫して開催された。

(5) ボランティア相談の状況

多摩キャンパスでは、特に現代福祉学部1年生の「フィールド体験実習」に伴うボランティア情報の収集のために、多摩ボランティアセンターを利用する学生が多い。今年度はSIC に業務移管し、継続的にサポートを行っているが、利用学生は例年に比して減少気味であった。

キャンパス内におけるボランティアセンター機能であるSIC の認知が低い可能性は否定できないが、現代福祉学部実習指導室との打合せの場を設けるなど、ボランティアを希望する学生に対する支援が滞ることの無いよう、引き続き対応を進めていく。

3 今後に向けて

2023年度はセンター改組に伴い、事務側も学生スタッフ側も手探り状態でボランティア活動に取り組んだ1年となった。しかしながら、多摩ボランティアセンターから築いてきた活動を継続すること、学生スタッフ創設以来の基本方針である「学生スタッフによる自律的な企画運営」は、SIC で掲げるイノベーションとして、「持続可能な」活動を続けていくことに当てはまる。

学生ボランティアスタッフの学びの場として、SIC が持つ資源を最大限活用し、今後も支援を続けていきたい。

ソーシャル・イノベーションセンター 学生団体紹介 ～スタッフ代表のことは～

2023年度の私達の団体は多摩地域交流センターと統合し、名前を一新しました。その名前は多摩ボランティアスタッフからSICボランティアスタッフです。活動内容としては、昨年度と同様に地域交流を主に行ってきました。そして、地域交流をするためにイベントの参加と企画を一年通して行いました。イベントの企画では「地域交流会竹カフェ」、イベントの参加では「学生活動報告会ガクマチ EXPO」、「まちカフェ」、「つながりマルシェ」などが挙げられます。地域交流会竹カフェでは夏と春の計2回行いました。夏には防災をテーマに地域住民の方々と非常食の試食会や防災のロードマップを通して交流をしました。春ではポッチャというスポーツを通して交流しました。まちカフェやつながりマルシェでは学校という防災カードゲームを通じて交流をしてきました。これらの交流を通して、コミュニケーションを取れる喜びや新たな発見を見つけることができました。

特に記憶に残っている活動は夏に行った竹カフェです。防災をテーマに交流ができるかと不安がありましたが、実際に開催してみると近隣の住民の方々が来てくださり、大変有意義な会となりました。話していく中で東日本大震災の時どうしていたかという話題があがりました。各々の当時の記憶を呼び覚ますと同時に地震の凄惨さと防災の意義を私たちに伝えてくれたと思います。

来年度も同じく、地域交流に目を向け活動を行っていこうと思います。特に防災をテーマに交流ができればよいと考えています。

2023年度 SIC 学生ボランティアスタッフ代表 森田 陸生

1. 八王子地域合同学園祭「第18回★学生天国★」

1 日程 2023年5月14日(日)

2 場所 JR八王子駅北口 西放射線ユーロード

3 概要

大学コンソーシアム八王子に加盟している25大学等に所属するサークルやゼミが、日ごろの活動や研究の成果を披露するイベント「第18回★学生天国★」に、ソーシャル・イノベーションセンターの学生ボランティアスタッフが参加しました。今回の出展テーマは、「身近なもので作れる防災グッズ作り」。ワークショップ形式で、新聞紙やキッチンペーパー、ゴミ袋を利用した、災害時・緊急時に使えるスリッパやマスク、レインコートの作り方を来場者の方にレクチャーしていきました。

4 学生参加者数 4名

5 参加者の感想

『★学生天国★』には今回が初めての参加だったのですが、多くの人を通る八王子駅前前でブースを出展させていただいて、色んな方に認知していただけたことが良かったです。ユーロードで実際に出展してみましたが、ブースに立ち止まる人は想定していたほどいなくて、歩きながらついでに寄ってみられる形の企画内容であればより注目してもらえるのかなと思いました。この反省を活かして、今後も『★学生天国★』に参加するときはお客さんのニーズを考えて必要な形で出展することを後輩たちに伝えていきたいと思っています。

様々な人に日用品を使った防災グッズを伝えていく中で、色々な考えを自分の中に取り入れることが出来たと思う。また、次回行くときの改善点も見つけることができた。余談ではあるが、法政大学の多摩キャンパスのOBの方々に会うこともでき、新鮮な気持ちになった。



多くの団体と交流する良い機会となった

2. 境川クリーンアップ作戦

1 日程 2023年5月28日(日)

2 場所 境川周辺

3 概要

実行委員会の方からお声がけいただき、町田市と相模原市の間を流れる境川の清掃を通じて、地域の人と人とのつながりを創生するプロジェクト「境川クリーンアップ作戦」に学生ボランティアスタッフが参加しました。

当日、学生たちは相模原市緑区橋本に架かる寿橋付近の清掃を担当し、活動を通じて地域の方々との交流を深め、ゴミ問題に対する意識を新たにしました。

4 学生参加者数 6名

5 参加者の感想

一見あまりゴミが落ちていないように見えたが、草のなかをよく見ていくと案外落ちていた。又、ゴミが海洋汚染であるマイクロプラスチックの問題に繋がっているのは新しい知見であった。

今回が初めての参加となった境川クリーンアップ作戦ですが、参加する前のイメージでは近隣に住む中高年の方や高齢の方が多く参加する清掃活動なのかと思っていましたが、当日僕たちが参加した橋本会場ではSICの学生スタッフ以外にも、ガクマチで一緒にさせていただいた桜美林大学の方々や近くの橋本高校の高校生など若い人たちが多くいて驚きました。僕たちは寿橋と呼ばれる橋から実際に川に下りて、川沿いや川中のごみを回収すべく活動していたのですが、川沿いも川中にもポイ捨てされたと思われるペットボトルや空き缶などが多く在り、清掃のし甲斐を非常に感じました。また、同じグループで一般の参加をしていた法政のOBの方は川中から大きいスケートボードを見つけられていて、こんな物が川に捨てられているのだと驚きました。

境川には、ゴミ以外にもガラスや陶器の破片が非常に多く落ちていました。釣りを楽しむ人や川遊びをする子供たちがいるそうなので、環境保全だけでなく境川の危険性も減らすことができたいと思います。地域の方々と交流しながら活動できたので、とても貴重な経験になりました。

地元の人だけでなく、高校生や大学生も多く参加していたので、いつものボランティアとはまた違った雰囲気でも活動でき、良い経験となった。



3. ～相原地区協議会大学連携事業～ 地域交流会「竹カフェ」

1 日程 2023年9月23日(土・祝)

2 場所 多摩キャンパス EGG DOME

3 概要

「竹カフェ」とは、相原地区協議会との連携事業として、多摩ボランティアセンターが毎年開催してきた地域交流会です。

今回の竹カフェは、「法大生と取り組む防災」をテーマに、防災食の試食会や災害協力シミュレーションゲームを実施し、地域の方17名にご参加いただきました。

防災食の試食会では、アルファ米を使用したカレーや携帯できるおにぎり、長期間保存できるポテトチップスなど、普段なかなか食べる機会のない防災食を数種類用意しました。「思っていたよりもおいしかった」という驚きの声が多く聞こえ、貴重な機会となりました。

災害協力シミュレーションゲームでは、神戸市が公開しているカードゲーム型の防災訓練教材「ダイレクトロード【内陸の町】」を使用。それぞれチームに分かれて、災害時の対応方法や情報共有の重要性について学びました。

4 学生参加者数 5名

5 参加者の感想

最初のアイスブレイクでうまく雰囲気づくりができてから、最後まで防災と地域を絡めながら交流が出来たと思う。当日の開催を通して感じたことは二つある。

一つ目は防災をカジュアルにして伝えていくのは難しいということだ。今回参加していただいた方々がどのような理由で参加していただいたかは不明だが、会話を通してやはり防災への意識が高い人が多いように見受けられた。そのような方々が参加して下さることは大変喜ばしいことである。だが、防災の意識がない人たちに対して伝えていくという課題が見えた。

二つ目は自主的な会話を引き出すことが難しいことだ。自分のコミュニケーション能力にも問題があるかもしれないが、自主的に話をひろげるとするのは難しい。そして、それが初対面なら尚更である。自分のグループでは最後の方には東日本大震災の話などが出てきて自然と話が盛り上がり、とてもよかったと思う。それには最初のアイスブレイクや食事、ロードマップといった相互に関わりあうきっかけがあったからだと思う。今までの八王子などで行っていた防災では一方的に教えることになっていた。なので、自分たちが教えて完結してしまうことが多かった。そのため、これからは防災をより多くの人に興味を持ってもらうために双方向的な取り組みをいれていくことが良いのではないかと考えた。

非常食が想像していたよりも美味しく、驚きました。さまざまな場面を想定し、アレルギー物質や水と火の使用などを考慮して非常食を備蓄する必要があると思います。また、ダイレクトロードは、初対面の方々と挑戦しました。実際の災害時もその場に居合わせた人と行動しなければならぬため、積極的な情報交換や話し合いが重要だと実感しました。

昨年までと比べて学生スタッフ側の人数が少ないため不安も大きかったが、無事に開催できてよかった。都合がつかずあまり準備に参加が出来なかったことが反省点である。当日はどのグループも会話が弾んでいる様子が見られ、防災について考えられる機会であると同時に、多世代交流の場にもなったということで、竹カフェを開催する目的に添っていたように感じられた。

今回の竹カフェでは、自分はグループの中で積極的に交流するというよりはドリンクを分けて運んだり、配膳された非常食を回収したりと裏方周りのお仕事をしていました。希望のドリンクを分けて運ぶのが想定していたよりも時間がかかってしまい、少し焦りましたが、他のスタッフも手伝ってくれてなんとかスケジュールを逸脱しないで進行できたかなと思います。交流できた時間は10分ほどと短かったですが、非常食について聞かれた質問に答えたり、参加された方の驚きのリアクションを直に感じたりして非常に達成感を感じていました。

主催：法政大学ソーシャルイノベーションセンター
企画：学生ボランティアスタッフ

たけカフェ

法大生と取り組む防災

9月23日

日時：9月23日(土) 13:00～15:00
場所：法政大学多摩キャンパス エッグドーム二階
スローワールドカフェ

定員：35名(先着順)
対象年齢：どなたでも(小学生以下は保護者同伴)
参加費：無料

内容

- 防災非常食の試食会
- 災害協力シミュレーションゲーム
- 地域交流

お問い合わせ先【SICへ】
電話：042-783-3014
メール：sic@ml.hosei.ac.jp
メールには氏名、年齢、所属(もしあれば)の記載をお願いします

また、「ダイレクトロード」では、ゲームの進行役として各グループがどのような感じで進めて、どのような話し合いがされているのかを見聞きするゲームマスターの役割をこなしていました。時間を管理しながらヒントを小出しにして伝えてく役割も、最初は聞いてもらえるか不安だったのですが、ゲーム中でも重要なヒントであったため静かに聞いてもらえたのが嬉しかったです。各グループで、悪戦苦闘している姿や何とか絵を口頭やジェスチャーで伝えようとしている姿を見て、ゲームマスターの視点から見るダイレクトロードは非常に面白いものであると新しく発見しました。

参加された方からのフィードバックでは、今回の竹カフェに関する満足度が非常に高いことが分かり、改めて今回の企画のユニークさやオリジナリティを活かすことが出来たのかなと思いました。



防災ゲームを行った



防災食はいずれも好評だった

4. つながりマルシェ

- 1 日程 2023年10月14日(土)
2 場所 相模大野ショッピングセンター station SQUARE

3 概要

さがまち学生 Club が主催する地域活性化イベント「つながりマルシェ」に、学生ボランティアスタッフが参加しました。

昨年は多摩ボランティアセンター(当時)としてブースを出展しており、学生たちは今年で2度目の参加となります。相模原・町田で地域活動を行う学生団体が10団体参加し、日ごろの活動を生かした企画を実施しました。

今回は「防災ゲームで盛り上がり！」をテーマに、防災カードゲーム「なますの学校」を実際に体験できるワークショップを実施しました。

「なますの学校」は、カードと紙芝居を使用した、小さな子どもでも楽しめる防災クイズゲームです。より多くの人に楽しんでもらうため、オリジナルルールの設定や、防災に関するアンケートを実施するなど様々な工夫をこらし、ブースには80名の方が訪れ、イベントは大いに盛り上がりました。

- 4 学生参加者数 4名

5 参加者の感想

今回のつながりマルシェでは、「なますの学校」体験ワークショップの出展に際して企画から関わり、企画を成功させるため・イベントを盛り上げるため・ボランティアスタッフを引っ張るために努力しました。企画としては、昨年度から変わらず「防災」をテーマにした企画を用いたいと思い、ゲーム形式で防災に関する知識やためになる情報を学ぶことが出来たら良いと考え、「なますの学校」を調べて選択しました。かつて、ポラセンで行ったことがあることや実際の評判なども参考にして決定しました。つながりマルシェ参加団体会議で企画を説明したり、デモプレイを体験した時から団体の方々から「面白い!」「当日もやってみよう!」との声が大きく反響が大きかったため、当日まで自信を持って準備に取り組むことが出来ました。当日は実際のお客さんの回転効率なども考えながら多少ルールをアレンジしたりしてなるべく多くの方に楽しんでもらうべく工夫をしました。その甲斐もあってか80名を超える方に来てもらったので、すごく嬉しかったです。

今回は相模大野駅前前で活動を行った。前回のつながりマルシェよりも人が多く、実際に自分たちのブースにも多くの人に足を運んでもらった。来てもらった子連れの人が多く、楽しんでもらえたのではないかなと思う。その中で自分が思ったこととしては、大人に向けた防災も必要なのではないかなと思った。今回はカードゲームを使った子供向けであり、保護者の方は後ろで見守っていた。だが、実際に防災をするのは大人が行う。そのことを踏まえると子供だけではなく、大人に向けた必要もあるのではないかなと思った。そのために子供と大人がいて、できるゲームや、ターゲットを大人だけに絞り、内容を少しシリアスにするというのも面白いのではないかなと思う。

これまでに参加したどのイベントよりもたくさんの方がいらっしまったのでやりがいを感じました。また、見慣れた他の団体の方と交流ができて良い経験をられました。

「なますの学校」では、身近なアイテムを選択するという点に関して子どもならではの柔軟な発想が見られ、驚かされる場面がありました。また、他の団体の企画も見学でき、今後のボランティア活動の参考になりました。ショッピングセンターに近いこともあり、ゲームを通じてさまざまな年代の方と関わることができたと思います。



子どもたちも多く参加



防災カードゲーム「なますの学校」



5. 相原スポーツ広場 FUN DAY

1 日程 2023年11月3日(金・祝)

2 場所 相原中央公園

3 概要

町田市相原中央公園内にあるスポーツ広場で開催されたスポーツイベント「相原スポーツ広場FUN DAY」に、学生ボランティアスタッフと、第二陸上競技部の学生が参加しました。

当日、学生ボランティアスタッフは子どもたちに正しい走り方を教える「走り方教室」のブースの受付業務を担当しました。

11月とは思えない気温の中でのイベントとなりましたが、第二陸上競技部の学生による熱心な指導で、たくさん子どもたちが楽しそうに走り回っていました。

4 学生参加者数 3名

5 参加者の感想

相原スポーツ広場FUNDAYは一昨年に続き2回目の参加でしたが、今年もたくさん子どもたちにお越しいただきました。その分、受付も大変で、子どもの名前を把握することも一苦労でした。日中は日差しが強く、気温も高い1日でしたが、受付の役割もあり、テントの中に待機していたので、子どもたちや外で実演する第二陸上競技部の皆さんに申し訳なく思いながら見守っていました。最終的にたくさん子どもたちに来ていただいたこと、第二陸上競技部ともつながりを再び持てたことが大きいと感じるイベントでした。



しっかりと準備運動



第二陸上競技部の学生によるレクチャー

7. 館ヶ丘団地「防災フェスティバル」

1 日程 2024年2月17日(土)

2 場所 館ヶ丘団地

3 概要

館ヶ丘団地の自治会と、ソーシャル・イノベーションセンター登録団体である「たまぼら」の「館ヶ丘プロジェクト」チームが共催する防災イベントに、学生ボランティアスタッフが参加しました。

当日は100名ほどが参加し、防災グッズの展示や非常食の試食、消火器訓練などを行いました。学生ボランティアスタッフは、防災カードゲーム「なまずの学校」の体験ブースを出展しました。また、団地の方々と防災に関するワークショップにも参加し、意見を交わしました。

4 学生参加者数 3名

5 参加者の感想

今回初めての館ヶ丘プロジェクトさんとの合同でイベントを行い、もともと本イベントが団地の方に向けて防災啓発を行うイベントであることは知っていましたが、その中に入って雰囲気や実態を感じることが出来ました。団地の方々は防災意識が高く、ブースの出展でもその後のワークショップでも鋭い意見があり、とても参考になりました。大学に近い場所でこういったイベントを行うことが大学生と地域の絆を深める良いイベントであると自分は感じました。



学生ボランティアスタッフのブース



団地の方々と防災ワークショップ

8. ～相原地区協議会大学連携事業～ 地域交流会「竹カフェ～ポッチャ大会～」

1 日程 2024年3月2日(土)

2 場所 法政大学 EGG DOME

3 概要

相原地区と法大生の交流イベント、通称「竹カフェ」の第2回を開催。

今回は、パラリンピックの公式種目で、年齢や性別、障がいの有無を問わず、交流を深めるのに最適なパラスポーツ「ポッチャ」の体験大会を実施しました。

学生ボランティアスタッフ4名と、地域の方々13名の計17名が参加し、全8チーム対抗でのリーグ戦を行いました。各対戦のスコアを記録し、得失点差によって全体の順位を決定。上位入賞者から、景品の法政グッズをゲットできる形式で、熱い試合が繰り広げられました。

試合が進むにつれ、参加者全員が打ち解け、和気あいあいとした雰囲気となり、地域の方と学生の交流を深める良い機会となりました。

4 学生参加者数 4名

5 参加者の感想

ポッチャは全ての人を楽しめるスポーツだと改めて実感しました。参加者の方々とは有意義な時間を共有できたと思います。竹カフェが地域交流の場になるよう今後も継続していきたいです。

ポッチャを通して地域の方々とは交流することができた。ポッチャをしていき多くの人が盛り上がってくれていたのがよかったのではないかなと思う。だが来てくださる人が直前まで中々集まらなかったのが今後の課題であると感じた。交流していく中で法政大学の駅伝の話であったり、地域の話というものが聞けたのでおおむね竹カフェの目指していたものが達成されていたのではないかなと思う。

開催が遅くなった経緯があり、今回も直前までなかなか人が集まり切らない状況がありましたが、13人もの地域の方々にお越しいただき、無事開催できたことですごくホッとしています。今回の竹カフェは開催時期や様々な制約など今までに経験していなかった難しさを感じました。しかしながら、実際にポッチャを楽しまれている学生や地域の方々を見て、本当に開催して良かったと思います。



スタッフによるルール説明



地域交流の良い機会となった

9. つるかわ大交流会「ミライ大作戦」

1 日程 2024年3月9日(土)

2 場所 和光大学

3 概要

和光大学のフードバンクサークル「はらぺこあおむし」からお声がけいただき、学生主催の地域交流イベント「ミライ大作戦」に学生ボランティアスタッフが参加し、防災カードゲーム「なますの学校」の体験ブースを出展しました。

和光大学の学生団体だけでなく、さがまち学生ClubやNPO法人SoELaも参加し、鶴川地域の方々と食事やクイズゲームなどを通じて交流を行い、イベントは大いに盛り上がりました。

4 学生参加者数 2名

5 参加者の感想

和光大学のはらぺこさん達のイベントに参加させていただきました。来客者はそれほど来ませんでしたが、学生や地域の活気を感じさせるイベントだと感じました。又自分たちで企画していくうえで様々なアイデアやイベントを企画していることに感心しました。

今回が初となる試みのイベントだとお聞きしましたが、学生団体だけでなく、地域で活動する趣味やボランティアの団体など様々な方とつながることが出来、非常に有意義な時間であったと思います。主催を行っている和光大学のフードバンクサークル「はらぺこあおむし」の皆さんで作ったベーコン丼が美味しかったです。

つるかわ大交流会
ミライ大作戦
2024.3.9 土 10:00~17:00
学生主催の地域を巻き込んだ一大イベント!
食べて、話して、歩いて
鶴川がもっと好きになる♪

参加団体(協賛)

さがまち学生Club 法政大学SIC NPO法人SoELa はらぺこあおむし

会場
和光大学
白樺2階, C棟1階, D棟1階, その他屋外

主催
和光大学フードバンクサークル【はらぺこあおむし】

お問い合わせ
mirai.daisakusen@gmail.com またはSNS
詳細はこちらから!

10. 学生活動報告会「ガクマチ EXPO」

1 日程 2024年3月20日(水・祝)

2 場所 町田市生涯学習センター

3 概要

町田や八王子、相模原などで活動する学生団体が自分たちの活動を地域にPRするイベント、学生活動報告会「ガクマチ EXPO」が開催され、ソーシャル・イノベーションセンターの学生ボランティアスタッフが参加しました。

今年のガクマチ EXPO は、来場者の積極的な参加を促し、自分たちの活動をよりよく周知するための試みとして、「生涯学習センター占拠」をテーマに、謎解きゲームのように、来場者が各ブースを巡り、そこで手に入れたキーワードを集めて回る形式で開催。

学生ボランティアスタッフは、昨年度から引き続き、年齢・性別・障がいの有無を問わず楽しんで交流を深められるパラスポーツ「ポッチャ」の体験会ブースを出展しました。気軽に参加していただけるよう、オリジナルルールを作るなどして工夫をこらし、当日はたくさんの方に参加していただいて交流を深めることができました。

また、他大学の学生団体の活動を知る良い機会にもなりました。

4 学生参加者数 3名

5 参加者の感想

今回が最後となる参加でしたが、たくさんの方に「ポッチャ面白い！」と言ってもらったことがすごく嬉しく、参加をして本当に良かったと思いました。既に熟を持ったイベントではありますが、まだまだ集客できる可能性を持ったイベントであると個人的には考えているので、来年度の開催のときには後輩たちに是非期待したいと思います。

前日準備からイベント当日までさまざまな団体の方々との交流を深めることができました。ポッチャでは、実演を取り入れた分かりやすい説明を心掛けました。参加者の中にはポッチャを詳しく知らない方もいて、今回の活動がポッチャに興味を持つきっかけになれば嬉しいです。



会場設営

学生活動報告会
ガクマチ EXPO
知らぬもの、出るべからず
生涯学習センター
占拠
学生とつながる！
3月20日(水・祝)
10:00~16:00
会場・主催：町田市生涯学習センター
お問合せ先：042-728-0071
入場無料・予約不要

2023年度採択された

助成金一覧・メディア掲載一覧

2023年度採択された助成金一覧

- 社会福祉法人 千代田区社会福祉協議会「養成事業助成金」に採択（市ヶ谷）
助成活動名：災害救援ボランティア講座 ⇒報告書は P.51 を参照



メディアへの掲載・各種広報実績

キャンパス	媒体名	発行時期・放送日	ボランティアセンタープログラム名・内容	実施日	番号	
市ヶ谷	広報誌「HOSEI」2023年4・5月号	2023年4・5月号	取材：市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ「VSP」長尾美紅 / 鶴田淳 記事タイトル：【学生活動紹介】BE Active～法大生の挑戦～	4月21日	①	
	NHK 災害について遊びながら学ぶ「防災ゲーム」 紹介する催し 東京	2023年7月2日	取材：市ヶ谷ボランティアセンター「チーム・オレンジ」 記事タイトル：災害について遊びながら学ぶ「防災ゲーム」 紹介する催し 東京	7月2日	②	
	首都圏 NEWS WEB 東京 千代田区 災害対策学生ボランティア 取り組み状況発表	2023年7月9日	取材：市ヶ谷ボランティアセンター「チーム・オレンジ」 記事タイトル：東京 千代田区 災害対策学生ボランティア 取り組み状況発表	9月21日	③	
	募金ニューズレター「きずな」	2023年12月号	取材：市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ チーム・オレンジ 磯網巴/VSP 長尾美紅 / 東京メトロ飯田橋駅ボランティア 鈴木瑛士 記事タイトル：人間力を育むボランティア活動	10月20日	④	
	法政大学「2023年度（第7回）『自由を生き抜く実践知大賞』大賞 防災ゲーム『ツナグ』	2023年12月25日	取材：市ヶ谷ボランティアセンター「チーム・オレンジ」 記事タイトル：防災ゲーム『ツナグ』の取り組み	12月16日	⑤	
	法政大学「2023年度（第7回）『自由を生き抜く実践知大賞』共感の輝賞	2023年12月25日	取材：市ヶ谷ボランティアセンター「東京メトロ飯田橋駅ボランティア」 記事タイトル：コロナ禍を乗り越えた地域貢献ボランティア	12月16日		
	京都市新聞	2024年1月1日	取材：市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ「チーム・オレンジ」 吉岡拓人 記事タイトル：地震だ！君ならどう行動？「遊びで教訓つなぐ」	9月21日 10月11日	⑥	
	福井新聞	2024年1月1日	取材：市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ「チーム・オレンジ」 吉岡拓人 記事タイトル：ゲームで学ぼう・防災のこと 命を守るぞ！楽しく備え「正しい判断重要」学生がゲーム考案 被災地の教訓基に			
	福島民報	2024年1月3日	取材：市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ「チーム・オレンジ」 吉岡拓人 記事タイトル：サークル仲間とゲーム作成			
	東奥日報	2024年1月3日	取材：市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ「チーム・オレンジ」 吉岡拓人 記事タイトル：ゲームで学ぼう・防災のこと 命を守るぞ！楽しく備え「正しい判断重要」学生がゲーム考案 被災地の教訓基に			
	千葉日報	2024年1月3日	取材：市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ「チーム・オレンジ」 吉岡拓人 記事タイトル：サークル仲間と「ツナグ」制作 とっさの判断を経験			
	愛媛新聞	2024年1月3日	取材：市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ「チーム・オレンジ」 吉岡拓人 記事タイトル：ゲームで学ぼう・防災のこと 生死分ける「とっさの判断」法政大・吉岡さん 津波の教訓伝える			
	河北新報	2024年1月4日	取材：市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ「チーム・オレンジ」 吉岡拓人 記事タイトル：ゲームで楽しく防災学ぶ 法大生制作 災害・場所組み合わせ避難判断 関心ない人引き込む			
	埼玉新聞	2024年1月6日	取材：市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ「チーム・オレンジ」 吉岡拓人 記事タイトル：ゲームで学ぼう・防災のこと とっさの判断 伝えたい 法政大・吉岡さん 津波の被災地から学ぶ			
	プレジデント Family 2024【春】号	2024年3月5日	取材：市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ「チーム・オレンジ」 吉岡拓人 / 幸良駿介 / 渡辺映乃 記事タイトル：【楽しく「親子防災」のススメ】瞬時の判断力を鍛えるカードゲーム			1月30日
暮らしの情報 Livika	2024年3月22日	取材：市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ「チーム・オレンジ」 吉岡拓人 記事タイトル：社会貢献活動 × Hosei Univ.	1月24日			⑧

メディア掲載概要（掲載誌（紙）・掲載日）※一部抜粋になります。



※① 広報誌「HOSEI」2023年4・5月号



※② 災害について遊びながら学ぶ「防災ゲーム」紹介する 催し 東京



※③ 東京 千代田区 災害対策学生ボランティア 取り組み状況 発表 | NHK 首都圏のニュース



※④ 募金ニュースレター「きずな」

受賞取組一覧

受賞名	受賞取組	実践主体
大賞	防災ゲーム『ツナグ』の取り組み	法政大学 チーム・オレンジ
卒業生からの継承賞	法政土業の会による『相続問題の基礎知識』	法政大学リカレント教育オフィス
共感の輝賞	コロナ禍を乗り越えた地域貢献ボランティア	東京メトロ飯田橋駅ボランティア
持続可能なデザイン賞	SIC 多摩産材プロジェクト	デザイン工学部建築学科 小堀哲夫研究室
社会の課題解決賞	残反プロジェクト	人間環境学部 金藤正直研究会アパレルチーム
進取の気象でチャレンジ賞	含昆虫食品の開発・販売と考察	法政大学国際高等学校 エコアクションプロジェクト
よき師よき友が選ぶ実践知賞	「繋」～多摩のプロフェッショナル～	多摩オープンキャンパスリーダーズ

※⑤ 自由を生き抜く実践知（一覧）



※⑤ 自由を生き抜く実践知（ツナグ）



※⑥ 新聞記事（千葉日報・河北新報）



※⑦ プレジデント Family 2024【春】号



※⑧ 社会貢献活動 × Hosei Univ

2023 年度 法政大学ボランティアセンター 活動報告書

発 行 2024年8月

発行者 法政大学ボランティアセンター

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

Tel: 03-3264-9516 Fax: 03-3264-5728

E-mail: ichigaya-vc@hosei.ac.jp

印 刷 株式会社エイチ・ユー 学内印刷室



市ヶ谷ボランティアセンター
市ヶ谷キャンパス外濠校舎1階
学生センター内
〒102-8160
東京都千代田区富士見2-17-1
TEL:03-3264-9516
FAX:03-3264-5728
Mail:ichigaya-vc@hosei.ac.jp

ソーシャル・イノベーションセンター
多摩キャンパス1号館(総合棟)2階
〒194-0298
東京都町田市相原町4342
TEL:042-783-3014
FAX:042-783-2167
Mail:sic@ml.hosei.ac.jp
※多摩ボランティアセンターは2023年4月より多摩地域交流センターと統合し、ソーシャル・イノベーションセンターとなりました。

小金井ボランティアセンター
小金井キャンパス
管理棟2階小金井学生生活課内
〒184-8584
東京都小金井市梶野町3-7-2
TEL:042-387-6041
FAX:042-387-6201
Mail:kgakusei@hosei.ac.jp